



SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ プロダクトノート

Copyright © 2007, 2013 オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社 All rights reserved.

オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、オラクル社および富士通株式会社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者からオラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、オラクル社および / またはその関連会社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Oracle and/or its affiliates and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.



免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関してオラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに ix

1. SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する新情報 1

SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する重要な新情報 1

既知の問題に関する新情報 2

ハードウェアおよび機器に関する問題 2

Solaris OS に関する問題 2

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題 2

Oracle VM Server for SPARC に関する問題 2

マニュアルの正誤情報に関する新情報 3

2. SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する重要な情報 5

DVD ドライブ / ディスクの使用について 5

サポートされる Solaris OS およびファームウェアのバージョン 6

特定機能に関する Solaris OS およびシステムファームウェアの要件 7

システムファームウェアのアップデート 8

Microsoft Windows 7 および Internet Explorer 8 のサポート 8

システムファームウェア 7.2.8 における変更および追加機能 9

ホストコンソールターゲットの変更 9

ファームウェアアップデート時のプロトコルの追加 9

プレインストールされるソフトウェア	10
論理ドメイン	11
サポートされている Sun Explorer ユーティリティのバージョン	11
パッチ情報	12
Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ情報	12
Solaris 10 5/08 OS の必須パッチ情報	13
Solaris 10 10/08 OS の必須パッチ情報	13
Solaris 10 5/09 OS の必須パッチ情報	13
▼ パッチをインストールする	13
オプションカード用のパッチ	14
富士通製 4Gbps ファイバチャネルカード搭載時の注意事項	14
留意点および制限事項	15
暗号化処理機能	15
保守要求 LED に関する留意点	15
ハードウェア RAID 機能	15
ケーブルマネジメントアーム	17
Express レールラックマウントキット	18
SAS RAID Internal HBA Card	18
SSD ストレージ	18
ブートデバイスとしての SSD の使用	19
SSD のキャッシュ設定	19
SSD の使用可能期間	19
SSD の予防交換監視機能	19
16 ディスクバックプレーン装置での SSD の使用	19
SSD をサポートするための LSI 1068e コントローラファームウェアの更新	20
RFID タグ	21
プロセッサ ID に関する留意点	22
200V 電源を使用する場合の留意点	22

3. 既知の問題 25

ハードウェアおよび機器に関する問題 26

Solaris OS に関する問題 31

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題 37

Oracle VM Server for SPARC に関する問題 46

4. マニュアルの正誤情報 47

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ 設置計画マニュアル』 47

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ インストールガイド』 51

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ サービスマニュアル』 51

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ アドミニストレーションガイド』 54

『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』 55

『Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5120/T5220
サーバ』 56

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 57

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』 59

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise
T5120/T5220 サーバ』 60

A. 修正済みの問題 63

ハードウェアおよび機器に関する問題 63

Solaris OS に関する問題 65

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題 89

システムファームウェア 7.4.2 以降で修正済みの問題 90

システムファームウェア 7.4.0.d 以降で修正済みの問題 91

システムファームウェア 7.3.1.a 以降で修正済みの問題 91

システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済みの問題 92

システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済みの問題 97

システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題 98

システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済みの問題	107
システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題	108
システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題	116
システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みの問題	131
システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済みの問題	140
システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済みの問題	142
システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済みの問題	145
その他のソフトウェアで修正済みの問題	147

B. 修正予定がない軽微な事象 149

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する事象	149
--------------------------	-----

はじめに

本書では、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する重要な情報、既知の問題、およびマニュアルの正誤情報について最新の情報を説明します。

注 – 本書に記載されている内容は、随時、最新の情報に更新されます。以下のウェブサイトにて最新版の有無を確認のうえ、SPARC Enterprise T5120/T5220サーバをご使用ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

マニュアルのダウンロード

SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバのマニュアルは、以下のウェブサイトから参照できます。

■ 日本語サイト

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

■ グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書に記載されている情報は、SPARC Enterprise T5120/T5220サーバのほかのマニュアルに記載されている情報よりも優先されます。

マニュアルへのフィードバック

本書に関するご意見、ご要望がございましたら、マニュアル番号、マニュアル名称および具体的な内容を以下のウェブサイトからご連絡ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

第 1 章

SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する新情報

この章では、前版の『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ プロダクトノート』では記載されていなかった、SPARC Enterprise T5120 サーバおよび T5220 サーバに関する新しい情報について説明します。

- [SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する重要な新情報](#)
- [既知の問題に関する新情報](#) -- 前版の公開後に特定された技術的な問題について説明します。
- [マニュアルの正誤情報に関する新情報](#) -- 前版の公開後に特定された正誤情報について説明します。

なお、前版で公開された情報は、次の各章に記載されています。

- [第 2 章](#) -- SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する重要な情報を説明します。
- [第 3 章](#) -- 技術的な問題について説明します。
- [第 4 章](#) -- マニュアル正誤情報について説明します。
- [付録 A](#) -- 修正済みの技術的な問題について説明します。
- [付録 B](#) -- 修正予定のない軽微な事象について説明します。

SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ に関する重要な新情報

本書の公開時点で新たにサポートされる機能はありません。

既知の問題に関する新情報

ここでは、前版のプロダクトノート公開以降に検出された技術的な問題について説明します。

ハードウェアおよび機器に関する問題

前版のプロダクトノート公開以降に検出された技術的な問題はありません。

Solaris OS に関する問題

前版のプロダクトノート公開以降に検出された技術的な問題はありません。

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

表 1-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

CR ID	説明	回避方法
16839239	ILOM 時刻が NTP サーバと時刻同期している場合に、ILOM のリセット、または電源コードの抜き差しを実施すると、Solaris OS の時刻がずれてしまうことがあります。	なし。 ILOM のリセット（ファームウェアのアップデートを含む）、または電源コードの抜き差しを実施した際には、必ずシングルユーザーモードにて、Solaris OS の時刻を確認してください。時刻がずれている場合は手動で時刻を再設定してください。

Oracle VM Server for SPARC に関する問題

前版のプロダクトノート公開以降に検出された技術的な問題はありません。

マニュアルの正誤情報に関する新情報

前版のPRODUCT NOTE公開以降に検出された正誤情報はありません。

第 2 章

SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する重要な情報

この章では、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する重要な情報について説明します。

この章は、次のセクションで構成されています。

- 「DVD ドライブ / ディスクの使用について」 (5 ページ)
- 「サポートされる Solaris OS およびファームウェアのバージョン」 (6 ページ)
- 「特定機能に関する Solaris OS およびシステムファームウェアの要件」 (7 ページ)
- 「システムファームウェアのアップデート」 (8 ページ)
- 「プレインストールされるソフトウェア」 (10 ページ)
- 「パッチ情報」 (12 ページ)
- 「留意点および制限事項」 (15 ページ)

DVD ドライブ / ディスクの使用について

本サーバに搭載されている DVD ドライブを使用する際の注意事項があります。次のサイトから『SPARC Enterprise での DVD ドライブ / ディスクの使用について』を参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

サポートされる Solaris OS および ファームウェアのバージョン

表 2-1 は、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバでサポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム（以降、Solaris OS）とシステムファームウェアのバージョンを示しています。

サーバにはサポートされる最新の Solaris OS、パッチ、およびファームウェアがプレインストールされています。サポートされる同じバージョンまたは別のバージョンをインストールする場合は、そのバージョンに必要なパッチを必ずインストールしてください。必要なパッチの情報については、「[パッチ情報](#)」（12 ページ）を参照してください。

注 -Solaris OS をインストールする場合、プレインストールされているバージョンと同じであっても、出荷時にプレインストールされていた追加ソフトウェアは利用できなくなります。プレインストールされているソフトウェアの詳細については「[プレインストールされるソフトウェア](#)」（10 ページ）を参照してください。

注 - オプション機能によっては、特定のバージョンの Solaris OS およびシステムファームウェアが必要になる場合があります。「[特定機能に関する Solaris OS およびシステムファームウェアの要件](#)」（7 ページ）を参照してください。

表 2-1 サポートされる Solaris OS およびファームウェアのバージョン

サポートされるバージョン	
Solaris OS	Solaris 10 8/07 OS および必須パッチ - サポートされる最小バージョン
	Solaris 10 5/08 OS およびパッチ
	Solaris 10 10/08 OS 以降
	Solaris 11 OS - サポートされる最新バージョン
ファームウェア	システムファームウェア 7.0.9 - サポートされる最小バージョン
	システムファームウェア 7.4.5 - サポートされる最新バージョン（2013 年 7 月時点）

注 -USB SATA DVD ドライブが搭載された本体装置に、Solaris 10 8/07 OS または Solaris 10 5/08 OS をインストールする場合は、「[Solaris 10 8/07 OS および Solaris 10 5/08 OS インストールに関する注意事項](#)」（33 ページ）を参照してください。

特定機能に関する Solaris OS およびシステムファームウェアの要件

表 2-2 は、特定機能を使用するために必要な Solaris OS およびファームウェアの最小バージョンを示しています。

表 2-2 特定機能に関する Solaris OS およびファームウェアの最小バージョン

機能	最小ファームウェアバージョン	最小 OS バージョン
メモリー混在*	7.1.6.d	N/A
PCI ボックスを使用するシステム	7.1.6.d	Solaris 10 10/08 OS
DC 電源により稼働するシステム	7.1.6.j	Solaris 10 10/08 OS
T5120 サーバにおける 8 ハードディスク構成	7.1.6.j	N/A
T5220 サーバにおける 16 ハードディスク構成	7.1.6.j	N/A
1.6 GHz プロセッサ	7.2.2.e	N/A
ILOM 3.0 ファームウェア	7.2.2.e	N/A
ハードウェア RAID	7.2.2.e	N/A
Oracle VM Server for SPARC†	—	—

* システムファームウェアが 7.1.6.d より前の本体装置に以下の増設メモリーを増設する場合、ファームウェアを 7.1.6.d 以降にアップデートする必要があります。
- 対象の増設メモリー：SESX2A2F (1GBx2) または SESX2B2F (2GBx2)
容量の異なる FB-DIMM は混在できませんのでご注意ください。詳しくは、当社技術員にお問い合わせください。

† 以前は、Logical Domains や LDoms と呼ばれていました。Oracle VM Server for SPARC を使用する場合の最小ファームウェアバージョン、最小 Solaris OS バージョン、および必須パッチ情報については、『Oracle VM Server for SPARC ご使用にあたって』を参照してください。

注 – 蓄積された機能、拡張機能、および修正パッチを有効に活用するには、システムファームウェアを、入手可能な最新のバージョンにアップグレードする必要があります。

システムファームウェアのアップデート

システムファームウェアによって、ホストおよびサービスプロセッサのさまざまな側面が制御されます。システムファームウェアは、次に示す個々のファームウェアコンポーネントで構成されています。

- Integrated Lights Out Manager (ILOM) ファームウェア
- OpenBoot PROM (OBP) ファームウェア
- Power-On Self-Test (POST) ファームウェア
- Hypervisor ファームウェア
- VBSC ファームウェア

システムファームウェアのアップデートは、パッチリリースとして提供されます。入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<https://updatesite.jp.fujitsu.com/unix/jp/download/firmware/>

システムファームウェアをアップデートすると、個々のファームウェアコンポーネントがすべてアップデートされます。ファームウェアコンポーネントを個別にアップデートすることはできません。サーバファームウェアのアップデートの詳細については、『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ インストールガイド』を参照してください。

Microsoft Windows 7 および Internet Explorer 8 のサポート

システムファームウェア 7.2.7 の時点で、ILOM のリモートコンソール機能は Microsoft Windows 7 および Internet Explorer 8 をサポートしています。

システムファームウェア 7.2.8 における変更および追加機能

ホストコンソールターゲットの変更

システムファームウェア 7.2.8 以降、ILOM におけるホストコンソールターゲットが、/HOST/console に変更されました。ただし、従来のターゲット /SP/console を直接指定することにより、従来どおり、ホストコンソールを取得できます。また配下のプロパティも、/SP/console 時と同様に使用できます。

システムファームウェア 7.2.8 以降におけるホストコンソールの取得方法は、以下のとおりです。

```
-> show /HOST/console

/HOST/console
  Targets:
    history

  Properties:
    escapechars = #.
    line_count = 0
    pause_count = 0
    start_from = end

  Commands:
    cd
    show
    start
    stop

-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y

Serial console started.  To stop, type #.

XXXXXX console login:
```

ファームウェアアップデート時のプロトコルの追加

システムファームウェア 7.2.8 以降、ILOM CLI インタフェースにおけるファームウェアアップデートで利用できるプロトコルが追加されました。従来の tftp に加えて、ftp, sftp, scp が利用可能です。

scp プロトコル実施例：

```
-> load -source
scp://xxxx:xxxx@XXX.XXX.XXX.XXX//mnt1/Firmware_Update/Huron/7.2.8/
/Sun_System_Firmware-7_2_8-SPARC_Enterprise_T5120+T5220.pkg

NOTE: An upgrade takes several minutes to complete. ILOM will enter a special
mode to load new firmware. No other tasks can be performed in ILOM until the
firmware upgrade is complete and ILOM is reset.

Are you sure you want to load the specified file (y/n)? y
Do you want to preserve the configuration (y/n)? y
.....
.....

Firmware update is complete.
ILOM will now be restarted with the new firmware.
```

プレインストールされるソフトウェア

ここでは、サーバにプレインストールされるソフトウェアについて説明します。プレインストールされたソフトウェアはすぐに使用できます。

表 2-3 プレインストールされるソフトウェア

ソフトウェア	場所	機能
Solaris 10 5/09 OS	root (/) パーティションはスライス 0 にインストールされています。コア OS はスライス 3 にインストールされていて、Live Upgrade 代替ブート環境 (ABE) として機能します。	オペレーティングシステム
CMT ツール 1.2	/opt/SUNWspro/extra/bin	Sun Studio Developer のツール
Cool Tools GCC v. 4.3.2	/opt/gcc および /opt/SUNW0scgfss	SPARC システム向け GCC コンパイラー
LDoms Manager 1.3	LDoms Manager: • /opt/SUNWldm LDoms MIB: • /opt/SUNWldmib	論理ドメインの管理
Oracle Studio 12 U1 Developer のツール	/opt/sunstudio12	C、C++、および Fortran のコンパイラー

注 -Solaris OS は、通常操作のために root ディスクのスライス 0 にプレインストールされているほか、代替ブート環境（ABE）を提供するため Live Upgrade ソフトウェアとともにスライス 3 にもプレインストールされています。ABE により、Solaris OS のアップグレードやシステム保守作業の実行がパフォーマンスの低下なしに可能となります。ルートパーティション（Solaris OS、EIS、およびアプリケーションを含む）と同一の（ブート可能な）コピーが、ABE としてスライス 3 にインストールされています。

論理ドメイン

論理ドメイン（Logical Domains）とは、SPARC プラットフォーム上で動作する仮想ハードウェア環境です。この機能を使用すると、1 つのプラットフォームを複数の仮想サーバ環境に分割し、それぞれで独立したオペレーティングシステムを実行することが可能になります。サーバの使用率、効率性、および投資回収率が向上するとともに、サーバの設置面積が小さくなります。

Oracle VM Server for SPARC（旧 Logical Domains Manager）ソフトウェアは、論理ドメインの作成と管理および論理ドメインと物理リソースの対応付けを行います。

注 -Logical Domains MIB は、使用する前に設定する必要があります。設定方法については、Logical Domains MIB インストールディレクトリ /opt/ldoms_mib にある README ファイルを参照してください。

Oracle VM Server for SPARC の詳細については、次のウェブサイトを参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/download/software/ldoms/>

サポートされている Sun Explorer ユーティリティのバージョン

Sun Explorer は、診断データ収集ツールです。このツールは、シェルスクリプトといくつかのバイナリー実行形式ファイルで構成されています。Sun Explorer は、Solaris OS 上で動作します。

SPARC Enterprise T5120 サーバおよび T5220 サーバは、Sun Explorer 5.10 以降のデータ収集ユーティリティーではサポートされますが、これより前のリリースのユーティリティーではサポートされません。次のように入力して、使用しているシステムに前のバージョンの Sun Explorer 製品がインストールされていないかどうかを確認してください。

```
# pkginfo -l SUNWexplo
```

前のバージョンが存在する場合は、それをアンインストールして version 5.10 以降をインストールしてください。Sun Explorer ユーティリティーの入手方法は当社技術員にお問い合わせください。

パッチ情報

パッチの入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<http://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/>

購入先に問い合わせサポートを受ける前に、すべての必須パッチがサーバにインストールされていることを確認してください。

Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ情報

表 2-4 は、Solaris 10 8/07 OS が動作しているサーバに必要な必須パッチを示しています。このパッチは Solaris OS とともに工場でインストールされています。Solaris 10 8/07 OS を再インストールする場合は、このパッチを再インストールする必要があります。

表 2-4 Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ

パッチ ID	説明	修正情報
127127-11 以降	SunOS 5.10: カーネルパッチ	以下の修正が含まれます。 • CR 6590132 : IPsec テスト時のシステムパニック (n2cp アラインメントエラー) • Sun Alert ID 103076 で報告された nxge ドライバにおけるデータ整合性 • CR 6568352 : ハードウェア暗号化プロバイダを使用しても、IPsec パフォーマンスは変動しません。

パッチが存在するかどうかを確認するには、「[パッチをインストールする](#)」(13 ページ) を参照してください。

Solaris 10 5/08 OS の必須パッチ情報

現時点で Solaris 10 5/08 OS に必須のパッチはありません。

Solaris 10 10/08 OS の必須パッチ情報

現時点で Solaris 10 10/08 OS に必須のパッチはありません。

Solaris 10 5/09 OS の必須パッチ情報

現時点で Solaris 10 5/09 OS に必須のパッチはありません。

▼ パッチをインストールする

1. システムにパッチがインストールされているかどうかを確認します。

たとえば、showrev コマンドを使用して、パッチ番号ごとに次のように入力します。

```
# showrev -p | grep "Patch: 127127"
```

- 照会したパッチのパッチ情報が示され、ダッシュ拡張子（最後の 2 桁）が必要なバージョンと一致するか、それより新しいバージョンを示している場合は、適切なパッチがシステムにすでにインストールされているので、それ以上の措置は不要です。

たとえば、パッチ 127127-11 以降がインストールされていれば、このパッチの必要なバージョンはシステムに存在しています。

- 照会したパッチのパッチ情報が示されない場合、またはダッシュ拡張子が必要なバージョンより前のバージョンを示している場合は、[ステップ 2](#)に進みます。

たとえば、パッチ 127127-09 が表示された場合は、パッチをダウンロードしてインストールする必要があります。

パッチ ID の末尾の 2 桁は、パッチのリビジョンを表しています。

2. 必要なパッチを入手します。

パッチの入手方法については、上述のウェブサイトを参照してください。

3. 各パッチの README ファイルで説明されているインストール方法に従います。

オプションカード用のパッチ

サーバにオプションカードを追加する場合は、それぞれのカードに関するマニュアルおよび README ファイルを参照して、追加のパッチが必要かどうかを確認してください。

富士通製 4Gbps ファイバチャネルカード搭載時の注意事項

富士通製 4Gbps ファイバチャネルカード（SE0X7F11F、および、SE0X7F12F）を搭載した場合、下記のパッチ適用が必要となります。

パッチの入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。パッチのインストール方法については、パッチに含まれる README ファイルを参照してください。

<http://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/>

対象オプションカード

- シングルチャネル 4Gbps ファイバチャネルカード（SE0X7F11F）
- デュアルチャネル 4Gbps ファイバチャネルカード（SE0X7F12F）

必須パッチ

- FUJITSU PCI Fibre Channel 4.0: 914583-04 以降

留意点および制限事項

ここでは、このリリースの SPARC Enterprise T5120 サーバおよび T5220 サーバにおける留意点および制限事項について説明します。

- 「暗号化処理機能」 (15 ページ)
- 「保守要求 LED に関する留意点」 (15 ページ)
- 「ハードウェア RAID 機能」 (15 ページ)
- 「ケーブルマネージメントアーム」 (17 ページ)
- 「Express レールラックマウントキット」 (18 ページ)
- 「SAS RAID Internal HBA Card」 (18 ページ)
- 「SSD ストレージ」 (18 ページ)
- 「RFID タグ」 (21 ページ)
- 「プロセッサ ID に関する留意点」 (22 ページ)
- 「200V 電源を使用する場合の留意点」 (22 ページ)
- 「Solaris 11 OS を使用する場合の留意点」 (23 ページ)

暗号化処理機能

暗号化処理機能を使用する場合は、Solaris 10 9/10 以降をインストールしてください。

Solaris 10 9/10 より前のバージョンで使用する場合は、パッチ 142909-17 以降を適用してください。

保守要求 LED に関する留意点

装置全体、ハードドライブ、FAN、PSU 等の保守要求 LED は、間欠故障などの原因によっては、点灯しない場合があります。

そのため、保守 LED だけでなく、Solaris OS の出力メッセージを確認のうえ、故障を判断してください。

ハードウェア RAID 機能

SPARC Enterprise T5120 サーバおよび T5220 サーバには、標準でハードウェアによる RAID 機能が搭載されていますが、以下のサポート条件、留意事項があります。

1. サポート条件

表 2-5 RAID 機能のサポート条件

項目	説明
必須 Solaris OS パッチ	141444-09 以降、または、PTF R10021 以降
必須 ESF (Enhanced Support Facility) パッチ	914604-07 以降
システムファームウェア	7.2.2.e 以降
RAID レベル	RAID1 (IM: Integrated Mirror) のみ RAID1 は、1 ボリュームあたり 2 本 ※ RAID0 (IS: Integrated Stripe) は未サポート
HDD	一つのボリューム内は、同一容量、同一回転数のディスク構成と してください。 ※ SSD は未サポート
ボリューム数	1 システムあたり最大 2 ボリュームまで

2. 留意事項

■ RAID 使用にあたっての注意事項

- 重要なデータやプログラムは定期的なバックアップを行ってください。故障によっては、RAID の再構築を行い、バックアップメディアからのリストア作業が必要となる場合があります。

また、停電時にデータを確実に保証するために、UPS の使用を推奨します。

- コントローラ、データパスの二重化など、より高度な可用性を必要とされる方は、専用の RAID システムを使用してください。

■ RAID1 構築・解除時の注意事項

- RAID の構築・解除を行う際には、ディスク内のデータは保証されません。稼働中のシステムに RAID を新規構築する場合や、構築した RAID を一旦解除する場合には、必ずデータのバックアップを行ってください。RAID 構築後に、新規インストール、またはバックアップメディアからのリストア作業が必要になります。
- RAID の構築または、保守による同期には、146GB の HDD で、約 1 時間かかります。
- RAID 構築中 / 同期中にシステム再起動が入ると、構築 / 同期は最初からやり直しとなります。
- RAID 化すると、ボリュームは、元のディスクのサイズより小さくなります。

■ RAID1 運用中の注意事項

- RAID コントローラがディスクを完全に故障と判断できず、システムスローダウンが発生する場合があります。この状態で、保守を行う場合には、以下の手順で行ってください。

1. RAID を解除します。
2. RAID 対象ディスクをすべて交換します。
3. RAID1 の再構築を行います。
4. バックアップメディアからのリストア作業を行います。

■ raidctl コマンドに関する注意事項

- raidctl コマンドの以下のオプションは、ハードウェアの仕様上サポートされていないため、使用できません。

```
raidctl -C -r 1E (RAID1E の作成)
raidctl -c -r 1E (RAID1E の作成)
raidctl -a (ホットスペアディスクの設定)
raidctl -p (キャッシュの設定)
raidctl -C -z (ボリューム容量の指定)
```

ケーブルマネジメントアーム

SPARC Enterprise T5120 サーバでは、ケーブルマネジメントアーム (CMA) をサポートしていません。

SPARC Enterprise T5220 サーバで CMA を使用する際には、下記条件があります。

- CMA に収容可能なケーブルの目安は以下のとおりです。
 - AC 入力電源モデル：AC ケーブル× 2 本と RJ-45 ケーブル× 6 本
 - DC 入力電源モデル：DC ケーブル× 6 本と RJ-45 ケーブル× 6 本
- 光ケーブルは CMA に収容せず、CMA の上のスペースを使用して配線してください。
- コアが取り付けられたケーブル (SCSI ケーブルなど) は CMA に収容せず、CMA の上のスペースを利用して配線してください。

なお、オプション製品の増設で下記条件の構成ができない場合には、CMA を取り外してください。

- コネクタのサイズが大きいケーブル (XVR-300、SAS カードなど) は上段の PCIe スロットに実装してください。

Express レールラックマウントキット

Express レールラックマウントキットを使用したサーバの取り付けは、サポートしていません。

SAS RAID Internal HBA Card

現在、SAS RAID Internal HBA Card の使用は、サポートしていません。

SSD ストレージ

ここでは 32GB SATA SSD（Solid State Drive）のサポートについて説明します。また、SSD を使用するために必要なファームウェアバージョンで SATA コントローラを更新する手順についても説明します。

SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバでは、内蔵ストレージ用に 32GB SATA SSD を使用できます。SSD はホットプラグに対応しています。既存の 2.5 インチ SAS ハードドライブを SSD と交換できます。また、2.5 インチ SAS ハードドライブと SSD の両方を同時に取り付けることもできます。

注 -T5120/T5220 サーバに搭載可能な 32GB SATA SSD の数は、最大搭載 HDD 数によって異なります。詳しくは、[表 2-6](#) を参照してください。

表 2-6 32GB SATA SSD の搭載可能数

	最大搭載 HDD 数	搭載可能 SSD 数	備考
T5120 サーバ	4	3	システムディスクを外付けのストレージ装置で使用する場合は、4 台まで搭載可能。
	8	4	
T5220 サーバ	8	7	システムディスクを外付けのストレージ装置で使用する場合は、8 台まで搭載可能。
	16	8	

SSD の取り付けおよび取り外しの方法については、『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ サービスマニュアル』に記載されている「ハードドライブのホットプラグ」の手順を参照してください。これらの手順は、ハードディスクドライブと SSD の両方に適用できます。

ブートデバイスとしての SSD の使用

SSD をブートデバイスとして使用することはできません。

SSD のキャッシュ設定

SSD は初期状態で内部キャッシュを有効とする設定となっています。キャッシュを有効とした状態で使用した場合、停電でデータが失われる可能性があります。

内部キャッシュは、Solaris OS の起動後、`format -e` コマンドのサブコマンド "cache" メニューを使用することにより無効に設定できます。なお、この設定は Solaris OS の再起動時には保存されません。

データを確実に保証するために、無停電電源装置（UPS）を使用することを推奨します。

SSD の使用可能期間

SSD は 5 年間を目安に設計しております。使用頻度などお客様の使用環境により保守対応期間（5 年）内に交換が必要となる場合があります。

SSD の予防交換監視機能

特定のバージョン以降の ESF（Enhanced Support Facility）では、SSD の予防監視機能がサポートされます。

サポートされるソフトウェアのバージョンは次のとおりです。

- サポートされるソフトウェアのバージョン

ESF（Enhanced Support Facility）3.0 ～ 3.1 および パッチ 914604-08 以降

16 ディスクバックプレーン装置での SSD の使用

16 ディスクバックプレーン装置で SSD を使用する場合、USB SATA DVD ドライブが搭載された本体装置のみ使用可能です。

USB SATA DVD ドライブが搭載されている本体装置は、2009 年 9 月以降に出荷された装置です。ご使用の装置に USB SATA DVD ドライブが搭載されているかは、以下のどちらかの方法で確認してください。

- DVD ドライブの正面に SATA DVD のマークがあるか確認する。
- 以下に示す ILOM/ALOM コマンドの出力結果に特定の部品番号が表示されるか確認する。

[ILOM コマンドモードの場合]

ls /SYS/PADCRD コマンドの出力結果に以下の部品番号が含まれるか確認してください。

```
fru_part_number = 5413512
```

または、

```
fru_part_number = 5413513
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

showfru /SYS/PADCRD コマンドの出力結果に以下の部品番号が含まれるか確認してください。

```
/Partner_Part_NumberR/Partner_Part_Number: CF005413512REVxx
```

または、

```
/Partner_Part_NumberR/Partner_Part_Number: CF005413513REVxx
```

SSD をサポートするための LSI 1068e コントローラ ファームウェアの更新

SSD を使用するためには、LSI 1068e コントローラファームウェア版数が 1.27.00.00 以上であることが必要です。ご使用の装置によっては、LSI 1068e コントローラファームウェアの更新が必要となる場合があります。コントローラファームウェアのアップデートはパッチリリースとして提供されます。入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<https://updatesite.jp.fujitsu.com/unix/jp/download/firmware/>

RFID タグ

2010 年 9 月以降に出荷される本体装置には、順次、RFID タグが添付されます。一時的に RFID タグが添付される装置と添付されない装置が混在する可能性があります。
図 2-1 および図 2-2 は、RFID タグの位置を示しています。

図 2-1 SPARC Enterprise T5120 サーバの外観（前面図）

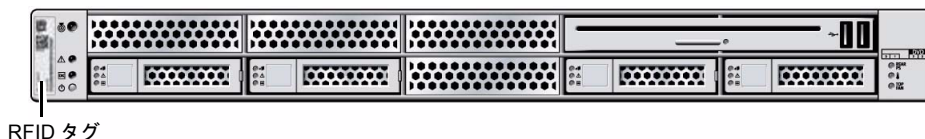


図 2-2 SPARC Enterprise T5220 サーバの外観（前面図）

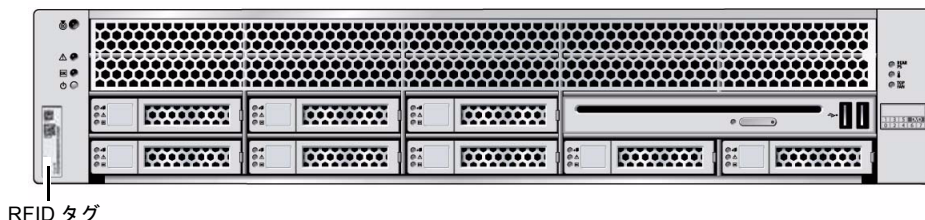
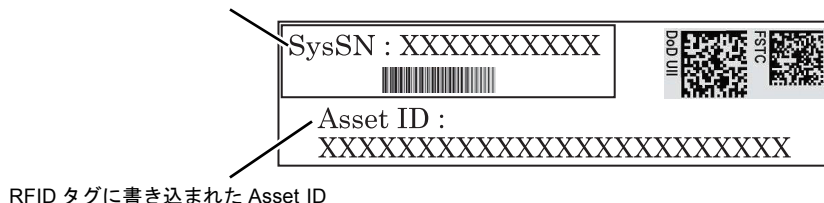


図 2-3 は、RFID タグの外観図を示しています。

図 2-3 RFID タグの外観図

サーバ本体のシリアルナンバー



RFID タグに書き込まれた Asset ID

プロセッサ ID に関する留意点

0 で始まらないプロセッサ ID や不連続なプロセッサ ID があります。

プラットフォームが異なる場合、および機種が同じでプラットフォームが異なる場合は、構成が同じでも異なるプロセッサ ID になることがあります。たとえば、UltraSPARC T1 CPU ベースのプラットフォームの場合、プロセッサ ID は 0 で始まりますが、UltraSPARC T2 CPU ベースのプラットフォームを含む、ほかのプラットフォームの場合、0 のプロセッサ ID がないことがあります。Solaris の `psrinfo` コマンドの出力は、UltraSPARC T2 プロセッサベースのプラットフォームの場合、次のようになります。

8	on-line	since 09/18/2007 21:26:25
9	on-line	since 09/18/2007 21:26:30
16	on-line	since 09/18/2007 21:26:30
17	on-line	since 09/18/2007 21:26:30

論理ドメインを実行している場合、プロセッサ ID が意味を持つことがあります。仮想マシン管理プログラムにより複数のゲストドメインを実行しているプラットフォームの場合、各ゲストドメインにエクスポートされるプロセッサ ID は、ほとんど抽象化されたものとして表されることがあります。各ゲストドメイン内では、ソフトウェアから見える各プロセッサ ID は一意の整数値です。

同じ物理マシン上の異なるゲストドメイン内で動作しているソフトウェアから見た仮想プロセッサ ID のセットは、同じ場合と、ゲストドメインごとに異なる場合があります。サーバが論理ドメインを実行している場合、仮想プロセッサ ID と物理プロセッサ ID が同一になることはありません。仮想 CPU 番号と物理 CPU 番号のマッピングについては、最新の『Oracle VM Server for SPARC 管理ガイド』を参照してください。

プロセッサ ID は、ソフトウェアが動作しているドメイン内で一意の整数値です。その整数値のタイプは `processorid_t` です。`p_online(2)` の `man page` も参照してください。

200V 電源を使用する場合の留意点

ロック機能有プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。ロック機能有プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

ご使用のサーバの電源コードタイプについては、当社技術員にお問い合わせください。

Solaris 11 OS を使用する場合は留意点

Solaris OS 起動時に、ILOM へのログイン/ログアウトを意味する Open/Close session のメッセージが ILOM のイベントログに複数回出力されます。

このメッセージは、Solaris OS 上の SMF サービス `ilomconfig-interconnect` が、起動時に内部バスを利用して ILOM にアクセスするために出力されます。このため、このメッセージは無視できます。

出力例：

```
3192  Mon Nov  7 15:36:43 2011  Audit      Log      minor
      host_root : Close Session : object = "/SP/session/type" : value = "shell"
: success
3191  Mon Nov  7 15:36:42 2011  Audit      Log      minor
      root : Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "shell" :
success
:
```


第 3 章

既知の問題

この章では、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに関する既知の問題について説明します。

この章は、次のセクションで構成されています。

- [「ハードウェアおよび機器に関する問題」 \(26 ページ\)](#)
- [「Solaris OS に関する問題」 \(31 ページ\)](#)
- [「ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題」 \(37 ページ\)](#)
- [「Oracle VM Server for SPARC に関する問題」 \(46 ページ\)](#)

注 - Solaris OS やシステムファームウェアの最新バージョンなどで修正済みの問題については、[「修正済みの問題」 \(63 ページ\)](#) を参照してください。サポートされる最新バージョンについては、[「サポートされる Solaris OS およびファームウェアのバージョン」 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

ハードウェアおよび機器に関する問題

ここでは、ハードウェアおよび機器に関する最新の問題を説明します。

誤った間欠 SATA エラーが、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ上で確認される（CR 6880299）

起動中、SATA DVD デバイス搭載の一部のシステムで、`/var/adm/messages` に間欠的にポート障害エラーが記録されます。以下に、標準的なエラーメッセージの例を示します。

```
/pci@400/pci@0/pci@1/pci@0/usb@0,1 (ohci1): Connecting device on port 1 failed
/pci@400/pci@0/pci@1/pci@0/usb@0,2 (ehci0): Connecting device on port 2 failed
```

回避方法： これらのメッセージは無視しても差し支えありません。

表 3-1 ハードウェアおよび機器に関する問題

CR ID	説明	回避方法
6901327	Solaris 10 10/09 において、RAID1 を構築後、ラベル情報が正しく書き込めないことがあります。	1. SunInstaller、または、シングルユーザーモードで Solaris OS を起動します。 SunInstaller から起動した場合は、一旦 SunInstaller を終了させてください。 2. <code>format -e</code> コマンドで、以下 2-1 ～ 2-3 を実行します。 2-1) 対象ディスクに対して、SMI label のラベル付けを行います。 2-2) 対象ディスクに対して、EFI label のラベル付けを行います。 2-3) 対象ディスクに対して、SMI label のラベル付けを行います。
6857080	ファームウェアバージョン 7.2.2.x のシステムで、ファン速度が低下します (5000 rpms)。その結果、ファン速度の低下を警告する SC Alerts が発生することがあります。	サーバ内部に流れ込む空気が周辺温度の仕様の範囲内であることを確認してください。
6840287	DVD メディアがインストールされているサーバの電源を再投入すると、Solaris OS 起動のおよそ 30 分後に「Device is gone」のメッセージが表示されます。	このメッセージは無視してください。

表 3-1 ハードウェアおよび機器に関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6823163	8 ディスクおよび 16 ディスクバックプレーン構成の本体装置において、ドライブベイスロットによって 32GB SATA SSD ドライブを取り付けられない場合があります。	1. バックプレーン上のすべてのねじを緩めます。 2. 角にあるドライブベイに SSD を取り付けます。 3. バックプレーンのすべてのねじを締めます。 4. 必要に応じて残りの SSD を取り付けます。
6706976	CD/DVD メディアの書き込み時に、CD/DVD ドライブがサポートしている最大速度に達しない場合があります。最大動作に達しない場合でも、CD/DVD メディアへの書き込みに支障はありません。	そのまま使用してください。
6674290	SPARC Enterprise T5220 サーバで、XAUI カードと PCIe カードが同じライザーアセンブリーに取り付けられている場合、サーバのブート時に XAUI カードで POST が失敗して無効になることがあります。	可能な場合は、PCIe カードを XAUI カードと同じライザーアセンブリーに取り付けないようにします。
6616232	電源ファン障害が自動的にクリアされません。電源ファン障害の検出後、そのファンが通常動作に戻ったあとも、障害表示が自動的にクリアされません。	ファン障害が発生した電源をオフにしてからもう一度オンにします。
6581309	XVR-300 を SPARC Enterprise T5xx0 シリーズのコンソールとして使用する場合は、パッチ 137111-01 以降を適用する必要があります。本パッチが適用されていない状態では、XVR-300 をコンソールとして使用するよう OpenBoot PROM (OBP) 変数を変更したあとも、コンソールの出力は Solaris のブート中にデフォルトの ILOM 側に戻ります。	XVR-300 をコンソールとして使用するには、OpenBoot PROM 変数の変更を行う前に、Solaris OS にパッチ 137111-01 以上を適用してください。 また、Solaris OS のインストール（再インストールも含む）を行う際は、ILOM をコンソールとして利用するよう設定した状態でインストール作業およびパッチの適用を行ってください。 この時点では、GUI は使用できません。 パッチの適用後、OpenBoot PROM 変数を変更することにより、XVR-300 をコンソールとして使用できます。

表 3-1 ハードウェアおよび機器に関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6574127 6480945	RAID 0 構成または RAID 1 構成でハードドライブが故障した場合は、コンソールまたはログファイルにエラーメッセージを表示しないようにすることができます。	RAID 0 構成または RAID 1 構成でディスクが故障し、次のシナリオに該当する場合は、磁気ディスクを交換する必要があります。 - RAID0 ボリュームまたは RAID1 ボリュームを構成する磁気ディスクの Fault LED が点灯している。 - showenvironment コマンドをサービスプロセッサ上で実行することによって、エラー状態をリモート表示することができる。 - Fault LED が点灯したハードドライブが Failed のステータスを示し、サービスインジケータが ON になっている。 Fault LED が点灯した磁気ディスクを交換します。
6556505	PCIe リンクが x8 としてトレインできないことがあります。 電源投入シーケンスまたはリセットシーケンス中に、UltraSPARC-T2 CPU の I/O ブリッジ (PCIe root コンプレックス) が PCIe インタフェースを正しくトレインしない場合、この問題が発生することがあります。	回避手順については、「 PCIe リンクが x8 としてトレインできない場合の問題 (CR 6556505) 」(29 ページ) を参照してください。
6550166 6667545	マザーボード上のコンポーネントが熱くて触れません。	システムシャーシ内のコンポーネントを交換するときは、コンポーネントが冷えるまで約 1 分間待ってから保守作業を実行してください。
なし	ホットスワッピングファンモジュールは、慎重に取り外す必要があります。	ファンモジュールを取り外す場合は、隣接するファンモジュールを動かさないようにして、隣接するファンモジュールが意図せず外れないようにします。
なし	RAID ボリュームが作成されると、すべてのディスクの LED が約 16 秒ごとに同時に点滅します。	LED の点滅は正常な状態であることに注意してください。
なし	システムが初期化されると、ファームウェアがロードされ、ホストメモリーの約 128MB から 352 MB が占有されます。パナーとその他のソフトウェアユーティリティは、メモリー総量からファームウェアによって占有されたメモリー量を引いた残量を報告します。	パナーは、ファームウェアが使用している量より少ないメモリー量を報告するので、注意が必要です。
なし	RJ-45 ポートを持った Ethernet カードを SPARC Enterprise T5120 に実装している場合、RJ-45 ケーブルの取り外しが困難な場合があります。	その場合には、プラスチックカードなど板状のものを使用して、RJ-45 ケーブルコネクタの爪を押しながらケーブルを取り外してください。

表 3-1 ハードウェアおよび機器に関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
なし	サービ斯拉ベルの On/Standby の部分に誤記があります。On/Standby ボタンを「5 秒間」長押しすると記載されていますが、正しくは「4 秒間」になります。	注 - この誤記は、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ構成のサービ斯拉ベル上にあります。
なし	一部のサービ斯拉ベルにおいて、4 段階のファンボード図の手順 2 に、余分なファンモジュールが描かれています。余分なファンは、FanBD0 の右半分にあります。	注 - この誤記は、4 ディスク構成バックプレーンを持つ SPARC Enterprise T5120 サーバ用のサービ斯拉ベル上にあります。
なし	サービ斯拉ベルの PCIe および XAUI スロットの位置を示している部分において、XAUI の引き出し線が間違っています。下側のスロットを指し示すべきです。	注 - この誤記は、SPARC Enterprise T5220 サーバ用のサービ斯拉ベル上にあります。
なし	サービ斯拉ベルの FM Status Indicator の部分に、間違った記載があります。「FanBD 上の FM の正面に」と書かれていますが、「FM の上に」とすべきです。	注 - この誤記は、SPARC Enterprise T5220 サーバ用のサービ斯拉ベル上にあります。
なし	ケーブルマネジメントアームを回転させている図は、違う機種種のサーバを示しています。SPARC Enterprise T5220 サーバの図を示すべきです。	注 - この誤記は、SPARC Enterprise T5220 サーバ用のサービ斯拉ベル上にあります。
なし	サービ斯拉ベルの Fan Module Configuration の部分が間違っています。FANBD1, FM1 の位置にあるファンモジュールを示すべきです。	注 - この誤記は、16 ディスク構成バックプレーンを持つ SPARC Enterprise T5220 サーバ用のサービ斯拉ベル上にあります。
なし	サービ斯拉ベルの anti-tilt legs の図はご使用のラックによって形状が異なる場合があります。	注 - この誤記は、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ構成のサービ斯拉ベル上にあります。
なし	RAID0 構成にてディスク故障が発生しても、障害ディスクが特定できません。	RAID0 は使用しないでください。
なし	RAID1 の構築、および、解除後にディスク装置が正しく認識されないことがあります。	サーバのリブート後に正しく認識されるようになります。

PCIe リンクが x8 としてトレインできない場合の問題（CR 6556505）

電源投入シーケンスまたはリセットシーケンス中に、UltraSPARC-T2 CPU の I/O ブリッジ（PCIe root コンプレックス）がまったくトレインしない、または 8 未満の線幅でトレインする問題がシステムに発生し、この問題が発生したことをユーザーに示すエラーまたは障害が生成されないことがあります。

▼ 問題を特定する

エラーまたは障害は報告されませんが、この問題が発生するとシステムがすべての PCIe I/O デバイスを使用できなくなるため、この問題を特定することは容易です。システムの電源をオンにするか、ドメインをリセットしてから、ディスクまたはネットワークデバイスからブートしようとした場合、次のようなエラーが表示されます。

```
{0} ok boot disk
Boot device: /pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0/disk@0  File and args:
ERROR: boot-read fail

Can't locate boot device

{0} ok
```

1. ok プロンプトで、show-devs コマンドを発行します。

2. 出力に PCIe デバイスが示されているか確認します。

PCIe デバイスが表示されていない場合は、この問題がサーバに発生しています

注 - すべての PCIe デバイスは、/pci@0/pci@0 というパスで始まります。

▼ 問題を修正する

1. すべてのドメインを停止し、システムの電源をオフにします。

2. POST を実行して、これが永続的な障害であるかどうかを判断します。

POST を有効にするには、setsc (ALOM CMT 互換 CLI コマンド) を使用します。また、POST が最大レベルで実行されるように設定します。

次に例を示します。

```
SC> setsc diag_mode normal
SC> setsc diag_level max
```

3. システムの電源をオンにします。

POST によって、CPU、メモリー、および I/O サブシステムのテストが実行されます。問題が残っている場合、POST で PCIe root コンプレックスがテストされず、/SYS/MB/PCIE コンポーネントが無効になります。

4. POST で問題が検出された場合は、マザーボードを交換してください。

Solaris OS に関する問題

表 3-2 に、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバでの Solaris OS の実行に関連する最新の問題の一覧を示します。

注 -Solaris OS に関する、より一般的な問題は、Solaris 10 のリリースノートに記載されています。

表 3-2 Solaris OS に関する問題

CR ID	説明	回避方法
6836653	以下のバージョンの Solaris OS では USB SATA DVD ドライブがサポートされていません。 • Solaris 10 8/07 OS • Solaris 10 5/08 OS 注 - Solaris 10 10/08 OS 以降の新しいバージョンの Solaris 10 OS では USB SATA DVD ドライブがサポートされています。	USB SATA DVD ドライブが搭載された本体装置に、Solaris 10 8/07 OS または Solaris 10 5/08 OS をインストールする場合は、インストールサーバから Solaris OS をインストールし、必須パッチ、最新の定期 PTF、および最新の推奨セキュリティパッチを適用してください。 インストール手順については、「 Solaris 10 8/07 OS および Solaris 10 5/08 OS インストールに関する注意事項 」(33 ページ) を参照してください。 USB SATA DVD ドライブの搭載有無を確認するには、「 USB SATA ドライブの搭載有無を確認する 」(34 ページ) を参照してください。
6835863	SunVTS 実施時に、以下の Warning メッセージが OS コンソールおよびシステムログに出力される場合があります。 メッセージ例： WARNING: ldc_close: (0xc) unregister failed, 11	なし。 システムに影響がないため、無視してください。
6617549	PSU 故障時などに、Solaris OS から出力されるメッセージの最後の 1 文字が表示されません。	なし。
6617544	prtdiag コマンドで富士通製カードの fiji 情報が表示されません。	なし。
6607315	Solaris OS がブートしてから 5 秒後にログインプロンプトがリセットされます。 この問題が発生するのは、ローカルキーボードを入力デバイスとして使用している場合のみです (input-device=keyboard)。この問題は仮想コンソールでは発生しません。	入力デバイスとして仮想コンソールを使用します。

表 3-2 Solaris OS に関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6606950	10 Gb イーサネットのパフォーマンスのための /etc/system の重要な設定があります。 注 - プレインストールされている Solaris OS は、/etc/system ファイルに正しいエントリが設定されています。	Solaris OS を再インストールした場合、次の行を /etc/system ファイルに追加する必要があります。 set ip:ip_soft_rings_cnt=16 /etc/system をこのように設定することにより、10 Gb イーサネットインタフェースのパフォーマンスが最適になります。
6564180	Solaris OS の locator コマンドがサーバ上で機能しません。	代わりに、ILOM または ALOM CMT 互換の locator コマンドを次のように使用します。 • ILOM CLI から -> show /SYS/LOCATE/ -> show /SYS/LOCATE/ value=off -> show /SYS/LOCATE/ value=on • ALOM CMT 互換 CLI から SC> showlocator SC> setlocator on SC> setlocator off
6553515	ブート中またはそのあと、PCIe ネットワークリンクの一時的な障害が発生すると、システムに障害が発生することがあります。 ファームウェアが制御権を得る前にリンクが再び稼働状態になった場合、エラーは、残りのステータスを処理するファームウェアの問題です。このエラーの例については、「ブート中の PCIe リンクの一時的な障害が原因で、致命的なエラーが発生する (CR 6553515)」(36 ページ) を参照してください。	この問題が原因でシステムがブートに失敗する場合は、再試行します。
6519290	スワップデバイス上の大量の I/O が I/O 性能をはるかに上回ることによって、システムがハングアップしたように見える場合があります。	必要とされる I/O の量は、メモリーの不足や /tmp の頻繁な使用など、さまざまな方法で生成される可能性があります。 以下を /etc/system のファイルに追加してから、Solaris OS をリブートしてください。 set maxfastscan=0x2000

表 3-2 Solaris OS に関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6373437 6588499	Solaris OS のシャットダウンが異常停止し、システムサービスが減少することがあります。 まれに、Solaris OS のブート直後にシャットダウンが実行されると、システムが異常停止することがあります。これは、他のシステムサービスがまだ起動プロセスにある間に、一部のシステムサービスが停止を試みるのが原因です。異常停止が発生すると、次のようなメッセージが表示されます。 svc.startd: The system is coming down. Please wait svc.startd: 74 system services are now being stopped	サービスプロセッサ（SP）からシステムをリブートします。次の方法のいずれかを使用して、ホストシステムの電源をオフにしてからもう一度オンにします。 • ILOM CLI から -> stop /SYS -> start /SYS • ALOM CMT 互換 CLI から sc> poweroff sc> poweron sc> powercycle
6237994	DMI への登録が失敗し、err=831 メッセージが表示されることがあります。	起動時に dmi サービスを無効にします。次に例を示します。 % mv /etc/rc3.d/S77dmi /etc/rc3.d/_S77dmi
なし	raidctl -h コマンドおよびraidctl の man page の出力に、サポートされていない機能が表示されます。	現時点では、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバは、オンボードの SAS コントローラに対して RAID 0 と RAID 1 のみをサポートします。 raidctl ユーティリティを使用すると、RAID 0 ボリュームと RAID 1 ボリュームを作成および削除できます。サポートされている RAID については、『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ アドミニストレーションガイド』を参照してください。

Solaris 10 8/07 OS および Solaris 10 5/08 OS インストールに関する注意事項

Solaris 10 8/07 OS および Solaris 10 5/08 OS では、USB SATA DVD ドライブがサポートされていません。

USB SATA DVD ドライブが搭載された本体装置に、Solaris 10 8/07 OS または Solaris 10 5/08 OS をインストールする場合は、インストールサーバから Solaris OS をインストールし、必須パッチ、最新の定期 PTF、および最新の推奨セキュリティパッチを適用してください。

以下に手順を示します。

1. インストールサーバにインストールイメージを作成します。

作成例：

ここでは、DVD 媒体は '/cdmnt' にマウントされている場合を想定しています。

```
# mkdir -p /export/home/dvd
# cd /cdmnt/Solaris_10/Tools
# ./setup_install_server /export/home/dvd
# share |grep /export/home/dvd
# share -F nfs -o ro,anon=0 -d "install server directory" /export/home/dvd
# svcs -l svc:/network/nfs/server:default
# svcadm enable svc:/network/nfs/server
# shareall
# cd /
# eject cdrom
```

2. インストールサーバから Solaris OS をインストールします。

3. 最新の定期 PTF および最新の推奨セキュリティパッチを適用します。

「[パッチ情報](#)」(12 ページ)に記載されている必須パッチは、定期 PTF R08111 以降に集約されています。予防保守の観点から、最新の定期 PTF および最新の推奨セキュリティパッチを適用してください。

最小限の必須パッチのみを適用する場合には、以下の順番でパッチを適用します。

■ Solaris 10 8/07 OS の場合：

```
# LANG=C;export LANG
# patchadd 119254-51
# patchadd 125891-01
# patchadd 127755-01
# patchadd 127127-11
```

■ Solaris 10 5/08 OS の場合：

必須パッチはありません。

4. Solaris OS を再起動します。

```
# shutdown -i6 -g0 -y
```

USB SATA ドライブの搭載有無を確認する

USB SATA DVD ドライブが搭載されている本体装置は、2009 年 9 月以降に出荷された装置です。ご使用の装置に USB SATA DVD ドライブが搭載されているかは、以下のどちらかの方法で確認してください。

■ DVD ドライブの正面に SATA DVD のマークがあるか確認する。

- 以下に示す ILOM/ALOM コマンドの出力結果に特定の部品番号が表示されるか確認する。

[ILOM コマンドモードの場合]

ls /SYS/PADCRD コマンドの出力結果に以下の部品番号が含まれるか確認してください。

```
fru_part_number = 5413512
```

または、

```
fru_part_number = 5413513
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

showfru /SYS/PADCRD コマンドの出力結果に以下の部品番号が含まれるか確認してください。

```
/Partner_Part_NumberR/Partner_Part_Number: CF005413512REVxx
```

または、

```
/Partner_Part_NumberR/Partner_Part_Number: CF005413513REVxx
```

Forced Speed/Duplex によって 100Mb/Full が e1000g.conf に設定されると、Ierrs が生成される (CR 6555486)

調査の結果、これまで広報していましたが発生条件では、この問題は発生しないことが判明しました。この問題は、e1000g ドライバが Auto-negotiation オフで、かつ、接続するネットワーク機器が Auto-negotiation オンの場合における IEEE802.3 の仕様動作です。

(e1000g ドライバ以外のドライバにおいても同様の動作となります。)

e1000g ドライバも、他の LAN ドライバと同様に以下の設定が可能です。

- Auto-negotiation : オフ
- Speed : 100Mbps
- Duplex : Full

ただし、接続するネットワーク機器の設定は、デフォルトでは Auto-negotiation オンの場合が多いため、LAN ドライバの設定を Auto-negotiation オフにした場合、接続するネットワーク機器の設定が Auto-negotiation オンのままであるために、この問題が多く発生しています。そのため、LAN ドライバの設定は Auto-negotiation オンに設定していただくことを推奨します。

ブート中の PCIe リンクの一時的な障害が原因で、致命的なエラーが発生する（CR 6553515）

ブート中またはそのあと、PCIe リンクの一時的な障害が発生すると、システムに障害が発生することがあります。ファームウェアが制御権を得る前にリンクが再び稼働状態になった場合、エラーは、残りのステータス进行处理するファームウェアの問題です。エラーメッセージの例を次に示します。

```
{0} ok 4000 dload users/bog/rustn2obp_0502
Boot device:
/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@2/network@0:,users|bog|rustn2obp_0502 File
and args:
FATAL: /pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@2/network@0: Last Trap: Non-
Resumable Error
TL: 1
%TL:1 %TT:7f %TPC:f0238978 %TnPC:f023897c
%TSTATE:820001600 %CWP:0
%PSTATE:16 AG:0 IE:1 PRIV:1 AM:0 PEF:1 RED:0 MM:0 TLE:0 CLE:0 MG:0 IG:0
%ASI:20 %CCR:8 XCC:nzvc ICC:Nzvc
%TL:2 %TT:3f %TPC:f024327c %TnPC:f0243280
%TSTATE:14414000400 %CWP:0
%PSTATE:4 AG:0 IE:0 PRIV:1 AM:0 PEF:0 RED:0 MM:0 TLE:0 CLE:0 MG:0 IG:0
%ASI:14 %CCR:44 XCC:nZvc ICC:nZvc
Normal GL=1
0: 0 0
1: f0200000 0
2: f0200000 0
3: fff78000 0
4: fec320fc 3ffe60000
5: f02833e4 3ffe60000
6: fee826c8 3ffe60600
7: fee817d8 f02432bc
%PC f0238978 %nPC f023897c
%TBA f0200000 %CCR 8200016 XCC:nzvc ICC:nZvc
{0} ok
```

回避方法：この問題が原因でシステムがブートに失敗する場合は、再試行します。

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

表 3-3 に、ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する最新の問題の一覧を示します。いくつかの問題に関する追加情報を表のあとに示します。

表 3-3 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

CR ID	説明	回避方法
11210193	POST 実行中にエラーが発生し、ALOM CMT 互換の showfaults コマンドでエラー状況を確認すると "Fault Sensor VCORE_POK at /SYS/MB deasserted" が記録されていることがあります。ただし、POST は正常終了します。 例については、「POST 実行時、showfaults コマンドではエラーが記録されるが POST は正常終了する (CR 11210193)」(42 ページ) を参照してください。	なし。 この現象が発生した場合は、ALOM CMT 互換の resetsc コマンドを実行し、ログおよび LED をクリアしてください。
7110871	"/SP/services/https weak_ciphers" を disabled から enabled に変更するとき、または、enabled から disabled に変更するとき、ILOM の Web サービスの再起動に失敗する場合があります。 この事象が発生すると ILOM の BUI に接続できなくなります。	なし。 この事象から復旧するには、ILOM をリセットしてください。

表 3-3 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
7046705	システム稼働中に間欠で、電源センサーが入力電源を再検知した内容のメッセージが、Solaris OS のシステムログ（/var/adm/messages）に出力されることがあります。このとき、ILOM のステータス確認コマンド（show faulty コマンド）は正常な状態を示しています。 事象発生時刻： <pre>Jan 5 23:34:52 xxxxxxxx SC Alert: [ID 494714 daemon.alert] IPMI critical: ID = 116 : 01/05/2011 : 23:34:51 : Voltage : /PS1/AC_POK : State Deasserted Jan 5 23:34:57 xxxxxxxx SC Alert: [ID 210946 daemon.notice] IPMI minor: ID = 117 : 01/05/2011 : 23:34:57 : Voltage : /PS1/AC_POK : State Asserted</pre> show faulty コマンド例： <pre>-> show faulty Target Property Value -----+-----+-----</pre> ->	なし。 ファームウェアの電源監視において、該当電源センサーが無視可能な入力電源のブレを過敏に検知してしまう場合があるため、該当メッセージが出力されます。このため、該当メッセージは無視してください。
7020694	システムファームウェア 7.3.0.c 以前および部品番号 CF00511-1604 の配電盤を搭載した SPARC Enterprise T5120 サーバにおいて、PSU 障害が発生すると、ILOM が間違った PSU を特定します。	ILOM の show /SYS/PDB コマンドを使用して、ご使用のサーバの配電盤の部品番号を表示します。 システムファームウェア 7.3.0.c 以前および部品番号 CF00511-1604 の配電盤を搭載したサーバにおいては、ILOM のイベントログではなく、PSU の LED を見て、どの PSU に障害が発生しているかを特定してください。

表 3-3 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6932448	システムの初期化、ファームウェアのアップグレード、またはシステムコンポーネントの変更を行った場合、システム起動時にデバイス（存在しないデバイスも含む）の活性挿抜に関するメッセージが表示されます。 メッセージ例： Chassis major: Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P0 または SC Alert: [ID 639621 daemon.error] SC unretrieved msg: [Chassis major: Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/P3] Chassis major: Hot removal of HDD3 または SC Alert: [ID 677427 daemon.error] SC unretrieved msg: [Chassis major: Hot removal of HDD3]	なし。 該当オペレーションにより、ILOM ファームウェアが構成認識を実施しているためにメッセージが表示されます。これらのメッセージは無視してください。
6913388	ILOM のイベントログが、Solaris OS のシステムログ（/var/adm/messages）に出力されなくなることがあります。 ILOM ログインイベントの例： Nov 7 14:13:03 xxxxxx SC Alert: [ID 178418 daemon.notice] Audit minor: admin : Open Session : object = /session/type : value = shell : success Nov 7 14:13:04 xxxxxx SC Alert: [ID 434268 daemon.notice] Audit minor: admin : Close Session : object = /session/type : value = shell : success	なし。 ILOM のリセット操作を実施してください。復旧しない場合には、システム停止後、電源コードを抜き差ししてください。 ILOM リセット操作例： ILOM にログインし、以下のコマンドを実行します。 [ILOM コマンドモードの場合] -> reset /SP Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y [ALOM CMT 互換シェルの場合] sc> resetsc Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y
6853383	Solaris OS パニック発生後、OS のパニックコアダンプの採取中に、まれに ILOM のウォッチドッグタイマー機構が異常と検出し、システムをリセットする場合があります。この場合、OS のパニックコアダンプは採取されません。	なし。

表 3-3 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6835866	/SYS/VPS で示す消費電力の値 (/SYS/VPS value)	なし。
6857524	が閾値を超えることがあります。	/SYS/VPS で示す消費電力の値は目安です。
6858176	このとき、以下のようなイベントログが採取されます。 イベントログ例： 4368 Mon Jun 29 23:53:39 2009 IPMI Log major ID = elf : 06/29/2009 : 23:53:39 : Power Unit : /SYS/VPS : Upper Critical going high : reading 1480.90 > threshold 1215.40 Watts	消費電力の正確な値は、 /SP/powermgmt/actual_power を参照してください。よって、採取されたイベントログは無視してください。
	また、消費電力の値 (/SYS/VPS value) が閾値以下に戻った際に、異常値を表示することがあります。	
	異常値の表示例： 4369 Mon Jun 29 23:54:28 2009 IPMI Log minor ID = e20 : 06/29/2009 : 23:54:28 : Power Unit : /SYS/VPS : Upper Critical going low : reading 0 < threshold 1215.40 Watts	
6823561	ILOM 設定のバックアップおよび復元機能において、転送時のプロトコル (transfer_method プロパティ) に、"https" を指定することができません。 現象例： -> set dump_uri=https://ipaddress/directory/filename set: Unable to transfer image, please check URI	なし。 他のプロトコル (tftp、ftp、sftp、scp、http) を使用してください。
6614432	誤った電源障害が表示されることがあります。 例については、「 電源障害の誤表示 (CR 6614432) 」(43 ページ) を参照してください。 入力電圧が 90V ～ 94V AC の範囲にあるとき、一部のサーバが低 AC ライン入力電圧障害を報告します。このしきい値は誤っており、電圧が 90V AC 未満に低下しないかぎり、AC 入力障害ではありません。	両方のサーバ電源が稼働していることを確認します。両方の電源が稼働していれば、障害の誤表示の間も誤表示のあとも、サーバの電源はオンの状態を維持します。

表 3-3 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6591634	システム起動時の OpenBoot PROM 動作中に、ILOM から強制ダンプ指示を実行すると、FATAL エラーメッセージがコンソールログに出力され、次の boot 指示が失敗します。 事象発生例： <pre>{0} ok FATAL: /virtual-devices@100/console@1: Last Trap: Non-Resumable Error : : {0} ok boot FATAL: system is not bootable, boot command is disabled</pre>	この事象から復旧するには、システム電源をオフにしたあと、オンにしてください。 OpenBoot PROM が無応答になった場合は、強制ダンプ指示ではなく、break 指示を ILOM から実施してください。break 指示で復旧しない場合は、システム電源をオフにしたあと、オンにしてください。
6583567	プライマリドメインとサービスプロセッサ（SP）の間の通信チャネルが異常停止し、このチャネルでの通信がダウンすることがあります。	「プライマリドメインとサービスプロセッサ（SP）の間の通信チャネルが異常停止することがある（CR 6583567）」（43 ページ）を参照してください。
なし	本体装置の USB ポートにキーボードを接続している環境において、Solaris OS を再起動したとき、OpenBoot PROM が "Failed to set idle" のメッセージをコンソールログに出力することがあります。 現象例： <pre># /usr/sbin/shutdown -i6 -y -g0 : Resetting... Failed to set idle <--</pre> SPARC Enterprise T5120, Keyboard Present Copyright (c) 1998, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.	なし。 OpenBoot PROM の問題により、USB キーボードに対する idle 設定終了後のデータ参照に問題があります。このため、本体装置および接続された USB キーボードに影響ありません。出力されたメッセージは無視してください。
なし	Solaris OS のシステムログに、不要な ILOM ファームウェアのメッセージ "PCM Initialize event detected" が出力されることがあります。 メッセージ例 <pre>SC Alert: [ID 203687 daemon.notice] Chassis minor: PCM Initialize event detected</pre>	なし。 システムへの影響はありません。出力されたメッセージは無視してください。

表 3-3 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
なし	Solaris OS から、システムファームウェアダウンロードコマンド (sysfwdownload) を利用して、ILOM ファームウェアのアップデートを行うと、以下のメッセージを出力し、アップデートが失敗することがあります。 障害時の実施例 # ./sysfwdownload Sun_System_Firmware-7_1_3_d-SPARC_Enterprise_T5120+T5220.pkg sysfwdownload: send/receive failed(2) - "ret = -7" #	なし。 ILOM のリセット操作実施後、再度 ILOM ファームウェアのアップデートを実施してください。
なし	Cisco Systems 製 Cisco Catalyst スイッチシリーズに ILOM のネットワーク管理ポート (NETMGMT) を接続した環境で、スイッチングの再起動やネットワークポートの有効/無効操作を実施すると、Cisco Catalyst スイッチおよび ILOM のネットワークポートの LED が点灯せずにネットワークがリンクアップしないことがあります。このため、SSH (Secure Shell) などを利用した ILOM へのアクセスに失敗します。	Cisco IOS ソフトウェア 12.2(53)SG / 12.2(46)SE 版以降を適用してください。 12.2(53)SG / 12.2(46)SE 版以降が適用できない場合には、Cisco Catalyst スイッチと ALOM/ILOM のネットワーク管理ポートの間に他のハブ/スイッチを組み込むことで、この事象を回避できます。 なお、富士通製スイッチングハブにおいて、この事象が回避できることを確認済みです。 ILOM のリセット操作を実施してください。

POST 実行時、showfaults コマンドではエラーが記録されるが POST は正常終了する (CR 11210193)

POST 実行中にエラーが発生し、ALOM CMT 互換の showfaults コマンドでエラー状況を確認すると "Fault Sensor VCORE_POK at /SYS/MB deasserted" が記録されていることがあります。ただし、POST は正常終了します。

次に例を示します。

```
sc> showfaults -v
Last POST Run: Sun Apr 20 17:53:36 2008

Post Status: Passed all devices
  ID Time          FRU      Class  Fault
  1 Apr 19 06:41:14 /SYS/MB      SP detected fault: Fault Sensor
VCORE_POK at /SYS/MB
deasserted
sc>
```

回避方法： なし。この現象が発生した場合は、ALOM CMT 互換の `resetsc` コマンドを実行し、ログおよび LED をクリアしてください。

電源障害の誤表示（CR 6614432）

SPARC Enterprise T5120 サーバの中には、入力電圧が AC90V ～ 94V の範囲のときに、低 AC ライン入力電圧障害を報告するものがあります。これは正しいしきい値ではなく、電圧が AC 90V 未満に低下していないかぎり、AC 入力障害ではありません。

誤った障害メッセージの例：

```
sc> showlogs
```

```
Oct 09 14:13:17: Chassis |major   : "Host is running"
Oct 09 14:36:10: IPMI      |minor   : "ID = 264 : 10/09/2007 : 14:36:10 : Power
Supply : /PS1/DC_POK : State Deasserted"
Oct 09 14:36:11: IPMI      |minor   : "ID = 265 : 10/09/2007 : 14:36:11 : Power
Supply : /PS1/AC_POK : State Deasserted"
Oct 09 14:36:14: IPMI      |minor   : "ID = 266 : 10/09/2007 : 14:36:14 : Power
Supply : /PS1/FAIL : State Asserted"
```

回避方法： 両方のサーバ電源が稼働していることを確認します。両方の電源が稼働していれば、サーバは障害の誤表示の間も誤表示のあとも、電源オンの状態を維持します。

プライマリドメインとサービスプロセッサ（SP）の間の通信チャンネルが異常停止することがある（CR 6583567）

まれに、プライマリドメインと SP の間の通信チャンネルが異常停止し、このチャンネルでの通信がダウンすることがあります。

回避方法：

- このチャンネルがプライマリドメインサービスによって使用されるチャンネルの場合、または LDom Manager (ldmd) など、Fault Management デーモン (fmd) 以外のアプリケーションによって使用されるチャンネルの場合、通信の失敗に関する警告またはエラーメッセージが表示されることがあります。この場合、影響を受けたサービスまたはアプリケーションを再起動すると、チャンネルを稼働状態に戻すことができます。

- このチャンネルが fmd によって使用されるチャンネルの場合、警告またはエラーメッセージは表示されません。fmd は ereport を受信せず、エラーの診断は実行されません。
- このチャンネルが Solaris OS によって SP との通信に使用されるチャンネルである場合は、PRI の取得の失敗、ASR データへのアクセスの失敗、LDoms 変数の設定の失敗、または SNMP 通信での失敗に関する警告またはエラーメッセージが表示されることがあります。この場合、SP をリセットすると、チャンネルを稼働状態に戻すことができます。SP をリセットした場合は、プライマリドメインの fmd を再起動してください。SP をリセットしてもチャンネルが稼働状態に戻らない場合は、プライマリドメインのリポートを行う必要もあります。
- ドメインが破損された場合、または関連のある障害メッセージを表示せずにサービスが自発的に再起動した場合は、次の方法で復旧し、遠隔測定で得たエラーのデータが失われる可能性を最小限に抑える必要があります。

▼ ドメインの破損から復旧する

1. プライマリドメインの fmd を再起動します。
2. 30 秒待ちます。
3. 次のいずれかのコマンドを使用して SP を再起動します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> reset /SP
Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> resetsc
Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y
```

4. プライマリドメインの fmd を再起動します。

Solaris OS から、次のコマンドを入力します。

```
# svcadm restart svc:/system/fmd:default
```

Ultra320 SCSI カードのエラーメッセージについて

Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X7SC2F,SE0X7SC2X) に接続された IO から Solaris OS をブートした場合、Boot は成功するが以下のコンソールメッセージが出力される場合があります。システム動作には影響がないため、このメッセージは無視してください。

```
SCSI command timeout occurred  
SCSI interrupts not occur
```

Oracle VM Server for SPARC に関する問題

表 3-4 は、Oracle VM Server for SPARC（旧Logical Domains Manager）に関する問題を示しています。

このほかの問題については、『Oracle VM Server for SPARC ご使用にあたって』を参照してください。

表 3-4 Oracle VM Server for SPARC に関する問題

CR ID	説明	回避方法
6597815	初期の Logical Domains 設定のあとで追加された XAUI リソースおよび CPU リソースを Logical Domains Manager が使用できません。	論理ドメインを使用するように設定されたサーバに CPU リソースまたは XAUI リソースを追加する場合は、出荷時の初期設定に戻して、Logical Domains Manager ソフトウェアがそれらのリソースをゲストドメインに割り当てることができるようにする必要があります。

第 4 章

マニュアルの正誤情報

この章では、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバの既知のマニュアル正誤情報を提供します。

- 『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ 設置計画マニュアル』 (47 ページ)
- 『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ インストレーションガイド』 (51 ページ)
- 『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ サービスマニュアル』 (51 ページ)
- 『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ アドミニストレーションガイド』 (54 ページ)
- 『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』 (55 ページ)
- 『Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ』 (56 ページ)
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 (57 ページ)
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』 (59 ページ)
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ』 (60 ページ)

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ 設置計画マニュアル』

「保守用スペース」における記述の誤り

2 ページ「保守用スペース」に関する説明には誤りがあります。

正しくは以下となります。

SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバは上面保守を行うため、ラックの搭載位置によっては脚立が必要となる場合があります。また、交換する部品によってはサーバをラックから取り外す必要があります。

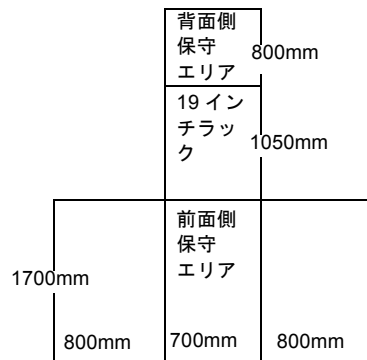
脚立を使用する場合と使用しない場合では保守用スペースが異なりますので保守作業を行うための適切な保守用スペースを確保してください。

以下に、当社標準保守作業を前提とした場合の保守用スペースを示します。なお、このスペースが確保できない場合は、当社技術員に相談してください。

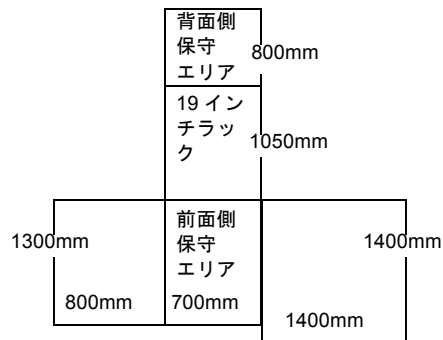
本装置では、20U 以下に搭載する場合は脚立は不要、21U 以上に搭載する場合は脚立が必要となります。図 4-1 に、両方のサーバにおける保守に必要なスペースを示します。

図 4-1 保守用スペース

1. 本体装置を 20U 以下（※）に搭載する場合（※装置上面位置で判断）



2. 本体装置を 21U ~ 40U 以下（※）に搭載する場合（※装置上面位置で判断）



1.6 GHz SpecJBB テストの値の誤り

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ設置計画マニュアル』の表 5、7、および 8 に記載されている、1.6GHz CPU を使用した最大サーバ構成（メモリー、HDD、および PCIe）における SpecJBB 動作中のピーク時の入力電力に誤りがあります。以下の表に正しい値を示します。

表 5: SPARC Enterprise T5120 サーバ (4 ディスク構成) の電源仕様

最大サーバ構成時の仕様

8 コア 1.6 GHz のプロセッサ、16 枚の 4G バイト FBDIMM、4 台の HDD、3 枚の PCIe I/O カード

	(誤)	(正)	(誤)	(正)
	AC 入力モデル	AC 入力モデル	DC 入力モデル	DC 入力モデル
SpecJBB 動作中のピーク時の入力電力	615.3 W	624.3 W	574.7 W	583.1 W

表 7: SPARC Enterprise T5220 サーバ (8 ディスク構成) の電源仕様

最大サーバ構成時の仕様

8 コア 1.6 GHz のプロセッサ、16 枚の 4G バイト FBDIMM、8 台の HDD、6 枚の PCIe I/O カード

	(誤)	(正)	(誤)	(正)
	AC 入力モデル	AC 入力モデル	DC 入力モデル	DC 入力モデル
SpecJBB 動作中のピーク時の入力電力	807.4 W	814.4 W	754.1 W	760.7 W

表 8: SPARC Enterprise T5220 サーバ (16 ディスク構成) の電源仕様

最大サーバ構成時の仕様

8 コア 1.6 GHz のプロセッサ、16 枚の 4G バイト FBDIMM、16 台の HDD、6 枚の PCIe I/O カード

	(誤)	(正)	(誤)	(正)
	AC 入力モデル	AC 入力モデル	DC 入力モデル	DC 入力モデル
SpecJBB 動作中のピーク時の入力電力	901.5 W	908.5 W	842.0 W	848.6 W

アイドリング時の入力電力値の誤り

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ設置計画マニュアル』に記載されている4つの表において、アイドリング時の入力電力値が誤っています。以下の4つの表に、正しい情報を示します。

表 5: SPARC Enterprise T5120 サーバ (4 ディスク構成) の電源仕様

最小サーバ構成時の仕様

4 コア 1.2 GHz のプロセッサ、4 枚の 1G バイト FBDIMM、HDD なし、I/O カードなし

	(誤)	(正)	(誤)	(正)
	AC 入力モデル	AC 入力モデル	DC 入力モデル	DC 入力モデル
アイドリング時の入力電力	187.0 W	179.0 W	174.7 W	167.2 W

表 6: SPARC Enterprise T5120 サーバ (8 ディスク構成) の電源仕様

最小サーバ構成時の仕様

4 コア 1.2 GHz のプロセッサ、4 枚の 1G バイト FBDIMM、HDD なし、I/O カードなし

	(誤)	(正)	(誤)	(正)
	AC 入力モデル	AC 入力モデル	DC 入力モデル	DC 入力モデル
アイドリング時の入力電力	187.0 W	179.0 W	174.7 W	167.2 W

表 7: SPARC Enterprise T5220 サーバ (8 ディスク構成) の電源仕様

最小サーバ構成時の仕様

4 コア 1.2 GHz のプロセッサ、4 枚の 1G バイト FBDIMM、HDD なし、I/O カードなし

	(誤)	(正)	(誤)	(正)
	AC 入力モデル	AC 入力モデル	DC 入力モデル	DC 入力モデル
アイドリング時の入力電力	194.0 W	186.0 W	181.2 W	173.7 W

表 8: SPARC Enterprise T5220 サーバ (16 ディスク構成) の電源仕様

最小サーバ構成時の仕様

4 コア 1.2 GHz のプロセッサ、4 枚の 1G バイト FBDIMM、HDD なし、I/O カードなし

	(誤)	(正)	(誤)	(正)
	AC 入力モデル	AC 入力モデル	DC 入力モデル	DC 入力モデル
アイドリング時の入力電力	194.0 W	186.0 W	181.2 W	173.7 W

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバインストールレーションガイド』

このマニュアルにはケーブルマネジメントアーム（CMA）を使った説明がありますが、SPARC Enterprise T5120 サーバでは、ケーブルマネジメントアームをサポートしていません。

プレインストールの PCIe/XAUI カードが正しく装着されていることを確認する

サーバのインストール手順には、プレインストールの PCIe および / または XAUI カードとそのライザーカードがすべて、輸送中に緩んでしまっていないことを確認する手順が含まれている必要があります。また、内部ケーブルが正しく配線され、その接続が確実であることを確認する手順も含まれている必要があります。

回避方法： PCIe および / または XAUI カードがプレインストールされた状態で到着したサーバをインストールする場合は、開梱後、カードとそのライザーカードが確実に装着されていることを確認してください。また、内部ケーブルが正しく配線され、確実に接続されていることを確認してください。PCIe および / または XAUI カードとそのライザーカードに関する情報、内部ケーブルの配線に関する情報は、『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバサービスマニュアル』を参照してください。

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバサービスマニュアル』

「サーバからの電源の切り離し」における記述の誤り

「サーバからの電源の切り離し」における以下の記述には誤りがあります。

- サーバからすべての電源コードを外します。



注意 – システムには常に 3.3 v のスタンバイ電源が供給されているため、コールドサービス可能なコンポーネントを取り扱う前には電源コードを外す必要があります。

正しくは以下のとおりです。

- AC モデルの場合 – サーバからすべての電源コードを外します。
- DC モデルの場合 – 電源の回路遮断器で電源をオフにします。



注意 – サーバに電源が供給されている場合は、ホストの電源がオフになっていても、システムには 3.3 v のスタンバイ電源が供給されているため、コールドサービス可能なコンポーネントを取り扱う前には電源供給を停止する必要があります。

「エアダクトの取り外し」における記述の誤り

101 ページ「エアダクトの取り外し」における以下の説明には誤りがあります。

3. (SPARC Enterprise T5120 サーバ 8-HDD モデル) 次の手順に従って、ハードドライブデータケーブルを外して、しまっておきます。
 - a. ハードドライブデータケーブルをファンモジュールの上とエアダクトに沿って通します。
 - b. マザーボード上の J6401 にデータケーブルを接続します。

正しい説明は以下のとおりです。

3. (SPARC Enterprise T5120 サーバ 8-HDD モデル) 次の手順に従って、ハードドライブデータケーブルを外して、しまっておきます。
 - a. マザーボード上の J6401 からハードドライブデータケーブルを抜きます。
 - b. CPU のエアダクトの差込口からハードドライブデータケーブルを取り外します。
 - c. ハードドライブケーブルの終端をエアダクトの妨げにならないように配置します。

「SPARC Enterprise T5220 サーバ (8 または 16 ディスク構成) のファンモジュール構成」における記述の誤り

「SPARC Enterprise T5220 サーバ (8 または 16 ディスク構成) のファンモジュール構成」における記述には誤りがあります。ファンモジュール構成は、8 ディスク構成と 16 ディスク構成で異なります。正しい構成は以下のとおりです。

表： SPARC Enterprise T5220 サーバ (8 ドライブ構成) のファンモジュールの場所と FRU 名

(空き)	(空き)	(空き)
/SYS/FANBD0/FM0	/SYS/FANBD0/FM1	/SYS/FANBD0/FM2
システムの正面		

表： SPARC Enterprise T5220 サーバ (16 ドライブ構成) のファンモジュールの場所と FRU 名

(空き)	/SYS/FANBD1/FM1	(空き)
/SYS/FANBD0/FM0	/SYS/FANBD0/FM1	/SYS/FANBD0/FM2
システムの正面		

「ハードドライブケージの取り付け」における不要な手順

「ハードドライブケージの取り付け」における以下の手順は、不要なため無視してください。

3. (SPARC Enterprise T5120 サーバ、8 ディスク対応) ファン FM1 を取り外します。

表：マザーボードコンポーネント (SPARC Enterprise T5120 サーバ) における記述の誤り

/SYS/MB/SC/SCC_NVRAM は、正しくは、/SYS/MB/SCC_NVRAM になります。

表：マザーボードコンポーネント (SPARC Enterprise T5220 サーバ) における記述の誤り

/SYS/MB/SC/SCC_NVRAM は、正しくは、/SYS/MB/SCC_NVRAM になります。

『SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバアドミニストレーションガイド』

「デバイスおよび装置識別名」に関する記述の誤り (CR 6628377)

36 ページの「デバイスおよび装置識別名」に、DB9 シリアルポート /SYS/TTYA が記載されていますが、/SYS/TTYA の構成を解除することはできません。

「SPARC Enterprise T5x20 デバイスツリー」に関する注意事項

37 ページに記載されている DVD ドライブのデバイスツリーは、2009 年 9 月以降に出荷された装置には対応していません。正しくは以下のとおりです。

- 2009 年 9 月以降に出荷された装置の場合

/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/pci@0/usb@0,2/hub@4/device@4/storage@0/disk

「ディスクの管理－ハードウェア RAID ボリュームの作成 ▼ ハードウェアミラー化ボリュームの作成」に関する記述の誤り

17 ページに記載されている以下の下線部箇所を修正します。

最初の IM ボリュームの同期化が完了する前に 2 番目の IM ボリュームを作成すると、最初のボリュームの RAID 状態は SYNC、2 番目のボリュームの RAID 状態は DEGRADED と表示されます。

『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』

IP アドレスの割り当てに関する ILOM コマンドの誤り

23 ページおよび 28 ページに記載されている ILOM コマンドに誤りがあります。
setpendingipdiscovery= は、正しくは set pendingipdiscovery= です。

「CLI を使用して SNMP ユーザーアカウントを編集する」におけるコマンドの誤り

201 ページに記載されている以下のコマンドには誤りがあります。

```
edit /SP/services/snmp/users/username authenticationpassword=  
password
```

SNMP v3 のユーザーアカウントを編集するためには、正しくは次のコマンドを入力します。

```
set /SP/services/snmp/users/username authenticationpassword=  
password
```

『Integrated Lights Out Manager 2.0 補足 マニュアル SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ』

ILOM の接続に関する留意事項（CR 6806789）

SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバの場合、ILOM がサポートするアクティブセッションは、シリアル、SSH、および Web インタフェースセッションを含めて、最大 5 個です。

ALOM CMT シェルコマンドについて

このマニュアルでは ALOM CMT 互換シェルの基本的な使い方のみ説明しています。ALOM CMT シェルコマンドの詳細については、『Advanced Lights out Management (ALOM) CMT v1.x ガイド』（C120-E386）を参照してください。

診断トリガーに関する記載内容の誤り

「CLI を使用して診断トリガーの条件を指定する」では、以下の説明が不足しています。

Solaris OS の shutdown コマンドによる Solaris OS 再起動、または OpenBoot PROM 上でのリセットでは、診断（POST）は行われません。POST を実行したい場合は、ILOM から、システムのリセット（reset /SYS）、またはシステム電源オフ / オン（stop /SYS、start /SYS）を行う必要があります。

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』

「/SP/clients/dns」のデフォルト値に関する記述の誤り

29 ページおよび 139 ページに記載されている /SP/clients/dns のデフォルト値には誤りがあります。正しくは、"enabled" です。

「システムの問題を診断するために SP データを収集する」における記述の誤り（CR 6806800）

83 ページ「システムの問題を診断するために SP データを収集する」における以下の記述には誤りがあります。

変数	オプション	説明
URI	有効なターゲットディレクトリの場所	ターゲットディレクトリの URI を指定します。URI の形式は次のとおりです。 protocol://username:password@host/directory 「protocol」には、「SFTP」、「TFTP」、または「FTP」のいずれかの転送方法を指定できます。 たとえば、ホスト上で data と命名されたディレクトリにスナップショット情報を格納するには、次のように URI を定義してください。 ftp://joe:mypasswd@host_ip_address/data ディレクトリ data はユーザーのログインに対して相対的であるため、ターゲットディレクトリは多くの場合 /home/joe/data になります。

サービススナップショットユーティリティでは、TFTP による SP データの収集をサポートしていません。

SP データの収集に関する記述の誤り

83 ページに記載されている以下の記述には誤りがあります。

変数	オプション	説明
<i>data</i>	<i>full</i>	すべてのデータを収集すること（「完全」収集）を指定します。 Note - このオプションを使用すると、実行中のホストがリセットされる場合があります。

SPARC Enterprise T シリーズでは、*full* オプションを指定しても、実行中のホストがリセットされることはありません。ホストが実行中でも、*full* オプションを指定できます。

診断トリガーに関する記載内容の誤り

「診断トリガーを指定する」では、以下の説明が不足しています。

Solaris OS の *shutdown* コマンドによる Solaris OS 再起動、または OpenBoot PROM 上でのリセットでは、診断（POST）は行われません。POST を実行したい場合は、ILOM から、システムのリセット（*reset /SYS*）、またはシステム電源オフ/オン（*stop /SYS*、*start /SYS*）を行う必要があります。

ファームウェアダウンロードに関する留意点

ファームウェアの入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<https://updatesite.jp.fujitsu.com/unix/jp/download/firmware/>

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』

「部品の有効および無効の切り替え」実施時の留意事項（CR 6624705）

68 ページの「部品情報の表示およびシステム部品の管理」における「部品の有効および無効の切り替え」において、「Actions」ドロップダウンリストから「Enable」または「Disable」を実施した場合においても、以下のように、ILOM CLI インタフェースから実施されたことを示すログが採取されます。

Fault	critical: SP detected fault at time Wed Jul 18 09:37:15 2007. /SYS/MB/GBE1 Disabled by CLI action.
-------	--

SP データの収集に関する記述の誤り

80 ページに記載されている以下の記述には誤りがあります。

3. 目的のデータセット（「Normal」、「Full」、または「Custom」）を選択します。

- **Normal** — ILOM、オペレーティングシステム、およびハードウェアの各情報を収集することを指定します。
- **Full** — すべてのデータを収集することを指定します。「Full」を選択すると、システムがリセットされる場合があります。
- **Custom** — 次の 1 つまたは複数のデータセットを選択できます。
 - ILOM データ
 - ハードウェアデータ
 - 基本 OS データ
 - 診断データ

SPARC Enterprise T シリーズでは、full オプションを指定しても、実行中のホストがリセットされることはありません。ホストが実行中でも、full オプションを指定できます。

ファームウェアダウンロードに関する留意点

ファームウェアの入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<https://updatesite.jp.fujitsu.com/unix/jp/download/firmware/>

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ』

「SCC に格納される ILOM 情報」に関する注意事項

交換用のサーバに SCC を移動する場合は、以下の点に注意してください。

注 – 障害が発生したサーバと交換用のサーバの ILOM ファームウェア版数が異なる場合、SCC に格納されている情報は、無視されるか上書きされる場合があります。ILOM ファームウェア版数が同じ場合、その情報は保持されます。

powercycle オプションの指定に関する記述の誤り (CR 6881020)

13 ページの「ホストの制御情報の表示および構成」の「再起動に失敗した場合のシステムの動作を指定する」に記載されている powercycle オプションを指定した場合、電源のオフオンが実行されるのではなく、ハードウェアのリセットが強制的に実施されます。

consolehistory のオプション [boot | run] に関する記述の誤り（CR 6510082）

表 2 「ALOM CMT シェルのログコマンド」に記載されている consolehistory の [boot | run] オプションは利用できません。[boot | run] オプションを指定しても、オプションを指定せずに実行した consolehistory コマンドと出力は同じです。

flashupdate (ALOM CMT コマンド) コマンドの -v オプションについて（CR 6806268）

表 3 「ALOM CMT シェルの状態および制御用コマンド」に記載されている flashupdate の概要に、[-v] オプションについての記載がありません。

flashupdate (ALOM CMT コマンド) コマンド実行時に、-v オプションを指定しても、実行結果の詳細は表示されません。また、-v オプションを指定してもシステムファームウェアの更新に影響はありません。

付録 A

修正済みの問題

この付録では、SPARC Enterprise T5120 サーバおよび T5220 サーバに関する修正済みの問題について説明します。Solaris OS、システムファームウェア、またはその他ソフトウェアの最新バージョンを使用することにより回避できます。修正情報の詳細については、各表の「回避方法」を参照してください。

- 「ハードウェアおよび機器に関する問題」 (63 ページ)
- 「Solaris OS に関する問題」 (65 ページ)
- 「ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題」 (89 ページ)

ハードウェアおよび機器に関する問題

表 A-1 に、ハードウェアおよび機器に関する修正済みの問題の一覧を示します。

表 A-1 ハードウェアおよび機器に関する修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6616209 6617012	電源ファン障害によって障害が生成されないことがあります。 注 - この問題は、電源 0 のファン障害にのみ該当します。電源 1 のファン障害は、障害を生成しません。	注 - システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済み。 可能性のある電源ファン障害に対してその間に確実に動作を継続させるために、両方の電源を 2 つの別々の電源回路に接続します。
6592272	修正不能な L2 書き戻しエラーによって、メモリー障害メッセージ (SUN4V-8000-E2) がコンソールに生成されることがあります。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 「L2 キャッシュエラーによって誤ったメモリー障害が生成されることがある (CR 6592272)」 (64 ページ) を参照してください。

L2キャッシュエラーによって誤ったメモリー障害が生成されることがある (CR 6592272)

この問題は、Solaris 10 5/08 以降の OS が動作している本体装置では修正されています。Solaris 10 8/07 が動作している場合、この問題はパッチ 127127-11 以降を適用することで修正できます。

それより前のバージョンでは、修正不能な L2 書き戻しエラーのあと、不正なメモリー障害メッセージ (SUN4V-8000-E2) がコンソールに報告されることがあります。次に例を示します。

```
SUNW-MSG-ID: SUN4V-8000-E2, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical
EVENT-TIME: Wed Sep  5 18:49:35 EDT 2007
PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise-T5220, CSN: -, HOSTNAME: wgs48-100
SOURCE: cpumem-diagnosis, REV: 1.6
EVENT-ID: 59bf6418-5dcb-c1b0-b06a-f26fa18e4ee7
DESC: The number of errors associated with this memory module has
exceeded acceptable levels. Refer to http://sun.com/msg/SUN4V-8000-E2
for more information.
AUTO-RESPONSE: Pages of memory associated with this memory module
are
being removed from service as errors are reported.
IMPACT: Total system memory capacity will be reduced as pages are
retired.
```

回避方法：メモリーエラーが不正であるかどうかを判別するには、コンソールメッセージに示された UUID を指定して `fmdump -eV -u uuid` を実行します。次に例を示します。

```
# fmdump -eV -u 59bf6418-5dcb-c1b0-b06a-f26fa18e4ee7 | grep dram-esr
dram-esr = 0x10000000000008221
```

dram-esr が 0x10000000000008221 の場合、この CR 6592272 が発生しています。このメモリーエラーは無視できます。メモリーコンポーネントを交換する必要はありません。不正なメモリーエラーを修復するには、`fmadm repair uuid` を使用します。

dram-esr が異なる場合は、修復手順をスケジューリングして、影響を受けたメモリーモジュールを交換してください。モジュールを特定するには、`fmdump -v -u event_id` を実行します。

Solaris OSに関する問題

表 A-2 に、Solaris OS に関する修正済みの問題の一覧を示します。

表 A-2 Solaris OS に関する修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6886514	Solaris OS の format コマンドに対し、ブートドライブが "drive type unknown" を報告することがあります。詳細は、「Solaris の format コマンドに対し、ブートドライブが "drive type unknown" を報告することがある (CR 6886514)」(70 ページ) を参照してください。	注 -Solaris パッチ 124630-32 以降で修正済み。 復旧手順については、「Solaris の format コマンドに対し、ブートドライブが "drive type unknown" を報告することがある (CR 6886514)」(70 ページ) を参照してください。
6601028	XAUI カードの前面板の TX (送信) および RX (受信) LED に、実際のデータ転送の状況が正しく表示されません。	注 -Solaris パッチ ID 137137-09 以降で修正済み。 LED の点灯状況を無視してください。
6599105	bcopy 実行時、8144 バイトより大きいパケットに対してジャンボフレーム (Jumbo) が機能しません。	注 - Solaris 10 5/08 OS (以降)、およびパッチ ID 127127-11 以降をインストール済みの Solaris 10 8/07 OS で修正済み。
6594506	特定のハードウェアエラーイベントのあと、SP とドメインの間で Solaris PSH イベントが転送されなくなる可能性があります。 例については、「PSH イベントが転送されなくなる (CR 6594506)」(77 ページ) を参照してください。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 「PSH イベントが転送されなくなる (CR 6594506)」(77 ページ) を参照してください。
6594506	送信キューがいっぱいの場合、ドメイン ETM および LDC がデッドロックします。 例については、「送信キューがいっぱいの場合、ドメイン ETM および LDC がデッドロックする (CR 6594506)」(78 ページ) を参照してください。	注 -Solaris パッチ ID 125369-12 以降で修正済み。 「送信キューがいっぱいの場合、ドメイン ETM および LDC がデッドロックする (CR 6594506)」(78 ページ) を参照してください。
6592238	RAID 1 ボリュームと RAID 0 ボリュームが作成されたあと、RAID 1 ボリュームを削除できないことがあります。 オンボード SAS コントローラ (または mpt ドライバを使用するいずれかのコントローラ) から 2 つのボリュームを作成すると、raidctl ユーティリティーはどちらかの RAID ボリュームを削除できなくなり、正しいディスク情報を一覧表示できません。この問題が発生した場合、次のエラーメッセージが表示されます。 # raidctl -l Device record is invalid.	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。

表 A-2 Solaris OS に関する修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6589612	raidctl -l コマンドが、次の出力を出力し続けます。 <pre># raidctl -l Controller: 1 Volume:c1t0d0 Volume:c1t2d0 Disk: 0.0.0 Disk: 0.0.0 ...</pre>	注 -Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 Control-C キーボードシーケンスを使用して、出力を停止してください。
6588550	Solaris OS の prtdiag -v コマンドの応答が、SPARC Enterprise T5120 サーバ上で遅くなりま す。 このコマンドは出力を表示するまでに最長で 5 分かかることがあるため、異常停止しているように見えることがあります。	注 -Solaris パッチ ID 139502-01 以降で修正済み。 遅延に注意して、出力を待ってください。 Control-C を実行しないでください。
6588452	Solaris OS を外部 USB DVD-ROM ドライブからブートすると、パニックが発生し、ブートされないことがあります。 詳細は、「Solaris OS を外部 USB の DVD-ROM ドライブからブートすると、パニックの原因となることがある (CR 6588452)」(81 ページ) を参照してください。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 内蔵 DVD ドライブを使用するか、サブクラスが 2、3、または 4 ではないドライブを使用してください。
6587389	Solaris OS の prtdiag -v コマンドが、スペースなしで情報を表示し、出力が読みにくくなることがあります。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 ALOM CMT 互換 CLI から次のように showenvironment コマンドを実行します。 <pre>sc> showenvironment</pre> 詳細は、「prtdiag -v コマンドの形式に関する問題 (CR 6587389)」(81 ページ) を参照してください。
6586847	Solaris OS の prtdiag コマンドを -v オプションを使用せずに実行すると、出力に障害が表示されません。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 prtdiag コマンドを実行するときは、-v オプションを使用してください。

表 A-2 Solaris OS に関する修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6581309	シャットダウン後、OS コンソールに以下の選択メッセージが表示されますが、"o"を選択すると次のようなメッセージが表示されることがあります。 表示例 1 <pre>r) eboot, o) k prompt, h) alt? o WARNING: promif_ldom_setprop: ds response timeout</pre> 表示例 2 <pre>r) eboot, o) k prompt, h) alt? o WARNING: promif_ldom_setprop: ds response timeout WARNING: LDOMs Variable Update request failed! NOTICE: Unable to complete Domain Service protocol version handshake WARNING: Unable to connect to Domain Service providers WARNING: Unable to update LDOM Variable</pre>	注 -Solaris パッチ ID 137111-01 以降で修正済み。メッセージの表示による影響はありません。パッチ 137111-01（またはそれ以降）を適用してください。
6581309	グラフィックスデバイスおよびキーボードがコンソール用に指定されている場合、コンソール動作に矛盾が発生します。 これは、OpenBoot PROM 変数の input-device および output-device に初期値の virtual-console 以外が設定されている場合に発生します。 制御ドメインがこのように設定されている場合、一部のコンソールメッセージがグラフィックスコンソールに送信され、その他のコンソールメッセージが仮想コンソールに送信されます。その結果、どちらのコンソールの情報も不完全になります。また、システムが異常停止した場合、またはブレイクがコンソールに送信された場合、制御が仮想コンソールに渡され、仮想コンソールでのキーボード入力が必要になります。その結果、グラフィックスコンソールが異常停止したように見えます。	注 -Solaris パッチ ID 137111-01 以降で修正済み。グラフィックスコンソールが異常停止したように見える状態になったら、システムプロセッサから仮想コンソールに接続して、必要な入力を行います。仮想コンソールキーボードの Return キーを 1 回押して、仮想コンソールでの出力を確認します。この回避方法で問題を回避できない場合は、当社技術員に連絡してください。 問題を回避するには、次のいずれかの回避方法を実行します。 - パッチ ID 137111-01（以降）をインストールする。 - 仮想コンソールだけを使用する。input-device 変数と output-device 変数の両方に初期値の virtual-console が設定されていることを確認します。
6578410	Infiniband HBA カードを取り付けた状態でブートしようとする、サーバが異常停止することがあります。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。次の設定を /etc/system ファイルに追加します。 <pre>set tavor:tavor_iommu_bypass = 0</pre>

表 A-2 Solaris OS に関する修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6572985	長時間の SunVTS テスト実行中に、SunVTS cryptotest が次のようなエラーで断続的に失敗することがあります。 "cryptotest.FATAL n2rng0: SUNW_RANDOM generate failed: values generated fall outside statistical tolerance"	注 -Solaris パッチ ID 139667-01 以降で修正済み。 SunVTS Patch 番号 127294-01（またはそれ以降）をインストールします。
6567838	dupb が失敗した場合、サーバが nxge_start でパニックすることがあります。 ジャンボフレームが有効の場合、NULL ポインター参照の結果としてシステムにパニックが発生する可能性があります。このシナリオは、フレームサイズが 4076 より大きい場合にのみ考えられます。MTU=9194 のジャンボフレームにはこの問題は起こりません。 注 - このシナリオはまれで、フレームサイズが 4076 より大きい場合にのみ発生します。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 ジャンボフレームの使用を無効にします（ただし、それによってシステムパフォーマンスに影響があることに注意してください）。サーバにこの問題が発生した場合は、この回避方法のみを適用してください。詳細は、「dupb が失敗した場合、nxge_start でサーバパニックが発生することがある（CR 6567838）」（82 ページ）を参照してください。
6566442	prtdiag コマンドの出力結果が正しくないことがあります。 - メモリーの表示が左に詰まって表示されます。 - CPU スレッドが disabled でも、FRU Status が "All FRUs are enabled" で表示されます。 - 活性交換したファンが表示されません。 - メモリー構成情報の一部が表示されません。	注 -Solaris パッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 なし。
6561389	ネットワークインタフェースユニット（NIU）nxge デバイスの設定プロパティが失敗することがあります。 失敗例については、「nxge デバイスの設定プロパティが失敗することがある（CR 6561389）」（83 ページ）を参照してください。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 nxge.conf ファイルで、デバイスパスなしのグローバル宣言を使用します。たとえば、次の行を nxge.conf ファイルに追加します。 accept_jumbo = 1;
6555956	PCIe Root Complex でサーバパニックが発生することがあります。 リブート中にパニックが発生し、次のメッセージが表示されることがあります。 "Fatal error has occurred in: PCIe root complex." パニックはリブート時のみに発生し、パニックのあとのリブートで観察されたことはありません。外部 USB デバイスがサーバに接続されていない場合でも、パニックが発生することがあります。	注 -Solaris 10 5/08 OS 以降を使用しているサーバで修正済み。 このサーバパニックが発生した場合は、「サーバの PCIe Root Complex でパニックが発生することがある（CR 6555956）」（84 ページ）に示す回避方法を実行してください。 Solaris OS 10 10/08 を使用していない場合、パッチ ID128304-03 以降を適用することで、この問題を解決できます。

表 A-2 Solaris OS に関する修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6554813	GLDv3（Generic LAN Driver version3）対応の Ethernet ドライバのインタフェースで通信中に、ifconfig コマンドを modlist（modinsert/modremove）オプション付きで発行すると、GLDv3 ドライバのソフトウェアリングの処理でデッドロックすることがあります。	注 -Solaris パッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 /etc/system ファイルに以下の設定を追加して、システムを再起動してください。 set ip:ip_soft_rings_cnt=0
6554478	ジャンボフレームを受信すると、パケットの破棄が発生してイーサネットインタフェースが 30 Mbps まで低下することがあります。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 「パケットの破棄が原因で nxge のジャンボフレームスループットが 30 Mbps まで低下する（CR 6554478）」（85 ページ）の説明に従って、MTU サイズを 8172 に設定します。
6552999	prtdiag -v コマンド実行中に Control-C を実行すると、再実行時に環境データのフィールドが空白になります。 表示されない出力は、picld SMF サービスが再起動するまで維持されます。	注 - Solaris 10 5/08 OS 、またはパッチ ID 13094-01 以降で修正済み。 環境データが prtdiag 出力に表示されない場合、次のコマンドを使用して、制御ドメインで picld SMF サービスを再起動します。 # svcadm restart picl
6551509	nxge ポートの動作中、modunload が原因でシステムパニックが発生することがあります。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 ドライバをアンロードする前にインタフェースを unplumb します。「nxge ポートの動作中、modunload が原因でシステムパニックが発生することがある（CR 6551509）」（87 ページ）を参照してください。
6536482	現時点では、cpumem は fbr/fbu エラーを診断しません。	注 -Solaris パッチ ID 127127-11 以降で修正済み。
6527622	Solaris OS パニック後に以下のメッセージが表示されて、ok プロンプトで停止することがあります。 WARNING: promif_ldom_setprop: ds response timeout WARNING: unable to store boot command for use on reboot	注 -Solaris パッチ ID 127111-05 以降で修正済み。 auto-boot?=true を設定するか、boot コマンドを使って手動で起動してください。
6243759 6479347	Solaris OS の prtdiag コマンドが表示する e1000g ドライバデバイスのデバイスパスが誤っています。	注 - Solaris 10 5/08 OS 以降、および Solaris 10 8/07 OS のパッチ ID 127127-11 以降で修正済み。 e1000g ドライバのすべてのインスタンスを強制的にロードし、picld デーモンを次のように再起動します。 # devfsadm -i e1000g # svcadm restart svc:/system/picl 別の回避方法は、システムのブート時またはリブート時に -r オプションを使用することです。

Solarisのformatコマンドに対し、ブートドライブが"drive type unknown"を報告することがある (CR 6886514)

この問題は、パッチ 124630-32 以降を適用することで修正できます。

2009 年 9 月中旬から 10 月初旬にかけての期間（約 3 週間）に、一部の SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに対し、あるパッチがプレインストールされましたが、これによって上記サーバに latent（潜在）バグが発生しています。このバグは、Solaris OS の format コマンドを使用したときのみアクティブになるため、「latent」と呼ばれます。それ以外の場合には、このバグはシステム動作や性能に影響を及ぼしません。

システム管理者またはルート (/) 権限を持つその他のユーザーが、このバグを持つシステム上で format コマンドを入力すると、ブートドライブが「drive type unknown」を報告します。この障害ステータスは、管理者に以下 2 つの問題を示します。

- 不明なドライブタイプエラーのため、管理者はブートドライブの未使用部分にアクセスできなくなります。
- 搭載済みパーティションの存在が、format ユーティリティの自動設定機能の使用を妨げます。ネットワークまたはリムーバブルメディアから起動することによってこの制限を回避しようとすると、システムを起動不能な状態にする可能性があります。

以下の回避方法の項では、この「drive type unknown」の障害モードから、ネットワークやメディアによる起動方法に伴うようなリスクなしに復旧を行うために利用できる手順を記載します。

回避方法：コード例 1 に示す一連の手順を、必ず記載どおり正確に実施してください。手順の流れを追いやすくするため、各ステップは以下 9 つのセクションにまとめられています。

1. システムのブートデバイスが影響を受けているかいないかを判定します。
2. サーバをシャットダウンし、シングルユーザーモードで、**root filesystem mounted read only** の設定で再起動します。
3. **tmpfs/tmp** の **filesystem** をマウントし、作業領域を提供します。
4. **/tmp** に格納されたファイルの中にある、ブートドライブの現行の **vtoc** を取得します。
5. **/tmp** の作業領域で使用するための、**fmthard** ユーティリティのコピーを作成します。
6. **NOINUSE_CHECK** 変数の設定とエクスポートを行い、**format** コマンドがブートドライブにフルアクセスできるようにします。

7. `format` ユーティリティーを実行し、ドライブの「type」を復旧します。
8. `fmthard` コマンドおよび格納された情報を使用し、復旧作業を完了します。
9. 復旧の成功を確認します。

コード例 A-1 **ブートドライブの「drive type」を復旧する手順**

1. ブートドライブが影響を受けているかを確認します。

```
root@host-1 # uname -a
SunOS host-1 5.10 Generic_141414-10 sun4v sparc SUNW,SUNW-Enterprise-T5220
root@host-1 # mount -p | head -1
/dev/dsk/c0t0d0s0 - / ufs - no rw,intr,largefiles,logging,xattr,onerror=panic
root@host-1 # format c0t0d0s0 <===== boot device determined previously
/dev/dsk/c0t0d0s0 is currently mounted on /. Please see umount(1M).
/dev/dsk/c0t0d0s1 is currently used by swap. Please see swap(1M).

FORMAT MENU:
disk          - select a disk
type          - select (define) a disk type
partition    - select (define) a partition table
format       - format and analyze the disk
repair       - repair a defective sector
label        - write label to the disk
analyze      - surface analysis
defect       - defect list management
backup       - search for backup labels
verify       - read and display labels
save         - save new disk/partition definitions
inquiry      - show vendor, product and revision
volname      - set 8-character volume name The jumpstart install process
!<cmd>       - execute <cmd>, then return
quit

format> disk

The jumpstart install process
AVAILABLE DISK SELECTIONS:
    0. c0t0d0 <drive type unknown> <===== problem indication
      /pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0/sd@0,0
Specify disk (enter its number)[0]: ^C <===== quit with <ctrl>C
format> quit
root@host-1 #
```

2. サーバをシャットダウンしたのち、シングルユーザーモードで、root filesystem mounted read only の設定で立ち上げます。

コード例 A-1 ブートドライブの「drive type」を復旧する手順（続き）

```
root@host-1 # init 0
Oct 20 16:26:56 host-1 syslogd: going down on signal 15
svc.startd: The system is down.
syncing file systems... done
Program terminated

SPARC Enterprise T5220, No Keyboard
Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
OpenBoot 4.30.4, 3968 MB memory available, Serial #xxxxxxx.
Ethernet address xx:xx:xx:xx:xx:xx, Host ID: xxxxxxxx.

{0} ok boot -m milestone=none
Boot device: /pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0/disk@0,0:a File and args: -m
milestone=none
SunOS Release 5.10 Version Generic_141414-10 64-bit
Copyright 1983-2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.
Booting to milestone "none".
Requesting System Maintenance Mode
(See /lib/svc/share/README for more information.)
Console login service(s) cannot run

Root password for system maintenance (control-d to bypass): <===== login
single user mode
single-user privilege assigned to /dev/console.
Entering System Maintenance Mode

Oct 20 18:06:11 su: ' su root' succeeded for root on /dev/console
Sun Microsystems Inc.SunOS 5.10GenericJanuary 2005
Sourcing //.profile-EIS.....
```

3. tmpfs/tmp の filesystem をマウントし、作業領域を提供します。

```
root@ # mount -F tmpfs /tmp
root@ # cd /tmp
```

4. /tmp に格納されたファイルの中にある、ブートドライブの現行の vtoc を取得します。開始時に決定されたブートデバイスの raw device を使用します -- すなわち、/dev/dsk/c?t?d?s? ではなく、/dev/rdsk/c?t?d?s? を使用します。

```
root@ # prtvtoc /dev/rdsk/c0t0d0s0 > /tmp/vtoc <=====boot disk vtoc saved
in /tmp/vtoc
```

コード例 A-1 ブートドライブの「drive type」を復旧する手順（続き）

5. /tmp の作業領域で使用するための、fmthard ユーティリティのコピーを作成します。

```
root@ # cp /usr/sbin/fmthard /tmp
```

6. NOINUSE_CHECK 変数の設定およびエクスポートを行います。

```
root@ # setenv NOINUSE_CHECK=1
root@ # export NOINUSE_CHECK
```

7. format ユーティリティを実行し、ドライブの「type」を復旧します。

```
root@ # format
Searching for disks...done
```

AVAILABLE DISK SELECTIONS:

```
0. c0t0d0 <drive type unknown> <===== drive type unknown is the issue
/pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0/sd@0,0
Specify disk (enter its number): 0
```

Format will now present the following menu, choose 0. Auto configure

AVAILABLE DRIVE TYPES:

```
0. Auto configure
1. Quantum ProDrive 80S
2. Quantum ProDrive 105S
[...]
17. Zip 250
18. Peerless 10GB
19. other
```

```
Specify disk type (enter its number): 0
```

```
c0t0d0: configured with capacity of 68.35GB <===== drive type corrected
<SUN72G cyl 14087 alt 2 hd 24 sec 424> <===== drive type corrected
selecting c0t0d0
[disk formatted]
```

Following Auto configure, the correct drive value should be reported.

FORMAT MENU:

```
disk      - select a disk
type      - select (define) a disk type
partition - select (define) a partition table
current   - describe the current disk
format    - format and analyze the disk
repair    - repair a defective sector
```

コード例 A-1 ブートドライブの「drive type」を復旧する手順（続き）

```
label      - write label to the disk
analyze    - surface analysis
defect     - defect list management
backup     - search for backup labels
verify     - read and display labels
save       - save new disk/partition definitions
inquiry    - show vendor, product and revision
volname    - set 8-character volume name The jumpstart install process
!<cmd>    - execute <cmd>, then return
quit
format> label
Ready to label disk, continue? y
format> quit
root@ #
```

8. fmthard コマンドおよび格納された情報を使用し、復旧を完了します。

```
root@ # /tmp/fmthard -s /tmp/vtoc /dev/rdisk/c0t0d0s0 <=== raw boot device
used to capture vtoc.
fmthard: New volume table of contents now in place.
root@ #
```

9. 復旧の成功を確認します。

```
root@ # format
Searching for disks...done
```

AVAILABLE DISK SELECTIONS:

```
0. c0t0d0 <SUN72G cyl 14087 alt 2 hd 24 sec 424>
   /pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0/sd@0,0
Specify disk (enter its number): 0
selecting c0t0d0
[disk formatted]
```

FORMAT MENU:

```
disk      - select a disk
type      - select (define) a disk type
partition - select (define) a partition table
current   - describe the current disk
format    - format and analyze the disk
repair    - repair a defective sector
label     - write label to the disk
analyze   - surface analysis
defect    - defect list management
backup    - search for backup labels
```

コード例 A-1 ブートドライブの「drive type」を復旧する手順（続き）

```
verify      - read and display labels
save        - save new disk/partition definitions
inquiry     - show vendor, product and revision
volname     - set 8-character volume name The jumpstart install process
!<cmd>      - execute <cmd>, then return
quit
format> partition

PARTITION MENU:
0          - change '0' partition
1          - change '1' partition
2          - change '2' partition
3          - change '3' partition
4          - change '4' partition
5          - change '5' partition
6          - change '6' partition
7          - change '7' partition
select     - select a predefined table
modify     - modify a predefined partition table
name       - name the current table
print      - display the current table
label      - write partition map and label to the disk
!<cmd>     - execute <cmd>, then return
quit
partition> print
Current partition table (original):
Total disk cylinders available: 14087 + 2 (reserved cylinders)

Part Tag      Flag  Cylinders   Size      Blocks
0   root      wm    825 - 3298  12.00GB   (2474/0/0)   25175424
1   swap      wu     0 - 824    4.00GB   (825/0/0)    8395200
2   backup    wm    0 - 14086  68.35GB  (14087/0/0)  143349312
3   unassigned wm   3299 - 5772 12.00GB  (2474/0/0)   25175424
4   unassigned wu     0           0         (0/0/0)      0
5   unassigned wu     0           0         (0/0/0)      0
6   unassigned wu     0           0         (0/0/0)      0
7   unassigned wu     0           0         (0/0/0)      0

partition> quit

FORMAT MENU:
disk       - select a disk
type       - select (define) a disk type
partition  - select (define) a partition table
current    - describe the current disk
```

コード例 A-1

ブートドライブの「drive type」を復旧する手順（続き）

```

format      - format and analyze the disk
repair      - repair a defective sector
label       - write label to the disk
analyze     - surface analysis
defect      - defect list management
backup      - search for backup labels
verify      - read and display labels
save        - save new disk/partition definitions
inquiry     - show vendor, product and revision
volname     - set 8-character volume name The jumpstart install process
!<cmd>     - execute <cmd>, then return
quit
format> disk

AVAILABLE DISK SELECTIONS:
  0. c0t0d0 <SUN72G cyl 14087 alt 2 hd 24 sec 424>
    /pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0/sd@0,0
Specify disk (enter its number)[0]:
selecting c0t0d0
[disk formatted]
format> quit

The drive type recovery is complete, reboot the server:

root@ # reboot
syncing file systems... done
rebooting...
Resetting...
#
SPARC Enterprise T5220, No Keyboard
Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
OpenBoot 4.30.4, 3968 MB memory available, Serial #xxxxxxx.
Ethernet address xx:xx:xx:xx:xx:xx, Host ID: xxxxxxxx.
Boot device: /pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0/disk@0,0:a File and args:
SunOS Release 5.10 Version Generic_141414-10 64-bit
Copyright 1983-2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.
Hostname: host-1
The / file system (/dev/rdisk/c0t0d0s0) is being checked.
Reading ZFS config: done.
host-1 console login:

```

PSHイベントが転送されなくなる（CR 6594506）

この問題は、Solaris 10 5/08 以降の OS が動作している本体装置では修正されています。Solaris 10 8/07 が動作している場合、この問題はパッチ 127127-11 以降を適用することで修正できます。

特定のハードウェアエラーイベントのあと、サービスプロセッサ（SP）とドメインの間で PSH イベントが転送されなくなる可能性があります。この CR の対象になるシナリオは次のとおりです。

- 非 LDoms 環境の Solaris ドメインにおける修復不能なエラー
- LDoms 環境の制御ドメインにおける修復不能なエラー
- LDoms または非 LDoms のいずれかの環境のシステムにおける致命的なエラー（致命的なエラーが発生すると、システムはハードウェアレベルでリセットされます。）

注 -LDoms 環境では、非制御 LDoms ゲストドメインにおける修復不能なエラーは、この CR の対象ではありません。

たとえば、制御ドメインに修復不能なエラーがあると、Solaris OS にパニックが発生します。次のようなメッセージが制御ドメインコンソールに報告されます。

```
SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-0G, TYPE: Error, VER: 1, SEVERITY: Major
EVENT-TIME: 0x46c61864.0x318184c6 (0x1dfeda2137e)
PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise-T5220, CSN: -, HOSTNAME: wgs48-100
SOURCE: SunOS, REV: 5.10 Generic_Patch
DESC: Errors have been detected that require a reboot to ensure system
integrity. See http://www.sun.com/msg/SUNOS-8000-0G for more information.
AUTO-RESPONSE: Solaris will attempt to save and diagnose the error telemetry
IMPACT: The system will sync files, save a crash dump if needed, and reboot
REC-ACTION: Save the error summary below in case telemetry cannot be saved
```

または、修復不能なエラーが原因でファームウェアが異常停止し、ALOM CMT 互換 CLI コンソールにログインしたときに次のようなメッセージが SP コンソールに報告されます。

```
Aug 17 22:09:09 ERROR: HV Abort: <Unknown?> (228d74) - PowerDown
```

制御ドメインが回復したあと、診断が実行されます。コンソールへのメッセージで、修復不能なエラーの原因が示されます。次に例を示します。

```
SUNW-MSG-ID: SUN4V-8000-UQ, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical
EVENT-TIME: Fri Aug 17 18:00:57 EDT 2007
PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise-T5220, CSN: -, HOSTNAME: wgs48-100
SOURCE: cpumem-diagnosis, REV: 1.6
EVENT-ID: a8b0eb18-6449-c0a7-cc0f-e230ald27243
DESC: The number of level 2 cache uncorrectable data errors has exceeded
acceptable levels. Refer to http://sun.com/msg/SUN4V-8000-UQ for more
information.
AUTO-RESPONSE: No automated response.
IMPACT: System performance is likely to be affected.
REC-ACTION: Schedule a repair procedure to replace the affected resource,
the identity of which can be determined using fmdump -v -u <EVENT_ID>.
```

この時点で、CR 6594506 がすでに発生している場合があります。この問題によって、将来の PSH イベント（新しいハードウェアエラー、修正可能なエラー、修正不能なエラーなど）がドメインに転送されなくなり、適切に診断されなくなります。

回避方法：ドメインが回復し、診断メッセージが Solaris コンソールに出力されたあとに、次のようにサービスプロセッサをリセットします。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> reset /SP
Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> resetsc
Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y
```

SP が再起動し、admin としてログインできるようになったら（つまり、すべてのデーモンの準備が整ったら）、Solaris 制御ドメインで次のコマンドを入力します。

```
# fmadm unload etm
# fmadm load /usr/platform/sun4v/lib/fm/fmd/plugins/etm.so
```

送信キューがいっぱいの場合、ドメインETMおよびLDCがデッドロックする（CR 6594506）

この問題は、Solaris パッチ ID 125369-12 以降で修正済みです。

特定のハードウェアエラーイベントのあと、サービスプロセッサ（SP）とドメインの間で PSH イベントが転送されなくなる可能性があります。この CR の対象になるシナリオは次のとおりです。

- 非 LDoms 環境の Solaris ドメインにおける修復不能なエラー
- LDoms 環境の制御ドメインにおける修復不能なエラー
- LDoms または非 LDoms のいずれかの環境のシステムにおける致命的なエラー（致命的なエラーが発生すると、システムは HW レベルでリセットされます）

注 -LDoms 環境では、非制御 LDoms ゲストドメインにおける修復不能なエラーは、この CR の対象ではありません。

たとえば、制御ドメインに修復不能なエラーがあると、Solaris OS にパニックが発生します。次のようなメッセージが制御ドメインコンソールに報告されます。

```
SUNW-MSG-ID:SUNOS-8000-0G, TYPE:Error, VER:1, SEVERITY:Major
EVENT-TIME:0x46c61864.0x318184c6 (0x1dfeda2137e)
PLATFORM:SUNW,SPARC-Enterprise-T5220, CSN:-, HOSTNAME:wgs48-100
SOURCE:SunOS, REV:5.10 Generic_Patch
DESC:Errors have been detected that require a reboot to ensure system
integrity.See http://www.sun.com/msg/SUNOS-8000-0G for more information.
AUTO-RESPONSE:Solaris will attempt to save and diagnose the error telemetry
IMPACT:The system will sync files, save a crash dump if needed, and reboot
REC-ACTION:Save the error summary below in case telemetry cannot be saved
```

または、修復不能なエラーが原因で Hypervisor が異常停止し、ALOM CMT 互換 CLI コンソールにログインしたときに次のようなメッセージが SP コンソールに報告されます。

```
Aug 17 22:09:09 ERROR:HV Abort:<Unknown?> (228d74) - PowerDown
```

制御ドメインが回復したあと、診断が実行されます。コンソールへのメッセージで、修復不能なエラーの原因が示されます。次に例を示します。

```
SUNW-MSG-ID:SUN4V-8000-UQ, TYPE:Fault, VER:1, SEVERITY:Critical
EVENT-TIME:Fri Aug 17 18:00:57 EDT 2007
PLATFORM:SUNW,SPARC-Enterprise-T5220, CSN:-, HOSTNAME:wgs48-100
SOURCE:cpumem-diagnosis, REV: 1.6
EVENT-ID:a8b0eb18-6449-c0a7-cc0f-e230a1d27243
DESC:The number of level 2 cache uncorrectable data errors has exceeded
acceptable levels.Refer to http://sun.com/msg/SUN4V-8000-UQ for more
information.
AUTO-RESPONSE:No automated response.
IMPACT:System performance is likely to be affected.
REC-ACTION:Schedule a repair procedure to replace the affected resource,
the identity of which can be determined using fmdump -v -u <EVENT_ID>.
```

この時点で、CR 6594506 がすでに発生している場合があります。この問題によって、将来の PSH イベント（新しい HW エラー、修正可能なエラー、修正不能なエラーなど）がドメインに転送されなくなり、適切に診断されなくなります。

回避方法：ドメインが回復し、診断メッセージが Solaris コンソールに出力されたあとに、次のコマンドでサービスプロセッサをリセットします。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> reset /SP
Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> resetsc
Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y
```

SP が再起動し、admin としてログインできるようになったら（つまり、すべてのデーモンの準備が整ったら）、Solaris 制御ドメインで次のコマンドを実行し、etm のアンロードとロードを行います。

```
# fmadm unload etm
# fmadm load /usr/platform/sun4v/lib/fm/fmd/plugins/etm.so
```

Solaris OSを外部USBのDVD-ROMドライブからブートすると、パニックの原因となることがある (CR 6588452)

この問題は、Solaris 10 5/08 以降の OS が動作している本体装置では修正されています。Solaris 10 8/07 が動作している場合、この問題はパッチ 127127-11 以降を適用することで修正できます。

Solaris 10 OS を外部 USB DVD-ROM ドライブからブートすると、サーバパニックが発生し、Solaris OS がブートされないことがあります。この状態は、Solaris OS がこのデバイスに `storage@1` という名前を付け、システムファームウェアが `cdrom@1` という名前を付けるために発生します。

OpenBoot PROM ファームウェアと Solaris OS はどちらも、1275 USB バインディングルールに従ってノードに名前を付けます。次に例を示します。

表 A-3 ノードの名前付けに関する 1275 USB バインディングルール

bInterface クラス	bInterface サブクラス	bInterface プロトコル	名前
0x08	1	任意	storage
0x08	2	任意	cdrom
0x08	3	任意	tape
0x08	4	任意	floppy
0x08	5	任意	storage
0x08	6	任意	storage
0x08	任意	任意	storage

Solaris 10 OS は、このノードに常に `storage@n` という名前を付けます。したがって、サブクラスが 2、3、または 4 のストレージデバイス（SPARC Enterprise T5120 および T5220 は、2 にする必要がある）は、Solaris 10 OS DVD でブートできません。

回避方法：サブクラスが 2、3、または 4 でないデバイスを代わりに使用します。

prtdiag -v コマンドの形式に関する問題 (CR 6587389)

この問題は、Solaris 10 5/08 以降の OS が動作している本体装置では修正されています。Solaris 10 8/07 が動作している場合、この問題はパッチ 127127-11 以降を適用することで修正できます。

prtdiag(1M) コマンドによって出力される情報の中には、-v オプションを使用した場合に読みにくくなるものがあります。レポートの 1 番目と 2 番目のフィールドの間に空白がありません。

prtdiag -v コマンドの出力で、形式に関する次の問題が発生します。

- ファンセンサー – Location 列と Sensor 列の間にスペースタブがない。
- 温度センサー – DIMMs の Location 列と Sensor 列の間にスペースタブがない。
- LED –SERVICE、LOCATE、ACT、PS_FAULT、TEMP_FAULT、および FAN_FAULT DIMMs の場所が表示されない。Location と LED の間にスペースタブがない。
- センサーの場所 – 先頭部分が切り詰められ、システムステータス LED など、一部の項目の場所が報告されない。

この形式情報を表示するには、ALOM CMT 互換 CLI で showenvironment コマンドを使用します。

```
sc> showenvironment - displays the system environmental status
```

dupbが失敗した場合、nxge_startでサーバパニックが発生することがある (CR 6567838)

この問題は、Solaris 10 5/08 以降の OS が動作している本体装置では修正されています。Solaris 10 8/07 が動作している場合、この問題はパッチ 127127-11 以降を適用することで修正できます。

ジャンボフレームが有効の場合、NULL ポインター参照の結果としてシステムにパニックが発生する可能性があります。このシナリオは、フレームサイズが 4076 より大きい場合にのみ考えられます。MTU=9194 のジャンボフレームにはこの問題は起こりません。

回避方法：次の手順に従って、ジャンボフレームを無効にするか、MTU サイズを小さくします。

▼ ジャンボフレームを無効にする

ジャンボフレームを無効にしたり、MTU が小さいジャンボフレームを使用したりすると、システムパフォーマンスが影響を受けます。ジャンボフレームが原因でシステムパニックが発生した場合にのみ、次の手順を実行してください。

1. /platform/sun4v/kernel/drv/nxge.conf ファイルを編集し、accept_jumbo=1; のある行がすべてコメントアウトされていることを確認します。

2. /etc/system ファイルに `set nxge:nxge_jumbo_enable=1` がないことも確認します。

▼ MTU を小さいサイズに設定する

ジャンボフレームを使用する場合、ジャンボフレームを無効にする代わりに、次の回避方法を使用できます。この手順では、例として *port1* を使用して、MTU を 4076 以下の値に設定しています。

注 - 次の手順を実行することによって、MTU 値は永続的なものになります。代わりにコマンド `ifconfig nxgeX mtu 4076` (*X* はインスタンス番号) を実行することもできますが、MTU 値はリブート後に初期値に戻ります。

1. /etc/hosts ファイルを編集または作成し、そのファイルに次の行を追加します。

```
99.99.9.1    nxge-port1
```

ここで、*nxge-port1* は、インタフェースに付ける名前です。99.99.9.1 は、インタフェースに割り当てる IP アドレスです。

2. /etc/hostname.nxge1 ファイルを作成し、そのファイルに次の 2 行を追加します。

```
nxge-port1
nxge-port1 mtu 4076
```

nxge デバイスの設定プロパティーが失敗することがある (CR 6561389)

この問題は、Solaris 10 5/08 以降の OS が動作している本体装置では修正されています。Solaris 10 8/07 が動作している場合、この問題はパッチ 127127-11 以降を適用することで修正できます。

nxge デバイスノードの設定プロパティーが正しく機能しない場合があります。次に例を示します。

```
name="SUNW,nius1" parent="/niu@80" unit-address="0" accept_jumbo=1;
name="SUNW,nius1" parent="/niu@80" unit-address="1" accept_jumbo=1;
Entries from /etc/path_to_inst:
/niu@80" 0 niuwx
/niu@80/network@0" 0 nxge
```

```
/niu@80/network@1 1 nxge
Entries from /etc/driver_aliases:
niumx "SUNW,niumx
nxge "SUNW,niusl
```

回避方法：nxge.conf ファイルで、デバイスパスなしのグローバル宣言を使用します。たとえば、次の行を nxge.conf ファイルに追加します。

```
accept_jumbo = 1;
```

サーバのPCIe Root Complexでパニックが発生することがある（CR 6555956）

この問題は、Solaris 10 5/08 以降の OS が動作している本体装置では修正されています。

リブート中にパニックが発生し、次のメッセージが表示されることがあります。
"Fatal error has occurred in:PCIe root complex."

パニックはリブート時のみに発生し、パニックのあとのリブートで観察されたことはありません。また、サーバの外部に USB デバイスが接続されていないくても、障害は起こります。

回避方法：サーバパニックが発生した場合は、次の回避方法を 1 つまたは複数実行します。

- パニック後にシステムをリブートし、継続的に機能させるため、次の方法のいずれかを使用して、サーバが自動的にリブートするように設定します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> set /HOST/bootmode script="setenv auto-boot? true"
-> set /HOST/bootmode script="setenv auto-boot-on-error? true"
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> bootmode bootscript="setenv auto-boot? true"
sc> bootmode bootscript="setenv auto-boot-on-error? true"
```

- パニックが起きないようにするには、USB を無効にします（内蔵 DVD ドライブなどの USB デバイスを使用していない場合のみ、この回避方法を実行してください）。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> set /SYS/MB/PCIE-IO/USB component_state=Disabled
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> disablecomponent /SYS/MB/PCIE-IO/USB
```

DVD ドライブも含め、USB 上のすべてのデバイスが無効になります。サービスプロセッサを使用すると障害が発生し、障害 LED が点灯することに注意してください。

USB を有効にする必要がある場合は、次のコマンドを実行します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> set /SYS/MB/PCIE-IO/USB component_state=Enabled
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> enablecomponent /SYS/MB/PCIE-IO/USB
```

パケットの破棄が原因でnxgeのジャンボフレームスループットが30 Mbpsまで低下する (CR 6554478)

この問題は、Solaris 10 5/08 以降の OS が動作している本体装置では修正されています。Solaris 10 8/07 が動作している場合、この問題はパッチ 127127-11 以降を適用することで修正できます。

次の 2 つの条件が真の場合、nxge ドライバの受信側のパフォーマンスが大幅に低下します。

- nxge.conf ファイルに次の行が存在し、コメントアウトされていないため、ジャンボフレームが有効になっている。

```
accept_jumbo=1
```

nxge.conf ファイルは、sun4v システムの場合は /platform/sun4v/kernel/drv ディレクトリに、sun4u システムの場合は /platform/sun4u/kernel/drv ディレクトリにあります。

- 最大伝送単位 (MTU) が、8172 より大きい値に設定されている。
ジャンボフレームが有効の場合、MTU サイズの初期値は 9194 になります。

注 - 詳細は、『Sun Quad GbE UTP x8 PCIe ExpressModule User’s Guide』、『Sun Dual 10GbE XFP PCIe ExpressModule User’s Guide』、『Sun x8 Express Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low Profile Adapter User’s Guide』、または『Sun x8 Express Quad Gigabit Ethernet UTP Low Profile Adapter User’s Guide』を参照してください。

▼ MTU サイズを 8172 に設定する

ジャンボフレームが有効の場合、次の手順に従って MTU を 8172 の値に設定します。この手順では、例として *port1* を使用します。

1. `/etc/hosts` ファイルを編集または作成し、そのファイルに次の行を追加します。

```
99.99.9.1 nxge-port1
```

ここで、*nxge-port1* はインタフェースに付ける名前で、*99.99.9.1* はインタフェースに割り当てる IP アドレスです。

2. `/etc/hostname.nxge1` ファイルを編集または作成し、そのファイルに次の 2 行を追加します。

```
nxge-port1
nxge-port1 mtu 8172
```

3. ネットマスクに特別な値が自動的に設定されるようにする場合は、`/etc/netmasks` ファイルに次の行を追加します（例として、ネットマスク *FFFFFF00* を使用します）。

```
99.99.9.1 255.255.255.0
```

4. システムをリブートします。

この例では、*nxge1* インタフェースは IP アドレス *99.99.9.1*、MTU 値 *8172*、ネットマスク *ffffff00* で自動的に *plumb* されます。

5. `ifconfig -a` を実行して、構成を確認します。

```
# ifconfig -a
nxge1: flags=1201000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4,CoS,FIXEDMTU>
mtu 8172 index 3
inet 99.99.9.1 netmask fffffff00 broadcast 99.255.255.255
ether 0:14:4f:6c:88:5
```


他のインタフェースに永続的にパラメータを設定する場合は、同様に `/etc/hostname.nxge0`、`/etc/hostname.nxge2`、および `/etc/hostname.nxge3` を作成して、名前と IP アドレスのペアを同じ `/etc/hosts` ファイルに追加します。ネットマスクも同じ `/etc/netmasks` ファイルに追加します。

nxgeポートの動作中、modunloadが原因でシステムパニックが発生することがある（CR 6551509）

この問題は、Solaris 10 5/08 以降の OS が動作している本体装置では修正されています。Solaris 10 8/07 が動作している場合、この問題はパッチ 127127-11 以降を適用することで修正できます。

動作中の nxge ドライバに `modunload` コマンドを実行すると、システムパニックが発生することがあります。これは nxge ドライバの問題が原因で、可能性は非常に低いものの、システムのリブート中に nxge ドライバがパニックを誘発することがあるためです。このパニックは、システムのシャットダウン中に、システムがかなりの量のネットワークデータを nxge インタフェースで転送し続けている場合に発生します。通常の状況下では、この状態になることはまずありません。

パニックメッセージは、`mutex_enter:bad mutex, ...` です。パニックスタックには、`nxge_freeb()` と `nxge_post_page()` の 2 つの nxge ドライバ関数が含まれます。

このようなパニックが発生した場合、システムは回復して通常どおりリブートを続行します。以降、パニックは発生することなく、nxge インタフェースを含むシステムは稼働状態に戻ります。

回避方法：ドライバをアンロードする前にインタフェースを `unplumb` します。

▼ ドライバをアンロードする前にインタフェースを unplumb する

通常、実行中のカーネルからドライバをアンロードする必要はありませんが、それが必要とされるまれな状況では、アンロードする前にすべてのドライバインスタンスを `unplumb` する必要があります。

1. `ifconfig` コマンドを使用して、どの `nxge` インスタンスが **plumb** されているか (アクティブであるか) を確認します。

```
# ifconfig -a
lo0: flags=2001000849<UP,LOOPBACK,RUNNING,MULTICAST,IPv4,VIRTUAL>
mtu 8232 index 1
    inet 127.0.0.1 netmask ff000000
bge0: flags=201000843<UP,BROADCAST,RUNNING,MULTICAST,IPv4,CoS>
mtu 1500 index 2
    inet 129.153.54.82 netmask ffffffff00 broadcast 129.153.54.255
    ether 0:14:4f:2a:9f:6a
nxge2: flags=201000843<UP,BROADCAST,RUNNING,MULTICAST,IPv4,CoS>
mtu 1500 index 19
    inet 129.153.54.175 netmask ffffffff00 broadcast 129.153.54.255
    ether 0:14:4f:6c:85:aa
nxge3: flags=201000803<UP,BROADCAST,MULTICAST,IPv4,CoS> mtu 1500
index 20
    inet 129.153.54.171 netmask ffffffff00 broadcast 129.153.54.255
    ether 0:14:4f:6c:85:ab
```

2. 各アクティブポート (`nxge` とインスタンス番号からなる名前が付いている各ポート。たとえば、`nxge2`、`nxge3` など) を **unplumb** します。次に例を示します。

```
# ifconfig nxge2 unplumb
# ifconfig nxge3 unplumb
```

3. `ifconfig -a` を再度実行して、アクティブな `nxge` インタフェースがないことを確認します。次に例を示します。

```
# ifconfig -a
lo0: flags=2001000849<UP,LOOPBACK,RUNNING,MULTICAST,IPv4,VIRTUAL>
mtu 8232 index 1
    inet 127.0.0.1 netmask ff000000
bge0: flags=201000843<UP,BROADCAST,RUNNING,MULTICAST,IPv4,CoS>
mtu 1500 index 2
    inet 129.153.54.82 netmask ffffffff00 broadcast 129.153.54.255
    ether 0:14:4f:2a:9f:6a
```

この時点で、`nxge` ドライバのアンロードを問題なく行うことができます。

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

ここでは、ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する修正済みの問題を示します。

- 「システムファームウェア 7.4.2 以降で修正済みの問題」 (90 ページ)
- 「システムファームウェア 7.4.0.d 以降で修正済みの問題」 (91 ページ)
- 「システムファームウェア 7.3.1.a 以降で修正済みの問題」 (91 ページ)
- 「システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済みの問題」 (92 ページ)
- 「システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済みの問題」 (97 ページ)
- 「システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題」 (98 ページ)
- 「システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済みの問題」 (107 ページ)
- 「システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題」 (108 ページ)
- 「システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題」 (116 ページ)
- 「システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みの問題」 (131 ページ)
- 「システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済みの問題」 (140 ページ)
- 「システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済みの問題」 (142 ページ)
- 「システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済みの問題」 (145 ページ)
- 「その他のソフトウェアで修正済みの問題」 (147 ページ)

システムファームウェア7.4.2以降で修正済みの問題

表 A-4 システムファームウェア 7.4.2 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
7020953	システムファームウェア 7.3.0.c 版以降において、Solaris OS 起動時、OS コンソールに SUN4V-8002-SP の FMA メッセージが出力される場合があります。 事象発生時例： <pre>EVENT-TIME: Wed Jan 26 13:01:18 JST 2011 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise-T5220, CSN: -, HOSTNAME: XXXXXX SOURCE: cpumem-diagnosis, REV: 1.7 EVENT-ID: 0c8bb637-d649-6027-d5e9-b255046522de DESC: The error report generator has received input data that is inconsistent or improperly formatted. Refer to http://sun.com/msg/SUN4V-8002- SP for more information. AUTO-RESPONSE: No automated response.</pre> IMPACT: This error does not affect system operation. The error which could not be reported may have more serious impact which cannot be determined. REC-ACTION: Call your service provider to determine if your system requires a firmware upgrade. Please retain the error log file.	注 - システムファームウェア 7.4.2 以降で修正済み。 なし。 出力されたメッセージを無視してください。システムへの影響はありません。 Solaris OS 起動時に、ファームウェアの不具合により、不適切なイベントが Solaris OS 側に送信される場合があります。その場合、Solaris OS は該当イベントを解釈できず、該当メッセージを出力します。SUN4V-8002-SP は、Solaris OS 上の異常監視機能が不適切なイベントを受信したことを意味します。

システムファームウェア7.4.0.d以降で修正済みの問題

表 A-5 システムファームウェア 7.4.0.d 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6905030	システム電源オン後の POST 診断において、故障したメモリとは異なる正常なメモリや正常なマザーボードを被疑箇所として、誤指摘する場合があります。	注 - システムファームウェア 7.4.0.d 以降で修正済み。 なし。

システムファームウェア7.3.1.a以降で修正済みの問題

表 A-6 システムファームウェア 7.3.1.a 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
7013706	SPARC Enterprise T5120 サーバにおいて、電源コードを挿入した直後の ILOM 起動中に、ILOM が自動で再起動する場合があります。発生事象例については、「 電源コードを挿入した直後の ILOM 起動中に、ILOM が自動で再起動する場合があります (CR 7013706) 」(91 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.3.1.a 以降で修正済み。 なし。 この事象は、ILOM の自動再起動により復旧するため、無視してください。

電源コードを挿入した直後のILOM 起動中に、ILOM が自動で再起動する場合があります (CR 7013706)

この問題は、システムファームウェア 7.3.1.a 以降で修正済みです。

SPARC Enterprise T5120 サーバにおいて、電源コードを挿入した直後の ILOM 起動中に、ILOM が自動で再起動する場合があります。

発生事象例：

電源コード挿入

U-Boot 1.1.1

custom Sun Microsystems U-Boot 1.3 (Mar 15 2010 - 09:40:31) r53993

```
CPU:  MPC885ZPnn at 133 MHz: 8 kB I-Cache 8 kB D-Cache FEC present
Board: SPARC885
      Watchdog enabled
:
-----
ILOM の自動再起動
-----
U-Boot 1.1.1
custom Sun Microsystems U-Boot 1.3 (Mar 15 2010 - 09:40:31) r53993
CPU:  MPC885ZPnn at 133 MHz: 8 kB I-Cache 8 kB D-Cache FEC present
Board: SPARC885
      Watchdog enabled
:
-----
正常起動
-----
```

回避方法：なし。この事象は、ILOM の自動再起動により復旧するため、無視してください。

システムファームウェア7.3.0.c以降で修正済みの問題

表 A-7 システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6989852	ILOM ファームウェアがファンの回転数を "0" と誤認識することで、保守要求 LED が点灯することがあります。その場合、ILOM イベントログが出力されます。詳細は、「 ファン回転数の誤認識により、保守要求 LED が点灯する場合がある (CR 6989852) 」(93 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済み。 なし。 ILOM リセットにより復旧してください。異常がクリアされた場合、この事象に該当するため、ファンの交換は不要です。なお、ILOM リセットによるシステムへの影響はありません。
6981373 6946636 6913105 6908024 6722602 6663105	ILOM 経由で OS コンソールに接続したとき、コンソールへの入力や表示ができない場合があります。また、このとき、Solaris OS 上からコンソールへの出力が失敗する場合があります。	注 - システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済み。 システム停止後、電源コードを取り外し、再度電源コードを接続してください。

表 A-7 システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6981373 6946636 6908024 6722602 6663105	SSH クライアントから ILOM へのログインに失敗します。または、ILOM コマンドの実行に失敗する場合があります。 障害時の現象例： 1. SSH (Secure Shell) クライアントから、ILOM へのログインに失敗します。 2. Solaris OS に対する強制ダンプ指示が失敗します。 3. ILOM からの電源切断指示が失敗します。 4. ILOM からの電源投入指示に失敗します。 5. OS コンソールが取得できません。または、"y" 入力後、何も入力することができません。	注 - システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済み。 システム電源停止後、電源コードを取り外し、約 180 秒あけてから、再度電源コードを接続してください。
6974676	prtdiag(IM) コマンドまたは prtpicl(IM) コマンドを実行したとき、本体装置に存在しないデバイスを誤って検出し、以下のメッセージを出力することがあります。 メッセージ例 picld[XXX]: PICL snmpplugin: cannot fetch object value (XXXXXX)	注 - システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済み。 なし。 システムへの影響はありません。出力されたメッセージは無視してください。
6962499	電源コードの抜き差し後、または ILOM のリセット実施直後の POST 実行中に /SYS/XXXXX prom is unreadable or corrupted メッセージが出力され、保守要求 LED が点灯する場合があります。詳細は、「 電源コードの抜き差し後、POST 実行中にエラーメッセージが表示される場合がある (CR 6962499) 」(95 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済み。 以下の操作の間隔をそれぞれ 180 秒以上あけてください。 - システムの電源を切断してから電源コードを抜くまでの時間 - 電源コードを抜いてから挿入するまでの時間 - 電源コードを挿入してから、電源を投入するまでの時間
6922544	ILOM 時刻の Timezone が GMT 以外に設定されているときに、ILOM の時刻を設定し電源コードの抜き差しをすると、ILOM の初期時刻および Solaris OS の起動時刻がずれる場合があります。	注 - システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済み。 ILOM の時刻設定をした場合、電源コードの抜き差しおよび Solaris OS の起動をする前に、ILOM をリセットしてください。

ファン回転数の誤認識により、保守要求LEDが点灯する場合がある (CR 6989852)

この問題は、システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済みです。

ILOM ファームウェアがファンの回転数を "0" と誤認識することで、保守要求 LED が点灯することがあります。その場合、以下のイベントログが出力されます。

ILOM イベントログ例：

```
IPMI | critical: "ID = 9a : 08/17/2010 : 00:39:17 : Fan : /FB0/FM0/F0/TACH
: Lower
Non-recoverable going low : reading 0 <= threshold 2400 RPM"
IPMI | critical: "ID = 9a : 08/17/2010 : 00:39:22 : Fan : /FB0/FM0/F1/TACH
: Lower
Non-recoverable going low : reading 0 <= threshold 2400 RPM"
IPMI | critical: "ID = 9a : 08/17/2010 : 00:39:26 : Fan : /FB0/FM1/F0/TACH
: Lower
Non-recoverable going low : reading 0 <= threshold 2400 RPM"
IPMI | critical: "ID = 9a : 08/17/2010 : 00:39:30 : Fan : /FB0/FM2/F1/TACH
: Lower
Non-recoverable going low : reading 0 <= threshold 2400 RPM"
```

showenvironment コマンド表示例：

```
-----
Fan Status:
```

```
-----
Fans (Speeds Revolution Per Minute):
```

Sensor	Status	Speed	Warn	Low
/SYS/FANBD0/FM0/F0/TACH	FAILED	0	4000	2400
/SYS/FANBD0/FM0/F1/TACH	FAILED	0	4000	2400
/SYS/FANBD0/FM1/F0/TACH	FAILED	0	4000	2400
/SYS/FANBD0/FM1/F1/TACH	OK	6400	4000	2400
/SYS/FANBD0/FM2/F0/TACH	OK	7000	4000	2400
/SYS/FANBD0/FM2/F1/TACH	FAILED	0	4000	2400

showfaults コマンド表示例：

```
SC> showfaults
```

```
Last POST Run: Mon Jul 12 00:08:46 2010
```

```
Post Status: Passed all devices
```

```
ID FRU Fault
```

- 1 /SYS/FANBD0/FM0 SP detected fault:
TACH at /SYS/FANBD0/FM0/F0 has reached low non-recoverable threshold.
- 2 /SYS/FANBD0/FM0 SP detected fault:
TACH at /SYS/FANBD0/FM0/F1 has reached low non-recoverable threshold.
- 3 /SYS/FANBD0/FM1 SP detected fault:
TACH at /SYS/FANBD0/FM1/F0 has reached low non-recoverable threshold.
- 4 /SYS/FANBD0/FM2 SP detected fault:
TACH at /SYS/FANBD0/FM2/F1 has reached low non-recoverable threshold.

回避方法：なし。ILOM リセットにより復旧してください。異常がクリアされた場合、この事象に該当するため、ファンの交換は不要です。なお、ILOM リセットによるシステムへの影響はありません。

電源コードの抜き差し後、POST実行中にエラーメッセージが表示される場合がある（CR 6962499）

この問題は、システムファームウェア 7.3.0.c 以降で修正済みです。

電源コードの抜き差し後、または ILOM のリセット実施直後の POST 実行中に /SYS/XXXXX prom is unreadable or corrupted メッセージが出力され、保守要求 LED が点灯する場合があります。

メッセージ例：

```
Chassis | major: Host has been powered on
0:0:0>
0:0:0>SPARC-Enterprise[TM] T5120/T5220 POST 4.30.6 2009/12/01 13:08

/export/delivery/delivery/4.30/4.30.6/post4.30.6-micro/Niagara/huron/integrated
(root)
0:0:0>Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved
0:0:0>POST enabling CMP 0 threads: ffffffff.ffffffff
0:0:0>VBSC mode is: 00000000.00000001
0:0:0>VBSC level is: 00000000.00000001
0:0:0>VBSC selecting Normal mode, MAX Testing.
0:0:0>VBSC setting verbosity level 2
0:0:0>Basic Memory Tests....Done
0:0:0>Test Memory....Done
0:0:0>Setup POST Mailbox ....Done
0:0:0>Master CPU Tests Basic....Done
0:0:0>Init MMU.....
Fault | critical: SP detected fault at time Mon Jan 18 08:45:10 2010. /SYS/PADCRD
prom is unreadable or corrupted
0:0:0>NCU Setup and PIU link train....Done
0:0:0>L2 Tests....Done
0:0:0>Extended CPU Tests....Done
0:0:0>Scrub Memory....Done
0:0:0>SPU CWQ Tests...Done
0:0:0>MAU Tests...Done
0:0:0>Network Interface Unit Tests....Done
0:0:0>Functional CPU Tests....Done
0:0:0>Extended Memory Tests....Done
2010-01-18 08:46:50.299 0:0:0>INFO:
2010-01-18 08:46:50.302 0:0:0> POST Passed all devices.
2010-01-18 08:46:50.307 0:0:0>POST:      Return to VBSC.
2010-01-18 08:46:50.310 0:0:0>Master set ACK for vbsc runpost command and spin...
```

```
Chassis | major: Host is running
```

```
SPARC Enterprise T5220, No Keyboard  
Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.  
OpenBoot 4.30.6, 8064 MB memory available, Serial #85367270.  
Ethernet address 0:21:28:16:99:e6, Host ID: 851699e6.
```

```
{0} ok
```

この事象は、以下のいずれかの場合に発生します。

- システムの電源を切断してから電源コードを抜くまでの時間が短い場合
- 電源コードを抜いたあとに電源コードを挿入するまでの時間が短い場合
- 電源コードを挿入してから、電源を投入するまでの時間が短い場合

この事象が発生した場合は、ILOM のリセット操作を実施してください。復旧した場合は、部品交換の必要はありません。

ILOM リセット操作例：

ILOM にログインし、以下のコマンドを実行します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> reset /SP  
Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
SC> resetsc  
Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y
```

回避方法：以下の操作の間隔をそれぞれ 180 秒以上あけてください。

- システムの電源を切断してから電源コードを抜くまでの時間
- 電源コードを抜いてから挿入するまでの時間
- 電源コードを挿入してから、電源を投入するまでの時間

システムファームウェア7.2.10.a以降で修正済みの問題

表 A-8 システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6948710	システムファームウェア 7.2.7.b 以降で、システム起動時およびシステム稼働中に間欠で、デバイス（存在しないデバイスも含む）の活性挿抜に関するメッセージが表示される場合があります。 搭載されていないデバイスのメッセージ表示例： Chassis major: Hot insertion of /SYS/MB/RISER1/XAUI1 Chassis major: Hot removal of /SYS/MB/RISER1/XAUI1 搭載されているデバイスのメッセージ表示例： Chassis major: Hot removal of /SYS/MB/CMP0/BR1/CH0/D0 Chassis major: Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/BR1/CH0/D0	注 - システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済み。 なし。 ILOM ファームウェアのセンサー参照方法に誤りがあります。この障害によるシステムへの影響はありません。show faulty コマンドで本体装置の異常が検出されない場合は、出力されたメッセージは無視してください。

システムファームウェア7.2.10以降で修正済みの問題

表 A-9 システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6948680	ILOM Web インタフェースの「Remote Control」 -> 「Diagnostics」 タブにて、システム診断の設定 (/HOST/diag) を変更する際、「Trigger」に以下の値を単独で選択すると "Error:Invalid property value" というポップアップが表示され、「Trigger」の値の設定に失敗します。 • Power On • User Reset	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 ILOM CLI インタフェースの <code>set /HOST/diag trigger= (value)</code> コマンドを利用して、設定してください。
6947945	富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載してシステムを起動すると、ILOM CLI インタフェースにおいて、4Gbps ファイバチャネルカードが F20 カードと誤って認識されます。また、スロット番号も誤って表示されます。prtdiag -v コマンドにおける FRU Status においても、F20 カードと誤って認識、表示される場合があります。 詳細は、「富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードが F20 カードと誤って認識される (CR 6947945)」(100 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 無視してください。ファイバチャネルカードの実装確認は、Solaris OS の prtdiag コマンドの IO Devices を使用してください。 詳細は、「富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードが F20 カードと誤って認識される (CR 6947945)」(100 ページ) を参照してください。
6946636 6908024	Oracle VM Server for SPARC (旧 Logical Domains Manager) 環境において、ドメイン構成を変更したときなど、ドメイン構成情報を ILOM に保存する際に実行するコマンド <code>ldm add-spconfig</code> (または、<code>ldm add-config</code>) が、ILOM メモリ不足のため失敗する場合があります。 障害時の現象例： <pre># ldm add-spconfig config_initial Error: Operation failed because the system controller ran out of memory. Before being able to save a new configuration, one or more of the existing ones must be deleted</pre>	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 システム停止後、電源コードを取り外し、再度電源コードを接続してください。

表 A-9 システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6942238	PCI ボックスに接続するリンクカードを搭載してシステムを起動すると、ILOM CLI インタフェースおよび <code>prtdiag -v</code> コマンドの LEDs、FRU Status において、スロット番号が誤って表示されます。 詳細は、「PCI ボックスに接続するリンクカードのスロット番号が誤って表示される (CR 6942238)」(102 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 無視してください。リンクカードの実装確認は、Solaris OS の <code>prtdiag</code> コマンドの IO Devices を使用してください。 詳細は、「PCI ボックスに接続するリンクカードのスロット番号が誤って表示される (CR 6942238)」(102 ページ) を参照してください。
6942129	T5220 サーバに特定の版数以降の電源ユニットを 1 台または 2 台搭載した場合、 <code>showpower</code> コマンド結果において、 <code>OUTPUT Power (W)</code> および <code>OUTPUT Current (A)</code> の値がそれぞれ <code>INPUT</code> の値よりも大きい値を表示します。詳細は、「T5220 サーバにおいて、OUTPUT Power および OUTPUT Current の値が誤って表示される場合がある (CR 6942129)」(104 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 システムファームウェアが特定の版数以降の電源ユニットの情報を参照する方法に誤りがあります。電源ユニット自体に問題はありませんので、表示結果を無視してください。
6939213	システムファームウェア 7.2.8 にアップデート後、電源コードの抜き差しや、ILOM のリセットを行うと、DIMM、PSU、FAN などのコンポーネントの有無を表示するメッセージ (Device Present / Device Absent) がイベントログに表示されます。 詳細は「システムファームウェア 7.2.8 にアップデート後、コンポーネントの有無を表示するメッセージがイベントログに表示される (CR 6939213)」(105 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 これらのメッセージは、エラーメッセージではありません。ILOM が再起動されたタイミングで、コンポーネント情報の再読み込みを行うために表示されているメッセージのため、無視してください。
6931546	システム電源投入時、以下のイベントログが採取されることがあります。 イベントログ例： 624 Fri Feb 26 03:33:12 2010 Chassis Log major Feb 26 03:33:12 ERROR: TPM protocol error occurred	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 システムファームウェア 7.2.10 以降でこの事象が発生した場合、システムを起動したときに Solaris OS 起動前に実行される POST で、自動的にシステム電源オフおよびオンが実施され、この事象から復旧します。 このとき、以下のような ILOM イベントログが採取されます。 Chassis major: TPM operation initiating a power-cycle Chassis critical: Host has been powered off Chassis major: Host has been powered on

表 A-9 システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6902381	サーバの電源投入を行った場合、フロントパネルの全 LED、または右側の LED すべてが点灯することがあります。また、ファームウェア版数 7.2.2.e 以降は、ILOM のステータス確認コマンド (showenvironment コマンド) でも該当の LED は ON の状態を表示します。この現象自体は、あくまで LED 表示のみの問題であるため、システムに影響はありません。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 この現象が発生した場合には、ILOM のリセット操作を実施してください。復旧しない場合には、システム停止後、電源コードを抜き差ししてください。 ILOM リセット操作例： ILOM にログインし、以下のコマンドを実行します。 [ILOM コマンドモードの場合] <pre>-> reset /SP</pre> Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y [ALOM CMT 互換シェルの場合] <pre>sc> resetsc</pre> Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y
6865225 6827043	XVR300 カードを搭載したシステムが、DVD ブート中に応答しなくなることがあります。この問題は、内蔵 SAS コントローラを搭載していないシステムにおいて、発生する可能性が最も高くなります。 以下のエラーが表示されます。 <pre>{8} ok boot cdrom -s</pre> Boot device: <pre>/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/pci@0/usb@0,2/storage@2/disk@0:f File and args: -s</pre> <-- 何も表示されない。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 USB キーボードおよびマウスが背面の USB ポートに取り付けられている場合は、システムの電源を切断後、前面の USB ポートに移動する必要があります。
6613212	/Host/diag/trigger に user-reset、または all-reset を設定して、reset /SYS コマンドでリセットを実行しても、POST が実行されません。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 /HOST/diag/trigger に、"all-resets" または、"power-on-reset" を追加してください。

富士通製4Gbps ファイバチャネルカードがF20カードと誤って認識される（CR 6947945）

この問題は、システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みです。

富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載してシステムを起動すると、ILOM CLI インタフェースにおいて、4Gbps ファイバチャネルカードが F20 カードと誤って認識されます。また、スロット番号も誤って表示されます。prtdiag -v コマンドにおける FRU Status においても、F20 カードと誤って認識、表示される場合があります。

以下に障害時の現象例を示します。

構成：

PCIE#0: ファイバチャネルカード

PCIE#1: 空き

PCIE#2: 空き

PCIE#3: 空き

PCIE#4: 空き

PCIE#5: 空き

ILOM CLI インタフェースの表示例：

```
/SYS/MB/RISER1/PCIE1/F20CARD
Properties:
    type = F20 Card
    ipmi_name = RSR1/PCIE1/F20
    fault_state = OK
    clear_fault_action = (none)
```

prtdiag -v コマンドの FRU Status の表示例：

```
# prtdiag -v
...
===== FRU Status =====
Location                                Name          Status
-----
...
SYS/MB/RISER1/PCIE1                    F20CARD      enabled
...
```

回避方法：なし。無視してください。ファイバチャネルカードの実装確認は、Solaris OS の prtdiag コマンドの IO Devices を利用してください。

prtdiag 実行結果：

```
# prtdiag
...
===== IO Devices =====
Slot +          Bus   Name +          Model
Status         Type  Path
-----
```

```
...
MB                FIBRE fibre-channel
                  /pci@500/pci@0/pci@9/fibre-channel
...
```

PCI ボックスに接続するリンクカードのロット番号が誤って表示される (CR 6942238)

この問題は、システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みです。

PCI ボックスに接続するリンクカードを搭載してシステムを起動すると、ILOM CLI インタフェースおよび `prtdiag -v` コマンドの LEDs、FRU Status において、ロット番号が誤って表示されます。

以下に障害時の現象例を示します。

構成：

- PCIE#0: 空き
- PCIE#1: 空き
- PCIE#2: 空き
- PCIE#3: 空き
- PCIE#4: 空き
- PCIE#5: リンクカード

ILOM CLI インタフェースの表示例：

```
/SYS/MB/RISER0/PCIE3/LINK
Properties:
  type = Link Card
  fru_description = Copper Link Card
  fru_manufacturer = Celestica
  fru_version = 02_51
  fru_part_number = 5017041
  fru_serial_number = XP00DD
  fault_state = OK
  connection = none
  clear_fault_action = (none)
```

`prtdiag -v` コマンドの LEDs および FRU Status の表示例：

```
# prtdiag -v
...
LEDs:
```


Location	LED	State
...		
SYS/MB/RISER0/PCIE3/LINK	DATA	off
SYS/MB/RISER0/PCIE3/LINK	MGMT	off
...		
===== FRU Status =====		
Location	Name	Status
...		
SYS/MB/RISER0/PCIE3	LINK	enabled
...		

回避方法：なし。無視してください。リンクカードの実装確認は、Solaris OS の prtdiag コマンドの IO Devices を利用してください。

prtdiag 実行結果：

# prtdiag			
...			
===== IO Devices =====			
Slot + Status	Bus Type	Name + Path	Model

...			
PCIE5	PCIE	FJSV,e4ta-fjgi	Broadcom,BCM5704C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/FJSV,e4ta@4	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4ta-fjgi	Broadcom,BCM5704C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/FJSV,e4ta@4,1	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4ta-fjgi	Broadcom,BCM5704C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0,1/FJSV,e4ta@6	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4ta-fjgi	Broadcom,BCM5704C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0,1/FJSV,e4ta@6,1	
PCIE5	PCIE	FJSV,e2ta-fjgi	Broadcom,BCM5715C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@9/pci@0/FJSV,e2ta@4	
PCIE5	PCIE	FJSV,e2ta-fjgi	Broadcom,BCM5715C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@9/pci@0/FJSV,e2ta@4,1	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4tb-fjgi	Broadcom,BCM5715C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@2/pci@0	
		/FJSV,e4tb@4	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4tb-fjgi	Broadcom,BCM5715C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@2/pci@0	
		/FJSV,e4tb@4,1	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4tb-fjgi	Broadcom,BCM5715C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@4/pci@0	
		/FJSV,e4tb@4	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4tb-fjgi	Broadcom,BCM5715C

		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@4/pci@0/FJSV,e4tb@4,1	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4ta-fjgi	Broadcom,BCM5704C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@1/pci@0/FJSV,e4ta@4	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4ta-fjgi	Broadcom,BCM5704C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@1/pci@0/FJSV,e4ta@4,1	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4ta-fjgi	Broadcom,BCM5704C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@1/pci@0,1/FJSV,e4ta@6	
PCIE5	PCIE	FJSV,e4ta-fjgi	Broadcom,BCM5704C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@1/pci@0,1/FJSV,e4ta@6,1	
PCIE5	PCIE	FJSV,e2ta-fjgi	Broadcom,BCM5715C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@9/pci@0/FJSV,e2ta@4	
PCIE5	PCIE	FJSV,e2ta-fjgi	Broadcom,BCM5715C
		/pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@9/pci@0/FJSV,e2ta@4,1	
		...	

T5220サーバにおいて、OUTPUT Powerおよび OUTPUT Currentの値が誤って表示される場合がある（CR 6942129）

この問題は、システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みです。

T5220 サーバに特定の版数以降の電源ユニットを 1 台または 2 台搭載した場合、showpower コマンド結果において、OUTPUT Power (W) および OUTPUT Current (A) の値がそれぞれ INPUT の値よりも大きい値を表示します。

ご使用の装置に該当の電源ユニットが搭載されているかは、以下に示すコマンドで確認してください。

[ILOM コマンドモードの場合]

show /SYS/PS0 および show /SYS/PS1 コマンドの出力結果に、以下の部品番号が含まれるか確認してください。

```
fru_part_number = 3002235
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

showfru /SYS/PS0 および showfru /SYS/PS1 コマンドの出力結果に以下の部品番号が含まれるか確認してください。

```
/Sun_Part_Number_DataR/Sun_Part_No: 3002235
```

事象発生例：

特定の版数以降の電源ユニット (*) を 2 台搭載した場合：

```

sc> showpower -v
-----
Power Supplies:
-----

```

Supply	Status	INPUT Power (W)	OUTPUT Power (W)
/SYS/PS0	OK	140.0	215.0 <-- (*)
/SYS/PS1	OK	160.0	250.0 <-- (*)
Total Power		300.0	

```

-----

```

Supply	INPUT Volt (V)	INPUT Current (A)	INPUT limit (A)	OUTPUT Volt (V)	OUTPUT Current (A)	OUTPUT limit (A)
/SYS/PS0	103.2	1.36	10.00	12.1	17.77	62.00
/SYS/PS1	100.8	1.59	10.00	12.0	20.83	62.00

```

-----
~~~~~
(*)

```

回避方法：なし。システムファームウェアが特定の版数以降の電源ユニット (*) の情報を参照する方法に誤りがあります。電源ユニット自体に問題はありませんので、表示結果を無視してください。

システムファームウェア7.2.8にアップデート後、コンポーネントの有無を表示するメッセージがイベントログに表示される (CR 6939213)

この問題は、システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みです。

システムファームウェア 7.2.8 にアップデート後、電源コードの抜き差しや、ILOM のリセットを行うと、DIMM、PSU、FAN などのコンポーネントの有無を表示するメッセージ (Device Present / Device Absent) がイベントログに表示されま

イベントログ例：

```
314   Tue Apr 13 14:31:07 2010   IPMI       Log          minor
      ID =    32 : 04/13/2010 : 14:30:45 : Entity Presence : /FB1/FM2/PRSNT :
Device Absent
313   Tue Apr 13 14:31:07 2010   IPMI       Log          minor
      ID =    31 : 04/13/2010 : 14:30:45 : Entity Presence : /FB0/FM0/PRSNT :
Device Present
312   Tue Apr 13 14:31:07 2010   IPMI       Log          minor
      ID =    30 : 04/13/2010 : 14:30:45 : Entity Presence : /PS1/PRSNT : Device
Present
311   Tue Apr 13 14:31:07 2010   IPMI       Log          minor
      ID =   2f : 04/13/2010 : 14:30:45 : Entity Presence : /P1/BR1/CH0/D2/P :
Device Absent
310   Tue Apr 13 14:31:07 2010   IPMI       Log          minor
      ID =    2e : 04/13/2010 : 14:30:45 : Entity Presence : /P0/BR1/CH1/D3/P :
Device Absent
```

なお、ILOM 上に表示されていないコンポーネントに対しても表示されます。

```
301   Tue Apr 13 14:31:07 2010   IPMI       Log          minor
      ID =    25 : 04/13/2010 : 14:30:43 : Entity Presence : /MB/P0/MR0/P : Device
Absent
278   Tue Apr 13 14:31:06 2010   IPMI       Log          minor
      ID =     e : 04/13/2010 : 14:30:40 : Entity Presence : /FB1/PRSNT : Device
Present
```

回避方法：なし。これらのメッセージは、エラーメッセージではありません。ILOM が再起動されたタイミングで、コンポーネント情報の再読み込みを行うために表示されているメッセージのため、無視してください。

システムファームウェア7.2.8以降で修正済みの問題

表 A-10 システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6919764	システムファームウェア 7.2.7.b において、富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載しているシステムでは、システム電源オン後、"F20CARD prom is unreadable or corrupted" のメッセージが ILOM のイベントログに出力され、保守要求 LED が点灯することがあります。 Solaris OS は、正常に起動完了し、Solaris OS 上は、ファイバチャネルカードも正常に認識されます。 詳細は、「富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載しているシステムで、電源オン後に保守要求 LED が点灯することがある (CR 6919764)」(107 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済み。 電源コード挿入後、または ILOM リセット完了後、約 180 秒間あけてから、システム電源を投入してください。

富士通製 4Gbpsファイバチャネルカードを搭載しているシステムで、電源オン後に保守要求LEDが点灯することがある (CR 6919764)

この問題は、システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済みです。

システムファームウェア 7.2.7.b において、富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載しているシステムでは、システム電源オン後、F20CARD prom is unreadable or corrupted のメッセージが ILOM のイベントログに出力されて保守要求 LED が点灯することがあります。

Solaris OS は、正常に起動完了し、Solaris OS 上は、ファイバチャネルカードも正常に認識されます。

事象発生時の show faulty コマンドの例：

-> show faulty		
Target	Property	Value
/SP/faultmgmt/0	fru	/SYS
/SP/faultmgmt/0/faults/0	timestamp	Apr 06 09:41:17
/SP/faultmgmt/0/	sp_detected_fault	/SYS/MB/RISER0/PCIE3/F20CARD

faults/0	prom is unreadable or corrupted
->	

事象発生時の ILOM のイベントログの例：

15	Tue Apr 6 09:41:17 2010	Fault	Fault	critical
	SP detected fault at time Tue Apr 6 09:41:17 2010. /SYS/MB/RISER0/PCIE3/ F20CARD prom is unreadable or corrupted			

この事象が発生した際は、システム電源をオフにしたあと、ILOM をリセットしてください。リセット完了後、約 180 秒間あけてから、システム電源をオンにしてください。

回避方法：電源コード挿入後、または ILOM リセット完了後、約 180 秒間あけてから、システム電源を投入してください。

システムファームウェア7.2.7.b以降で修正済みの問題

表 A-11 システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6858772	snmpv3 ユーザーの作成中、snmpd が反応しなくなる場合があります。その結果、コアダンプが発生します。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。
6857271	SCC モジュールを交換すると、マザーボード上に保持しているデータの一部が新規 SCC モジュールの情報に上書きされてしまうため、ILOM のネットワーク接続に失敗します。 詳細は、「 SCC モジュールの交換後、ILOM のネットワーク接続に失敗する場合があります (CR 6857271) 」(111 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 SCC モジュール単体が故障した場合には、SCC モジュールだけでなくマザーボードも同時に交換してください。 交換後、バックアップした内容を復元してください。
6856163	ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続していない状態で、サービスプロセッサの初期化を実施すると、ILOM ファームウェアのシリアルコンソール画面に ILOM 内部プロセスの起動に失敗したことを示すエラーメッセージが表示され、ILOM の起動に失敗します。 詳細は、「 サービスプロセッサの初期化実施時に、エラーメッセージが表示され ILOM の起動に失敗する場合があります (CR 6856163) 」(112 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 1. 電源コードを取り外します。 2. ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続します。 3. 電源コードを接続します。 4. ILOM ネットワークポートがリンクアップしていることを確認します。

表 A-11 システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6854379	マザーボード交換後に、システム構成カード (SCC モジュール) を新しいマザーボードに乗せ換えたにも関わらず、/HOST/diag 配下のプロパティの値が引き継がれない場合があります。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 マザーボードを交換する前に、ILOM 設定内容をバックアップしてください。交換後、バックアップした内容を復元してください。
6853843	SPARC Enterprise T5120 サーバの DC 入力電源モデルにおいて、Solaris OS の prtdiag コマンド実行時に、"Environmental Status"、および、"FRU Status" 情報の一部が表示されません。 表示されない場合の例については、「 DC 入力電源モデルにおいて、"Environmental Status" および "FRU Status" 情報の一部が表示されない (CR 6853843) 」(113 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 ILOM から、部品情報やファン、温度、電力センサーなどのステータスを確認してください。
6847308	ILOM 設定のバックアップにおいて、システム識別プロパティ (/SP system_identifier) の値がデフォルト値 (none) であるとき、バックアップされたファイルにシステム説明プロパティ (/SP system_description) の値が格納されます。 誤って格納された例： <entry> <property>/SP/system_identifier </property> <value>SPARC-Enterprise-T5120, ILOM v3.0.3.20.e, r46064</value> </entry>	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 バックアップファイル内の "/SP system_identifier" のエントリを削除してください。
6835860	SPARC Enterprise T5220 サーバにおいて、POST 実行中に、"ERROR:POST timed out" メッセージが表示され、診断処理が途中で終了することがあります。 現象例については、「 POST 実行中に、診断処理が途中で終了する場合がある (CR 6835860) 」(114 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 再度、ホストの電源投入を行い、POST を実施してください。
6823725	DNS クライアント機能のサーチパス (searchpath) プロパティは、一度設定すると、デフォルト値 (none) に戻すことができません。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。

表 A-11 システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6823516	DNS クライアント設定において、リトライ回数 (retries プロパティ) を "5" に設定することができません。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 リトライ回数には、"0" から "4" までの値を設定してください。
6821325	prtdiag コマンドの出力結果において、電源装置の入力電圧センサー (V_IN_MAIN) が、warning と表示される場合があります。例については、「prtdiag コマンドの出力結果に warning が表示される場合がある (CR 6821325)」(115 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 表示だけの問題のため、無視してください。
6816507	10GbE XAUI カード搭載後、電源コードを挿入したときに、10GbE XAUI カードの部品情報が ILOM に表示されません。なお、ILOM は 10GbE XAUI カードは認識しています。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 ILOM から 10GbE XAUI カードの部品情報を確認する場合、ホストの電源投入後に確認してください。
6737118	ファームウェアパッチに含まれるファームウェアダウンロードコマンド (sysfwdownload) の -u オプションを指定したとき、ファームウェアダウンロード完了後にシステム電源切断処理が自動的に開始されません。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 Solaris OS を停止し、システム電源を切断してください。
実施例 <pre># ./sysfwdownload -u Sun_System_Firmware-7_1_3_d- SPARC_Enterprise_T5120+T5220.pkg WARNING: Host will be powered down for automatic firmware update when download is completed. Do you want to continue(yes/no)? yes (7%)..... (15%)..... (23%)..... (31%)..... (39%)..... Download completed successfully. #</pre> ← このあと、サーバの電源切断処理が開始されません。		

表 A-11 システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6627396	サービスプロセッサにログインした状態で、コマンドを定期的に行うと、コマンドの復帰が遅くなります。または、エラーが発生することがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 ILOM を一度利用した場合は、ILOM からログアウトしてください。 問題が発生した場合は、システムの AC 電源をオフにして、もう一度オンにします。
なし	システムファームウェア 7.2.2.e において、role = Administrator のユーザーが ILOM Web インタフェースから snapshot を採取すると失敗します。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 ユーザーの role を "aucro" に変更し、再度 ILOM Web インタフェースから snapshot を採取してください。または、ILOM コマンドモードから snapshot を採取してください。

SCCモジュールの交換後、ILOMのネットワーク接続に失敗する場合がある（CR 6857271）

この問題は、システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みです。

SCC モジュールを交換すると、マザーボード上に保持しているデータの一部（*1）が新規 SCC モジュールの情報（*2）に上書きされてしまうため、ILOM のネットワーク接続に失敗します。

（*1）：ILOM ユーザー情報、ネットワーク設定情報、診断設定情報などの SCC モジュールに含まれているデータです。詳細は、各装置の ILOM 補足マニュアルを参照してください。

（*2）：この時点での情報は初期状態のため、設定は何も入っていません。

また、障害発生時は、ILOM のシリアルコンソール画面に以下のようなログが出力され（*）、ILOM の起動時に sccd の起動に失敗します。

障害時の ILOM シリアルコンソール出力例：

```
SUNSP-BEL07482AU login: root
Password:
Waiting for daemons to initialize...

Timed out waiting for daemons to start      <-- (*)
sccd daemon has shutdown                     <-- (*)

Integrated Lights Out Manager

Version 3.0.3.20.e
```

```
Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.  
Use is subject to license terms.
```

```
Warning: password is set to factory default.
```

```
->
```

SCC モジュール交換作業時には、サービスプロセッサの設定を事前にバックアップしてください。

回避方法：SCC モジュール単体が故障した場合には、SCC モジュールだけでなくマザーボードも同時に交換してください。

交換後、バックアップした内容を復元してください。

サービスプロセッサの初期化実施時に、エラーメッセージが表示されILOMの起動に失敗する場合があります（CR 6856163）

この問題は、システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みです。

ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続していない状態で、サービスプロセッサの初期化（*1）を実施すると、ILOM ファームウェアのシリアルコンソール画面に ILOM 内部プロセスの起動に失敗したことを示すエラーメッセージ（*2）が表示され、ILOM の起動に失敗します。

（*1）：サービスプロセッサの初期化とは、以下のオペレーションを指します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> set /SP reset_to_defaults=all または factory  
-> reset /SP
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
SC> setdefaults  
SC> resetsc
```

障害時の現象例：

```
SUNSP-BEL07482AU login: root
Password:
Waiting for daemons to initialize...

Timed out waiting for daemons to start      <-- (*2)
sccd daemon has shutdown                    <-- (*2)

Integrated Lights Out Manager

Version 3.0.3.20.e

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

Warning: password is set to factory default.

->
```

回避方法： ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続した状態で、サービスプロセッサの初期化を実施してください。

なお、ILOM ネットワーク設定がされていなくても、ネットワークポートがリンクアップしていれば、サービスプロセッサの初期化を実施することはできます。

現象が発生した場合は、以下の手順で復旧してください。

1. 電源コードを取り外します。
2. ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続します。
3. 電源コードを接続します。
4. ILOM ネットワークポートがリンクアップしていることを確認します。

DC入力電源モデルにおいて、"Environmental Status"および"FRU Status"情報の一部が表示されない（CR 6853843）

この問題は、システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みです。

SPARC Enterprise T5120 サーバの DC 入力電源モデルにおいて、Solaris OS の prtdiag コマンド実行時、"Environmental Status" および "FRU Status" 情報の一部が表示されません。

表示されない場合の例：

```
===== Environmental Status =====
<-- 何も表示されない。
===== FRU Status =====
Location                               Name           Status
-----
SYS                                     MB             enabled
SYS                                     HDD0           enabled
SYS                                     HDD1           enabled
<-- 一部が表示されない。
```

回避方法：なし。ILOM から、部品情報やファン、温度、電力センサーなどのステータスを確認してください。

POST実行中に、診断処理が途中で終了する場合がある（CR 6835860）

この問題は、システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みです。

SPARC Enterprise T5220 サーバにおいて、POST 実行中に、"ERROR:POST timed out" メッセージを表示し、診断処理が途中で終了することがあります。

```
SC> poweron -c
Enter #. to return to ALOM.
Chassis | major: Host has been powered on
0:0:0>
0:0:0>SPARC-Enterprise[TM] T5120/T5220 POST
4.30.2.build_06***PROTOTYPE BUILD***
2009/03/19 08:25

/export/delivery/delivery/4.30/4.30.2.build_06/post4.30.x/Niagara/huron/integrated (root)
0:0:0>Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved
0:0:0>POST enabling CMP 0 threads: ffffffff.fffffff
0:0:0>VBSC mode is: 00000000.00000001
0:0:0>VBSC level is: 00000000.00000001
0:0:0>VBSC selecting Normal mode, MAX Testing.
0:0:0>VBSC setting verbosity level 2
0:0:0>Basic Memory Tests....Done
0:0:0>Test Memory....Done
0:0:0>Setup POST Mailbox ....Done
0:0:0>Master CPU Tests Basic....Done
0:0:0>Init MMU.....
0:0:0>NCU Setup and PIU link train....Done
0:0:0>L2 Tests....Done
```

```
0:0:0>Extended CPU Tests....-Chassis | major: Apr 21 10:51:09
ERROR: POST timed out. Not all system components tested.
Chassis | major: Host is running
```

回避方法：なし。再度、ホストの電源投入を行い、POST を実施してください。

prtdiag コマンドの出力結果にwarningが表示される場合がある (CR 6821325)

この問題は、システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みです。

prtdiag コマンドの出力結果において、電源装置の入力電圧センサー (V_IN_MAIN) が、warning と表示される場合があります。

Voltage sensors:

Location	Sensor	Status
SYS/MB/CMP0/MR0	V_VMEM	ok
SYS/MB/CMP0/MR0	V_+1V5_VDD	ok
SYS/MB/CMP1/MR1	V_VMEM	ok
SYS/MB/CMP1/MR1	V_+1V5_VDD	ok
SYS/MB	V_+3V3_STBY	ok
SYS/MB	V_+3V3_MAIN	ok
SYS/MB	V_+12V0_MAIN	ok
SYS/MB	V_VDDIO	ok
SYS/MB	V_VCOREL	ok
SYS/MB	V_VCORER	ok
SYS/MB	V_+1V5_IO	ok
SYS/MB	V_VMEML	ok
SYS/MB	V_VMEMR	ok
SYS/MB	V_VBAT	ok
SYS/PS0	V_IN_MAIN	warning (-48volts)
SYS/PS0	V_OUT_MAIN	ok
SYS/PS1	V_IN_MAIN	warning (-48volts)
SYS/PS1	V_OUT_MAIN	ok

回避方法：なし。表示だけの問題のため、無視してください。

システムファームウェア7.2.2.e以降で修正済みの問題

表 A-12 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6835857	システム電源投入後、Solaris OS 起動時に "chip reset error!" のメッセージが出力されて、Solaris OS の起動に失敗することがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 システム電源切断後、約 180 秒あけてから、システム電源オンを実施してください。
6819987	DC 入力電源モデルにおいて、以下のイベントログが繰り返し採取される場合があります。 showlogs コマンド出力結果抜粋： IPMI minor : "ID = 20a : 03/11/2009 : 02:31:48 : Current : /PS0/CUR_FAULT : State Asserted" IPMI minor : "ID = 20b : 03/11/2009 : 02:31:51 : Temperature : /PS0/TEMP_FAULT : State Asserted" IPMI minor : "ID = 20c : 03/11/2009 : 02:31:54 : Current : /PS0/CUR_FAULT : State Deasserted" IPMI minor : "ID = 20d : 03/11/2009 : 02:31:57 : Temperature : /PS0/TEMP_FAULT : State Deasserted"	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。 本体装置の保守要求 LED/ 温度超過 LED/ 電源装置保守要求 LED が点灯していない場合には、イベントログは無視してください。これらの LED が点灯している場合には、電源異常や温度異常が発生しておりますので、異常箇所の対処をしてください。
6805310	Enhanced Support Facility のマシン管理が処理装置のモデル情報、部品情報を正しく取得できず、正常に動作できないことがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 システム電源オフして、約 180 秒経過後、システム電源オンを実施してください。
6802433	DC 入力電源モデルにおいて、showpower -v コマンドの出力結果における INPUT limit の値が /SYS/PS0 と /SYS/PS1 で異なる場合があります。/SYS/PS0 の値が正しい値です。例については、「DC 入力電源モデルにおいて、showpower -v コマンドの出力結果が /SYS/PS0 と /SYS/PS1 で異なる場合がある (CR 6802433)」(123 ページ)を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。 表示だけの問題のため、無視してください。

表 A-12 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6801248	DC 入力電源モデルにおいて、システム電源投入時に、以下のイベントログが繰り返し採取される場合があります。 showlogs コマンド出力結果抜粋： Chassis minor:"Error getting status DC volt for PS0" Chassis minor:"Error getting status DC volt for PS1" Chassis minor: "Error getting status DC volt for PS0" Chassis minor: "Error getting status DC volt for PS0"	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。 無視してください。
6794672	PCI ボックスの電源ユニットを活性交換したあと、交換した電源ユニットのファンが正常であるにも関わらず、ファン異常が誤って検出されま	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 この現象が発生した場合、ILOM コマンド (set /SYS/IOX@XX/PSX clear_fault_action=true) を実行して、エラー情報をクリアしてください。
6784525	16 ハードディスク構成の装置において、スロット #8 ～ #15 のディスク活性交換時に、" 取り外し可能 LED" が点灯しません。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 " 取り外し可能 LED" の代わりに、cfgadm -l コマンドの実行結果を利用してください。状態が unconfigured になっていれば、活性交換可能です。 確認例： # cfgadm -l c1::dsk/c1t1d0 Ap_Id Type Receptacle Occupant Condition c1::dsk/c1t1d0 disk connected unconfigured unknown #

表 A-12 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6782508	/SP/powermgmt/policy プロパティが無効になっています。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 /SP/powermgmt/policy に対して、以下のプロパティが利用できるようになりました。 - Performance システムは使用可能電力をすべて使用できます。 - Elastic システムの電力使用を現在の利用レベルに適合させます。たとえば、作業負荷が変動した場合でも、相対利用率が常に 70% で保持されるように、システムコンポーネントに供給する電力を増減します。 このプロパティは、論理ドメイン（LDoms）環境でのみ有効です。 論理ドメイン（LDoms）環境でない場合、または、論理ドメイン（LDoms）構成が factory-default の場合は、項目の設定自体はできますが、電力消費の機能を活かすことはできません。
6781831	ILOM ファームウェアの NTP 機能を有効にしたあと、ホストの電源を投入したときに、Solaris OS 時刻が ILOM ファームウェアの補正された正しい時刻と比べて、ずれている場合があります。数十秒時刻が逆進したときの Solaris OS システムログの例 <pre>Nov 29 19:59:24 XXX genunix: [ID 904073 kern.notice] done Nov 29 19:58:23 XXX genunix: [ID 540533 kern.notice] ^MSunOS Release 5.10 Version Generic_137137-09 64-bit</pre>	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 Solaris OS 時刻がずれた場合は、以下の手順で復旧してください。 1. システムをシャットダウンします。 # shutdown -y -i0 -g0 2. システムをシングルユーザーモードで起動します。 {0} ok boot -s 3. システムの時刻を設定します。 # date 設定時刻 4. システムをリブートします。 # shutdown -y -i6 -g0

表 A-12 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6781815	ILOM リセット後、または本体装置の電源コード抜き差し後にサーバの電源を投入すると、OpenBoot PROM (OBP) の ok プロンプトでの、boot コマンドによる Solaris OS の起動に失敗する場合があります。以下に障害時の現象例を示します。 <pre>{0} ok boot ERROR: All device paths in boot- device have failed. (*) {0} ok</pre> OpenBoot PROM 環境変数 boot-device に設定されているデバイスパスが参照できず、Solaris OS の起動に失敗します。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ILOM リセット後、または本体装置の電源コード抜き差し後にサーバの電源を投入する際には、OpenBoot PROM 環境変数をご確認ください。特に、OpenBoot PROM 環境変数 use-nvramrc? を true に設定している場合、Solaris OS を起動する際には、ok プロンプトにおいて、use-nvramrc? が true に設定されていることを確認してから、boot コマンドを実行してください。以下に例を示します。 <pre>{0} ok printenv use-nvramrc? use-nvramrc? = true {0} ok</pre>
6772707	16 ハードディスク構成の装置で、ALOM CMT 互換シェルの showenvironment コマンド実行時、スロット #8 のハードディスクが搭載されているにもかかわらず、"NOT PRESENT" と出力されてしまいます。 出力例については、「16 ハードディスク構成の装置で、スロット #8 のハードディスクが搭載されているにもかかわらず、"NOT PRESENT" と出力されてしまう (CR 6772707)」(123 ページ) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ok プロンプトより、probe-scsi-all コマンドを利用することにより、状態を確認できます。確認例については、「16 ハードディスク構成の装置で、スロット #8 のハードディスクが搭載されているにもかかわらず、"NOT PRESENT" と出力されてしまう (CR 6772707)」(123 ページ) を参照してください。
6768806	電源ユニット (PSU) のプロパティを参照すると、プロパティを参照できずに、ILOM のセッションが切断される場合があります。 <pre>-> show -level all -o table /SYS/PS0 Target Property Value -----+-----+----- Connection to XXX.XXX.XXX.XXX closed. %</pre>	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。 ALOM CMT 互換シェルの showfru コマンドを利用することで、プロパティを確認できます。
6757022	ホストに電源が投入されている状態で、サービスプロセッサをリセットすると、ホストがクラッシュする場合があります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 システムに電源が投入されている間は、サービスプロセッサをリセットしないでください。この問題が発生した場合は、本体装置の電源をオフにしてからもう一度オンにしてください。
6743343	警告ルールの設定で "Alert Type" と " イベント " により、Test Alert (警告のテスト送信) が生成されないことがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし

表 A-12 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6738989	ILOM Web インタフェースの SNMP タブに、engineid を設定する項目が表示されません。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 CLI の set /SP/services/snmp engineid=(value) コマンドで設定を行ってください。
6733632	ILOM の "show -level all /SYS" コマンド実行時、/SYS/MB/SP 以下の情報が出力されません。 また、"show -level all /SYS/MB" でも、/SYS/MB/SP 以下の情報は出力されません。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 show /SYS/MB/SP コマンドを使用してください。
6731227	I/O ブランチを第一ドメイン（制御ドメイン）からゲストドメイン（I/O ドメイン）に割り当てなおすと、2つのケースで、論理ドメインがハングアップする可能性があります。 詳細は、「I/O ブランチを制御ドメインからゲストドメインに割り当てなおすと、論理ドメインがハングアップする（CR 6731227）」（125 ページ）を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 詳細は、「I/O ブランチを制御ドメインからゲストドメインに割り当てなおすと、論理ドメインがハングアップする（CR 6731227）」（125 ページ）を参照してください。
6731027	特定の状況では、Solaris OS が停止したときに、システムの電源が切断されなくなる場合があります。このような場合には、システムコンソールまたは SC コンソールにメッセージが表示されず、システムが応答していないように見えることがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 次のいずれかの方法を使用して、システムの電源を切ります。 • ILOM の stop/SYS コマンド • ALOM の poweroff コマンド
6730610	特定の状況で T5120/T5220 サーバの電源を入れると、メモリーに関するエラーメッセージが表示される場合があります。 詳細は、「電源投入時にメモリーに関するエラーメッセージが表示される（CR 6730610）」（127 ページ）を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 詳細は、「電源投入時にメモリーに関するエラーメッセージが表示される（CR 6730610）」（127 ページ）を参照してください。
6729474	ILOM ブラウザインタフェースの powercycle コマンドは、システムの正常な電源切断に必要な時間を十分確保していないため powercycle が完了しない場合があります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。
6718841	Sun Explorer で ILOM 情報（Tx000）を採取できない場合があります。また、採取に失敗した場合、エラーになるまでに 30 分以上かかる場合があります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ILOM 情報（Tx000）を別の方法で採取できます。 詳細は、「Sun Explorer で ILOM 情報（Tx000）を採取できない場合がある（CR 6718841）」（128 ページ）を参照してください。

表 A-12 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6694693	ILOM には Administrator と Operator の 2 つの権限しか存在しません。したがって、下記マニュアルにある ALOM CMT の userperm コマンドに関する記載は適切ではありません。 [c]、[u]、[a]、[r] のうちいずれかを設定した場合 Administrator 権限となり、何も設定しない場合 Operator 権限となります。 『Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル』 <pre>userperm [username] [c][u][a][r]</pre>	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。
6692478	ILOM ユーザーアカウントの先頭文字に使用禁止文字 ("#", "+", ":" など) を使用すると、ユーザー管理機能などの ILOM 機能に不具合が発生する場合があります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。 該当するユーザーアカウントを削除できる場合は、ユーザーアカウントを削除することにより、ILOM を復旧できます。削除できない場合には、ILOM の設定を工場出荷時のデフォルト設定に戻すことにより、ILOM を復旧できます。 手順および ILOM ユーザーアカウントに使用可能な文字の詳細は、『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。
6656116	DIMM モジュールが故障すると MCU が切り離され、メッセージがコンソールに出力されることがあります。 メッセージの例については、「DIMM モジュール故障時に MCU を切り離すことがある（CR 6656116）」（130 ページ）を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 故障した DIMM モジュールを特定して交換してください。
6624699	BUI の "Active directory" により、Role を Administrator/Operator に変更しても、Role が空白で表示されます。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ILOM にログインして、 /SP/clients/activedirectory の defaultrole の設定を確認してください。
6623454	BUI の "SSH Server" タブにより、"Disable" から、"Enable" へ変更したあと、"Disable" と表示されてしまいます。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 SSH の設定は、有効になってます。BUI の Refresh 機能により、再表示を実施してください。

表 A-12 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6586305	初期設定以外の論理ドメインを設定したあとで SP の <code>setdate</code> コマンド（ALOM 互換シェル）を使用すると、初期設定以外のドメインの日付が変更されることがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 <code>setdate</code> コマンドを使用して SP の日付を設定する場合は、論理ドメイン設定を変更および保存する前に行います。 初期設定以外の論理ドメイン設定を保存したあとで <code>setdate</code> を使用した場合は、初期設定以外の各ドメインを Solaris OS に向けてブートし、日付を修正する必要があります（<code>date(1)</code> または <code>ntpdate(1M)</code> を参照）。
6582340	仮想コンソールに接続し、エスケープ文字シーケンス（<code>#.</code>）を入力して SP CLI に入るとき、CLI プロンプトが表示される前に次の 2 つのエラーメッセージが表示される場合があります。 <pre>read: Connection reset by peer Write to vbsc: Illegal seek</pre> この状況は、コンソールからの出力が大量にある場合に発生し、コンソールが使用されていないときに、コンソールは使用中であると示すことがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 <code>console</code> コマンドでホストへの接続を開始するときに、書き込みアクセスを拒否された場合は、<code>console -f</code>（強制オプション）を入力して、読み取り / 書き込みのアクセス権を取得します。
6579390	DIMM を無効にしたあとで、OpenBoot PROM バナーにメモリー量の減少が表示されません。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ホストの電源がオンのときに <code>ASR</code> コマンドを使用していずれかの CPU リソースまたはメモリーリソースを手動で無効にした場合は、ホストの電源をオフにしてからもう一度オンにして、リソースの無効化を完了する必要があります。 電源をオフにしてからもう一度オンにしたあと、リソースは無効になり、正しい情報がバナーに表示されます。
なし	以下のいずれかに当てはまる場合、Solaris OS 再起動時にハングアップします。 • Solaris 10 に kernel パッチ 147440-25 以降を適用した場合 • Solaris 10 1/13 以降をインストールした場合 • Solaris 11 を Solaris 11.1 へアップグレードした場合 • Solaris 11.1 以降をインストールした場合	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。

DC入力電源モデルにおいて、showpower -v コマンドの出力結果が/SYS/PS0と/SYS/PS1で異なる場合がある（CR 6802433）

この問題は、システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みです。

DC 入力電源モデルにおいて、showpower -v コマンドの出力結果における INPUT limit の値が /SYS/PS0 と /SYS/PS1 で異なる場合があります。/SYS/PS0 の値が正しい値です。

showpower -v コマンド実行例：

```

SC> showpower -v
-----
Power Supplies:
-----

```

Supply	Status	INPUT Power (W)	OUTPUT Power (W)
--------	--------	-----------------------	------------------------

```

-----
/SYS/PS0    OK          172.8    123.8
/SYS/PS1    OK          153.6    133.3
-----
Total Power          326.4
-----

```

Supply	INPUT Volt (V)	INPUT Current (A)	INPUT limit (A)	OUTPUT Volt (V)	OUTPUT Current (A)	OUTPUT limit (A)
--------	----------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------	--------------------------	------------------------

```

-----
/SYS/PS0    -48.0      3.60      37.20      11.9      10.40     99.20
/SYS/PS1    -48.0      3.20      8.00 (*)   11.9      11.20     99.20
-----

```

```

SC>

```

(*)：不正値。/SYS/PS0 の値が正しい値です。

回避方法：なし。表示だけの問題のため、無視してください。

16ハードディスク構成の装置で、スロット#8のハードディスクが搭載されているにも関わらず、"NOT PRESENT"と出力されてしまう（CR 6772707）

この問題は、システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みです。

16 ハードディスク構成の装置で、ALOM CMT 互換シェルの `showenvironment` コマンド実行時、スロット #8 のハードディスクが搭載されているにも関わらず、"NOT PRESENT" と出力されてしまいます。

次に例を示します。

```
SC> showenvironment
:
省略
:
-----
System Disks:
-----
Disk          Status          Service          OK2RM
-----
/SYS/HDD0     OK               OFF              OFF
/SYS/HDD1     OK               OFF              OFF
/SYS/HDD2     OK               OFF              OFF
/SYS/HDD3     OK               OFF              OFF
/SYS/HDD4     OK               OFF              OFF
/SYS/HDD5     OK               OFF              OFF
/SYS/HDD6     OK               OFF              OFF
/SYS/HDD7     OK               OFF              OFF
/SYS/HDD8     NOT PRESENT     OFF              OFF
/SYS/HDD9     OK               OFF              OFF
/SYS/HDD10    OK               OFF              OFF
/SYS/HDD11    OK               OFF              OFF
/SYS/HDD12    OK               OFF              OFF
/SYS/HDD13    OK               OFF              OFF
/SYS/HDD14    OK               OFF              OFF
/SYS/HDD15    OK               OFF              OFF
:
省略
:
SC>
```

回避方法： `ok` プロンプトより、`probe-scsi-all` コマンドを利用することにより、状態を確認できます。

次に例を示します。

```
{0} ok probe-scsi-all
/pci@0/pci@0/pci@2/scsi@0
:
省略
:
Target 8
```

```
Unit 0   Disk      SEAGATE ST914602SSUN146G0603   286739329 Blocks,  
146 GB  
SASAddress 5000c5000b36a225   PhyNum 8  
:  
省略  
:  
{0}
```

I/O ブランチを制御ドメインからゲストドメインに割り当てな おすと、論理ドメインがハングアップする (CR 6731227)

この問題はシステムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みです。

I/O ブランチを第一ドメイン (制御ドメイン) からゲストドメイン (I/O ドメイン) に割り当てなおすと、次の 2 つの状況で、論理ドメインがハングアップする可能性があります。

■ ケース 1

I/O ブランチを第一ドメインの論理ドメイン構成から削除して、同じ I/O ブランチを第一ドメインに再び追加すると、再起動時に I/O なしでシステムが起動するか、システムが OpenBoot PROM でハングアップするか、または I/O ブランチ全体とこれに関連する I/O デバイスが第一ドメインに存在しなくなる可能性があります。たとえば、次の処理をここに示した順番で実行すると、第一ドメインが OpenBoot PROM でハングアップする場合があります。

1. **ldm rm-io pci@500 primary** (pci@500 を構成から削除)
2. **ldm rm-io pci@600 primary** (pci@600 を構成から削除)
3. **ldm add-io pci@500 primary** (pci@500 を構成に再び追加)
4. **ldm add-config config_name** (新しい構成を SP に保存)
5. 正常な停止および電源の再投入

■ ケース 2

I/O ブランチを番号順以外の順番でゲストドメインに割り当てた場合、1 つ以上のゲストドメインが起動できなくなります。たとえば、次の処理をここに示した順番で実行すると、1 つ以上のゲストドメインが起動したときにハングアップする場合があります。

1. **ldm add-io pci@600 guestA**
2. **ldm add-io pci@500 guestB**
3. **ldm add-io pci@700 guestC**

回避方法：どちらの状況でも、次のガイドラインに従って回避できます。

■ ケース 1

I/O ブランチを第一ドメインから削除して、そのあとすぐに第一ドメインに再び追加しないでください。

■ ケース 2

I/O ブランチは必ず番号順にゲストドメインに追加するようにしてください。

例 1: 第一ドメインが pci@400（ボード上のディスク /USB/DVD とスロット PCIe0 および PCIe1）を使用していて、pci@500、pci@600、および pci@700 を 3 つのゲストに割り当てる場合：

1. **ldm add-io pci@500 guestB**
2. **ldm add-io pci@600 guestA**
3. **ldm add-io pci@700 guestC**

例 2: 第一ドメインが pci@500（ボード上の 1 Gbps および 10 Gbps ネットワーク、スロット PCIE4、PCIE5、XAU10、XAU11）を使用していて、pci@400、pci@600、および pci@700 を 3 つのゲストに割り当てる場合：

1. **ldm add-io pci@400 guestB**
2. **ldm add-io pci@600 guestA**
3. **ldm add-io pci@700 guestC**

このようなハングアップが発生した場合は、以前の動作していた構成か、出荷時のデフォルト構成のいずれかを使用してシステムを起動すると、回復できます。サービスプロセッサ（SP）の ALOM CLI で次の一連のコマンドを実行することによって、以前の動作していた構成か、出荷時のデフォルト構成でシステムを起動できます。

1. **sc> bootmode config="name_of_config"**
2. **sc> poweron**
3. **sc> poweroff**

name_of_config は、サービスプロセッサに保存されていた、動作していた構成です。このような構成がサービスプロセッサに存在しない場合は、構成名に「factory-default」を使用してください。

注 - 上記の手順で「factory-default」を使用した場合には、そのあとですべてのゲストドメインおよび第一ドメインを再構成する必要があります。

電源投入時にメモリーに関するエラーメッセージが表示される (CR 6730610)

この問題は、システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みです。

特定の状況で T5120/T5220 サーバの電源を入れると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Chassis | major: Jul 27 16:40:17 ERROR: dt_allocprop: prop == NULL:
Not enough memory to expand MD for new property fwd
Chassis | major: Jul 27 16:40:17 ERROR: dt_allocnode: Not enough
memory to expand MD for new node mblock
Chassis | critical: Jul 27 16:41:55 FATAL: The Service Processor
software has taken a FATAL configuration error,
Chassis | critical: the HOST Process cannot be started.
Chassis | critical: Please examine the logs to determine the reason
for failure and then
Chassis | critical: reset the Service Processor
```

このエラーは、異なる CMP およびメモリーモジュールの間でメモリー量に大きな相違がある場合に発生します。たとえば、CMP0+MEM0 のメモリーが最大の 128G バイトになっても、CMP1+MEM1 のメモリーが 16G バイトしかない場合に、このエラーが発生する可能性があります。この状態は、2 つの異なる状況で発生する場合があります。それぞれの状況によって、回復手順が用意されています。

- ケース 1 - 64 枚の 8G バイト FB-DIMM を搭載した T5120/T5220 サーバで複数の FB-DIMM に障害が発生していることを POST が検出した場合

POST が FB-DIMM をオフラインにした場合、その FB-DIMM をすぐに交換する必要があります。障害のある FB-DIMM をすぐに交換できない場合、または交換が望ましくない場合には、もう一方の CMP/メモリーモジュールの対応するメモリーブランチ上にある対応する FBDIMM を無効にして、連続的なメモリー構成を保証する必要があります。

次のいずれかを入力します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> set /SYS/component component_state=disabled
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> disablecomponent asr-key
```

次のいずれかのコマンドを入力して、有効または無効にしたデバイスのリストを表示します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> show components
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> showcomponent
```

無効になっている FM-DIMM デバイスごとに、もう一方の CMP/ メモリーモジュールユニットに関連付けられている、対応する FB_DIMM を無効にします。たとえば、次のデバイスが無効になっているとします。

```
/SYS/MB/MEM0/CMP0/BR0/CH0/D1
```

この場合は、次のデバイスをさらに無効にします。

```
/SYS/MB/MEM1/CMP1/BR0/CH0/D1
```

```
/SYS/MB/MEM2/CMP2/BR0/CH0/D1
```

```
/SYS/MB/MEM3/CMP3/BR0/CH0/D1
```

- ケース 2 - T5120/T5220 サーバに新しい FBDIMM を追加し、CMP/ メモリーモジュールペアの 1 つにもう一方のモジュールに比べて著しく大きなメモリーを構成した場合

CMP/ メモリーモジュールにまたがって FB-DIMM を再度割り当てて、それぞれの CMP/ メモリーモジュールペアで FB-DIMM の総数と種類が同じになるようにしてください。

Sun Explorer で ILOM 情報 (Tx000) を採取できない場合がある (CR 6718841)

この問題は、システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みです。

Sun Explorer で ILOM 情報 (Tx000) を採取できない場合があります。また、採取に失敗した場合、エラーになるまでに 30 分以上かかる場合があります。

回避方法： ILOM 情報 (Tx000) を別の方法で採取できます。

1. 以下のようにオプションを指定します。

```
# /opt/SUNWexplo/bin/explorer -w !Tx000
```

2. ILOM のバージョンを確認します。

ILOM のバージョンによって、情報の採取方法が異なります。

■ バージョンの確認方法

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> version  
SP firmware 3.0.3.20.c  
      ~ <-- ILOM3.0  
SP firmware build number: 45383  
SP firmware date: Tue Jun  2 15:38:58 PDT 2009  
SP filesystem version: 0.1.22  
  
->
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
SC> showsc version  
SP firmware version: 3.0.3.20.c  
      ~ <-- ILOM3.0  
  
SC>
```

3. ILOM 情報 (Tx000) を採取します。

■ ILOM3.0 以降の場合

ILOM3.0 概念ガイドにおける「システムの問題を診断するための SP データの収集」の項を参照し、SP データの情報を採取してください。

■ ILOM2.x 以前の場合

ILOM と ALOM の情報を採取し、Sun Explorer の出力結果とともに保守担当者に提供してください。

a. ILOM 上で以下の情報を採取します。

```
show /SP/users  
show /SP/users/admin  
show /HOST
```

b. ALOM 互換のユーザーを作成し、ALOM 上で以下の情報を採取します。

```
consolehistory -v  
showcomponent  
showdate  
showenvironment  
showfaults -v  
showfru  
showhost  
showkeyswitch  
showlogs -v -g 0 -p p
```

```
shownetwork
showplatform -v
showsc
showsc version -v
showusers
```

c. ILOM をリセットします。

```
-> reset /SP
Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y
Performing hard reset on /SP
```

DIMMモジュール故障時にMCUを切り離すことがある（CR 6656116）

この問題は、システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みです。

DIMM モジュールが故障すると MCU が切り離され、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。

メッセージ表示例：

```
Jun 04 06:11:22: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:22 ERROR: MCU2
initialization failed: DRAM init, disabled"
Jun 04 06:11:23: Fault   |critical: "SP detected fault at time Wed
Jun  4 06:11:23 2008. /SYS/MB/CMP0/MCU2 Forced fail (DRAM init)"
Jun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR:
MB/CMP0/MCU3 unused because MB/CMP0/MCU2 is not configured"
Jun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR:
MB/CMP0/L2_BANK4, MB/CMP0/L2_BANK5 unused because MB/CMP0/MCU2 is
not configured"
ÅJun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR:
MB/CMP0/L2_BANK6, MB/CMP0/L2_BANK7 unused because MB/CMP0/MCU3 is
not configured"
Jun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR: Degraded
configuration: system operating at reduced capacity"
Jun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR: System
DRAM Available: 002048 MB"
```

showfaults コマンド表示例：

```
Last POST Run: Wed Jun  4 06:14:17 2008
Post Status: Passed all devices
ID FRU          Fault
  1 /SYS/MB      SP detected fault: /SYS/MB/CMP0/MCU2 Forced fail
(DRAM init)
```

回避方法：故障した DIMM モジュールを特定して交換してください。

システムファームウェア7.1.6.d以降で修正済みの問題

表 A-13 システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6728569	SSH クライアントから、ILOM にログインしたとき、ログインが完了するまでの時間 (ILOM プロンプト "->" または "SC>" が表示するまでの時間) が 20 秒～30 秒以上かかることがあります。通常は約 10 秒です。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 システム電源停止後、電源コードを取り外し、約 180 秒あけてから、再度電源コードを接続してください。
6694475	ALOM CMT 互換シェルの showfru コマンドのオプションを利用することができません。どのオプションを指定しても、すべての情報が表示されず。 showfru [-g lines] [-s -d] [FRU] -g : 指定ラインごとの表示 -s : 静的情報のみ -d : 動的情報のみ	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 なし。
6676561	Solaris OS 起動時に BAD TRAP が発生し、Solaris OS がパニックすることがあります。 メッセージ例： panic[cpu12]/thread=300044434c0: BAD TRAP: type=31 rp=2a101c83320 addr=8 mmu_fsr=0 occurred in module "<unknown>" due to a NULL pointer dereference	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 なし。
6611700 6601900	OpenBoot PROM に input-device=keyboard が設定されている場合、システムホストの電源投入時またはリセット時に次の警告メッセージが表示されることがあります。 No keyboard support found 米国キーボードは正しく機能しますが、国際キーボード（フランス、ドイツなど）は米国キーボードとして動作します。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 USB キーボードを使用しないでください。代わりに、input-device 変数を virtual-console に設定して、仮想コンソールを使用してください。

表 A-13 システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6610861 6613564	u-boot 状態に入るためのプロンプトと文字シーケンスが、以前のプラットフォームと一致していません。 サービスプロセッサのブート中、プロンプト Hit any key to stop autoboot が表示されている状態でキーを 5 秒間押すと、サービスプロセッサのブートシーケンスが停止し、u-boot プロンプトが表示されます。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 サービスプロセッサのブートシーケンスを再開するには、boot コマンドを入力します。
6604305	システムの初期化中にメモリーが検出されないことがあり、次のエラーが報告されます。 ERROR: MB/CMP0/BR3/CH0/D0 must be populated. また、DIMM 情報を一斉に更新している ILOM が原因で、DIMM の検出が失敗することがあります。DIMM の検出が失敗すると、ホストは縮小されたメモリー構成でブートするか、ブートに失敗します。サービスプロセッサ（SP）がリセットされた場合は、ILOM が動的 fruid 更新を開始する前に DIMM がすでに検出されているため、この状況が発生する可能性はあまりありません。SP をリセットせずにホストの電源のオン/オフが繰り返された場合は、この問題が発生する可能性が高くなります。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 ホストの電源をオフにし、SP をリセットし、ホストの電源をオンにします。
6602913	IPMI の電源オフ操作または電源をオフにしてもう一度オンにする操作が失敗することがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 IPMI の電源オフ操作、または電源をオフにしてもう一度オンにする操作を繰り返すか、残りの使用可能なインタフェースのいずれかを使用してこの操作を実行してください。
6599334	XAUI インタフェースを無効にする必要がある場合に、無効にならないことがあります。 通常は、CPU ネットワークインタフェースユニット（NIU）が無効になると（POST で検出された障害によって、または手動で）、対応する XAUI インタフェース（インストールされている場合）も無効になるはずですが、無効になりません。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。
6598381	PCIe インタフェースユニット（PIU）が誤ったエラー割り込みを発行する場合があります。 例については、「 誤った PIU エラー（CR 6598381） 」（135 ページ）を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 これらのイベントはシステムに影響しないため、無視してかまいません。

表 A-13 システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6596503	Solaris OS の prtpticl -v コマンドを使用した場合の出力に、実際には存在しない CPU コアまたはストランドが表示され、動作ステータスが enabled になっていることがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 代わりに、prttdiag コマンドまたは prtpticl -c cpu コマンドの出力を使用してください。
6593547	誤ったウォッチドッグリセットエラーが発生することがあります。 このエラーが発生した場合、ブートシーケンスは完了しません。ブートを試み、boot シーケンスが失敗すると、I/O ドメイン、制御ドメインのいずれかに次のエラーが出力される場合があります。 "ERROR: Last Trap: Watchdog Reset".	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 このエラーは誤っているので、無視してかまいません。 ok プロンプトで boot と入力して続行します。
6591367	システムの DIMM FRU 情報は、ipmitool ユーティリティでは取得できません。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 SP ALOM CMT 互換 CLI (showfru コマンド) または SP ILOM CLI (show fru-name コマンド) で DIMM FRU 情報を取得してください。詳細は、『Integrated Lights Out Management (ILOM) 補足マニュアル SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ』を参照してください。
6589043	イベントログにあるエントリが 21 個未満の場合、showlogs コマンドを実行してもイベントが 1 つも表示されません。 この状況は、次のシナリオで発生することが判明しています。 - システムの新規インストール後、つまりアウトオブボックスの状態では、サービスプロセッサ (SP) イベントログにあるエントリは 21 個未満であると考えられます。 - ブラウザインタフェース (BI) または ILOM CLI を使用して SP イベントログをクリアしたあとは、ALOM CMT 互換 CLI の showlogs コマンドを実行しても、21 個以上の新しいイベントが記録されるまで新しいイベントは表示されません。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 showlogs -v オプションを使用してログを表示します。21 個以上のイベントがログファイルに記録されたら、showlogs をオプションなしで使用方法に戻ることができます。
6588999	ILOM CLI に SSH で接続し、SP がリセットされると、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。 Performing hard reset on /SP failed reset: Transport error - check errno for transport error	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 このエラーは無視できます。コマンドは実際には成功し、SP はリセットされます。SP がリセットされるときに、SP への SSH 接続が切断されます。

表 A-13 システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6587919	電源投入後、初めて <code>show /SYS</code> を実行すると、プロダクト名に (none) が表示されます。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 <code>show /SYS</code> コマンドを再度実行すると、プロダクト名が表示されます。
6587869	<code>consolehistory -e</code> コマンドを 1000 行を超える値を指定して使用すると、SP が使用不能になることがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 <code>consolehistory</code> のログ全体を参照するには、 <code>-v</code> オプションを使用します。 1000 行を超える <code>consolehistory</code> コマンドの実行に関連する問題から復旧する必要がある場合は、SP をリブートします。
6585340	<code>uadmin 2 0</code> コマンドと <code>reboot</code> コマンドが古い <code>bootmode</code> 設定を読み取ります。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 「 <code>uadmin 2 0</code> コマンドと <code>reboot</code> コマンドが古い <code>bootmode</code> 設定を読み取る (CR 6585340)」(136 ページ) を参照してください。
6583392 6571886	POST のパワーサイクルテストで、断続的な POST PIU0 リンクトレインエラーが発生することがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 次のように、システムの電源をオフにしてからもう一度オンにします（例では ALOM CMT 互換 CLI を使用しています）。 <code>SC> poweroff -fy</code> <code>SC> clearasrdb</code> <code>SC> poweron -c</code>
6582853	<code>showfaults</code> ALOM CMT 互換コマンドが、実際に障害のある DIMM または PCIe カードではなく、マザーボードに障害があると報告します。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 次のウェブサイトにある、Predictive Self-Healing (PSH) Knowledge Article で説明されている障害管理ユーティリティを使用します。 http://www.sun.com/msg/MSGID (MSGID は PSH メッセージ ID です。) 詳細は、「 <code>showfaults</code> コマンドで、DIMM ではなくマザーボードが障害ありとして示される (CR 6582853)」(137 ページ) を参照してください。

表 A-13 システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6577528	端末サーバの break コマンドが SP のシリアルポートに対して機能しません。 端末サーバ（Cisco ASM シリーズなど）で Telnet を使用して SP シリアル回線に接続し、Solaris ホストにブレークを送信しようとしても、break コマンドは機能せず、SP に無視されます。サンプル出力については、「SP シリアル回線端末サーバでの break コマンドが機能しない（CR 6577528）」（138 ページ）を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 SP から break コマンド（ILOM コマンドまたは ALOM CMT 互換コマンド）を使用して、Solaris ホストにブレークを送信します。 詳細は、『Integrated Lights Out Management (ILOM) 補足マニュアル SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ』を参照してください。
6549028	netsc_commit コマンドを実行すると、システムが異常停止する場合があります。 このネットワークは、シリアル接続から見えない可能性があります。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 システムをリブートします。 リブートしても SP がリセットされない場合は、システムの AC 電源をオフにしてからもう一度オンにし、SP を回復させます。アクティブなドメインが失われることに注意してください。
6541482	POST が常に使用可能な最小のストランド（そのストランドが無効な場合も含む）で開始されません。 最初に使用できる物理コアのプロセッサストランド 0 に無効のマークが付いている場合（showcomponent コマンドの出力で、無効なデバイスのリストに表示されます）、初期化プロセスによって新しいマスターストランドが選択され、無効なストランドはオフラインになります。 しかし、電源投入およびリセットでは、最初に使用できる物理コアのストランド 0 で常に行が開始されるため、無効なプロセッサストランドを使用してシステムの初期化と POST の実行が行われます。 この問題が発生すると、システムは診断の実行に失敗することがあります。また、予測不可能な方法でシステムに障害が発生することもあります。その結果、必要なファームウェアおよびソフトウェアコンポーネントが起動されない場合があります。	注 - システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済み。 最初の物理コアのストランド 0 が良好であることが判明していれば、enablecomponent ALOM CMT 互換コマンドを使用してストランド 0 を有効にできます。そのあと、システムのパワーオンリセットを実行します（poweron ALOM CMT 互換コマンドのあとに poweroff を続けます）。 最初の物理コアのストランド 0 が不良であることが判明している場合は、回避方法がありません。マザーボードを交換する必要があります。

誤ったPIUエラー（CR 6598381）

この問題は、システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みです。

PIU（PCIe インタフェースユニット）が誤ったエラー割り込みを発行する場合があります。

次は、診断後に報告されるイベントの例です。

```
SUNW-MSG-ID: FMD-8000-0W, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor
EVENT-TIME: Mon Aug 27 10:07:33 EDT 2007
PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise-T5220, CSN: -, HOSTNAME: xxxxxxxx
SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0
EVENT-ID: dd9a4415-9be4-cb55-d061-8804b8009d3c
```

次は、fmdump コマンドによって報告されるイベントの例です。

```
# fmdump -eV -u dd9a4415-9be4-cb55-d061-8804b8009d3c
TIME                                CLASS
Aug 27 2007 10:06:15.496599680 ereport.fm.ferg.invalid
nvlist version: 0
class = ereport.fm.ferg.invalid
ena = 0xd4e233fe480002
info = DMU Core and Block Error Status(0): No bits set
  raw-data = 0x2 0x1a62441a01d844 0x3000000000000005 0x4b63c07df9ff
0x3e002421030607 0x
3e 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0 0x0
__ttl = 0x0
__tod = 0x46d2da57 0x1d998280
```

これらのイベントはシステムに影響しないため、無視してかまいません。

uadmin 2 0 コマンドと reboot コマンドが古い bootmode 設定を読み取る (CR 6585340)

この問題は、システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みです。

制御ドメインの LDoms 変数は、制御ドメインで OpenBoot PROM の setenv コマンドを使用する、制御ドメインで Solaris の eeprom コマンドを使用する、または ILOM の bootmode bootscript オプションを使用するという 3 つの方法のいずれかで変更できます。setenv コマンドおよび eeprom コマンドを使用して行った変更は、すぐに適用されます。bootmode コマンドを使用して行った変更は、どのような種類のリセットでも、次のリセット時に適用されます。

上記の 3 つの方法のいずれかで行った変更は、次回の変更まで有効です。つまり、いかなる方法で LDoms 変数の値を変更しても、一度変更されたら、その値は再び変更されるまで有効です。

ところが、この問題が原因で、bootmode コマンドを使用して行った変更は、パワーオンリセットを実行しないと有効になりません。また、以後の (パワーオンリセット以外の) リセットのたびに、setenv コマンドまたは eeprom コマンドを使用して今回のリセットまでに行った変更が上書きされます。つまり、bootmode コマンドを使用して行った変更を有効にするには、パワーオンリセットが必要です。setenv コマ

ンドまたは `eeeprom` コマンドを使用して行った変更は、次回のリセットまでしか維持されません。その時点で、変数は最後の `bootmode` コマンドで設定された値に戻ります。`bootmode` の設定が維持された状態は、マシンの電源をオフにしてからもう一度オンにするまで続きます。電源をオフにしてもう一度オンにすると、前回の `bootmode` 設定は適用されません。`setenv` コマンドまたは `eeeprom` コマンドによって反映されるすべての変更は、リセットを挟んでも維持されます。少なくとも、次に `bootmode` コマンドを実行したあとに電源をオフにしてもう一度オンにするまで維持されたままです。

回避方法：`bootmode` コマンドが実行された直後に、パワーオンリセットで制御ドメインを再起動し、制御ドメインが **OpenBoot PROM** または **Solaris OS** のいずれかに向けてブートされたあとに、もう一度再起動します。最初のパワーオンリセットによって、`bootmode` コマンドが有効になり、2 番目のパワーオンリセットによって、設定の維持に関する問題が回避されます。

制御ドメインは、ALOM CMT 互換 CLI `powercycle` コマンドを使用してパワーオンリセットによってリセットできます。制御ドメインが **Solaris OS** に向けてブートされる場合は、`powercycle` コマンドを実行する前に、必ず **Solaris OS** を適切にシャットダウンしてください。

showfaults コマンドで、DIMMではなくマザーボードが障害ありとして示される (CR 6582853)

この問題は、システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みです。

ホストでの PSH (予測的セルフヒーリング) 診断で障害のある DIMM または PCIe アダプターがあったシステムでは、ALOM の `showfaults` コマンドで、障害のある FRU が DIMM または PCIe アダプターではなくマザーボード (`/SYS/MB`) として表示されます。この問題は、次の PSH メッセージ ID (MSGID) に対して発生します。

- SUN4V-8000-E2
- SUN4V-8000-D
- SUN4-8000-4P
- SUN4-8000-A2
- SUN4-8000-75
- SUN4-8000-9J
- SUN4-8000-D4
- PCIEX-8000-0A
- PCIEX-8000-DJ
- PCIEX-8000-HS

この問題を説明するため、ALOM CMT 互換 CLI からの例を次に示します。この例では、実際に障害のあるコンポーネントはメモリー DIMM であるのに対し、マザーボード (/SYS/MB) が障害のある FRU として表示されています。

```
SC> showfaults -v
Last POST Run: Jul. 13 18:32:11 2007

Post Status: Passed all devices
ID Time          FRU          Class          Fault
0 Jul 13 19:31:34 /SYS/MB          Host detected fault, MSGID:
SUN4V-8000-DX    UUID: 7b471945-ceef-eea0-c3ad-85ca140be5b2
```

また、show /SYS/faultmgmt コマンド (ILOM CLI) によって表示される出力の問題もあります。コンポーネントの fault_state プロパティ、および ILOM BI の Fault Management タブの下に一覧表示される障害コンポーネントも、上記の PSH メッセージ ID について不正です。また、FB-DIMM 障害インジケータは動作せず、マザーボードに対応する FRUID には障害が記録されます。

回避方法：Fault Management ユーティリティをホストで使用し、障害のある DIMM または PCIe アダプターの場所を特定します。ユーティリティの使用方法については、Predictive Self-Healing Knowledge Article で説明されています。次のウェブサイトアクセスしてください。<http://www.sun.com/msg/MSGID>

ここで、MSGID は、このセクションに箇条書きされている PSH メッセージ ID の 1 つであり、ALOM の showfaults コマンドにより表示されます。

障害のある DIMM については、エアダクトまたはシステムカバーの DIMM ラベルを参照して、DIMM の位置を確認してください。

障害のある DIMM を交換し、PSH 障害をクリアすると、showfaults のエントリが削除され、マザーボード FRUID に記録された障害がクリアされます。

SP シリアル回線端末サーバでのbreak コマンドが機能しない (CR 6577528)

この問題は、システムファームウェア 7.1.6.d 以降で修正済みです。

端末サーバ (Cisco ASM シリーズなど) で Telnet を使用して SP シリアル回線に接続し、Solaris ホストにブレイクを送信しようとしても、break コマンドは機能せず、SP に無視されます。SP CLI から break コマンドを使用して、Solaris ホストにブレイクを送信してください。

次に示すのは、ALOM CMT 互換 CLI で Solaris ホストにブレイクを送信する場合のサンプル出力です。

1. `console` コマンドを使用してホストにログインします。

```
sc> console
```

2. `#.` を入力してホストプロンプトに戻ります。

```
sc> #.  
Solaris-host-prompt>
```

3. `#.` を入力して、`SP ALOM CMT 互換 CLI` にエスケープします。エスケープシーケンスはエコーされません。

```
Solaris-host-prompt> #.  
sc>
```

4. `break` コマンドを入力します。

```
sc> break -c -y
```

5. `#.` を入力して、`SP ALOM CMT 互換 CLI` に戻ります。

```
sc> #.  
c)ontinue, s)ync, r)eboot, h)alt?
```

次に示すのは、`SP ILOM CLI` で Solaris ホストにブレイクを送信する場合のサンプル出力です。

1. `ILOM` の `console` コマンドを使用してホストにログインします。

```
-> start /SP/console  
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y  
Serial console started.To stop, type #.  
Solaris-host-prompt>
```

2. `#.` を入力して、`SP ILOM CLI` にエスケープします。エスケープシーケンスはエコーされません。

```
Solaris-host-prompt> #.  
->
```

3. `break` コマンドを次のように入力します。

```
-> set /HOST send_break_action=break  
->
```

console コマンドを使用して Solaris ホストに再びログインします。

```
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
Serial console started.To stop, type #.
c)ontinue, s)ync, r)eboot, h)alt?
```

SP CLI からの break コマンドの使用の詳細は、『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』および『Integrated Lights Out Management (ILOM) 補足マニュアル SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバ』を参照してください。

システムファームウェア7.1.3.d以降で修正済みの問題

表 A-14 システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6689590	Solaris OS から "shutdown -i0 -g0 -y" コマンドを実行し、OpenBoot PROM (OBP) に移行後、 OpenBoot PROM プロンプトより boot コマンドを実行しても Solaris OS のブート処理が開始されないことがあります。 また、ILOM に移行後しばらくすると、 "plathwsvcd: Another instance is running." メッセージが出力され、一部の ILOM コマンド (consolehistory -v コマンド等) が実行できなくなることがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済み。 システム電源停止後、電源コードを取り外し、約 180 秒あけてから、再度電源コードを接続してください。
6676309 6667409	Solaris OS で NTP サーバを使用したとき、NTP による時刻補正ができず、時刻遅れが発生することがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済み。 ファームウェアの更新が行えない場合には、次の設定を Solaris OS の /etc/system ファイルに追加し、Solaris OS を再起動してください。 NTP の補正モード設定が slew モードの場合： • プロセッサ周波数 1.2GHz の場合： set sys_tick_freq=1165379275 • プロセッサ周波数 1.4GHz の場合： set sys_tick_freq=1415103392

表 A-14 システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6654695	/SYS オブジェクトの clear_fault_action プロパティを true に設定した場合、以下のメッセージが表示されますが、処理は何も実行されません。 メッセージ例： Set clear_fault_action to true なお、システムファームウェア 7.1.3.d 以降では、/SYS オブジェクトの clear_fault_action プロパティは削除されています。	注 - システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済み。 show /SP/faultmgmt コマンドで提供される FRU 名を使用して、障害をクリアしてください。
6624658	/SP/policy の HOST_LAST_POWER_STATE プロパティを enabled に設定しても、サービスプロセッサからシステムを停止しない場合は、次の AC 電源オン時に、システム電源が投入されます。 また、HOST_AUTO_POWER_ON プロパティを enabled に設定しても、サービスプロセッサからシステムを停止しない場合は、次の AC 電源オン時に、システム電源が投入されません。	注 - システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済み。 システムを停止するときは、サービスプロセッサ上のコマンドで停止させてください。 また、HOST_AUTO_POWER_ON プロパティを enabled に設定した場合には、HOST_POWER_ON_DELAY プロパティを enabled に設定する必要があります。
6613209	あるシステムから別のシステムに SCC チップを移動するとき、/HOST/diag trigger（または diag_trigger）に 2 つの値がある場合（power-on-reset error-reset など）、それらの値は SCC チップから新しいシステムに正確に復元されません。値の間に、スペースが挿入されない状態で復元されます（たとえば、power-on-reseterror-reset となります）。この結果、ホストのリセット時に POST が実行されません。	注 - システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済み。 あるシステムから別のシステムに SCC チップを移動するときは、/HOST/diag trigger の値が正しいことを確認してください。これらの値が正しくない場合は、必要な値に設定します。
6593801	すべてのプラットフォーム ID チェックが失敗した場合は、システムの電源投入機能を無効にする必要があります。一定数以上の FRU に障害が発生した場合、システムが ID を判別できなくなります。その結果、特定のコンポーネントが動作不能になり、サーバが機能停止に陥る可能性があります。	注 - システムファームウェア 7.1.3.d 以降で修正済み。

システムファームウェア7.1.0.g以降で修正済みの問題

表 A-15 システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6656072	POST 障害メッセージで、誤った CPU が指摘されることがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。
6654395	LDoms Manager がホストマシンでアクティブになっている場合、ホストマシンの電源がオンになっている間はサービスプロセッサをリセットしないでください。システムの電源がオンになっている間にサービスプロセッサをリセットした場合、LDoms Manager を正常に起動するには、マシンの電源をオフにしてもう一度オンにする必要があります。	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。
6652046	XAUI テストの失敗の種類によっては、対応する POST エラーメッセージが誤った情報を報告することがあります。POST エラーメッセージは、正しいポートを特定する一方で、誤ったスロット番号を報告することがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。 XAUI のポート番号とスロット番号は、SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバに対応します。ポート番号を使用してください。
6643177	ALOM CMT 互換の poweron コマンドにより、電源投入を実施すると、以下のようなメッセージを出力して、電源が投入できない場合があります。 sc> poweron Host poweron failed. poweron error: Internal error sc> poweron Error reading keyswitch value	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。 なし。
6639312	/SYS/MB/CMPx コンポーネントには、fault_state プロパティと clear_fault_action プロパティがあります。これらのコンポーネントは FRU ではないため、これらのプロパティは不要なものであり、障害状態になることや、障害状態をクリアすることはできません。 ただし、/SYS/MB/CMPx コンポーネントで障害が発生した場合、/SYS/MB ターゲットの fault_state プロパティは正しく更新されます。	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。 /SYS/MB/CMPx ターゲットの fault_state プロパティおよび clear_fault_action プロパティは無視します。/SYS/MB の fault_state プロパティおよび clear_fault_action プロパティを使用してください。

表 A-15 システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6618773	起動時に実行される診断ルーチン（IBIST）がメモリーコントローラユニット（MCU）を切り離すことで、エラーが発生することがあります。 エラーの例については、「起動時に実行される診断ルーチン（IBIST）が誤って MCU を切り離すことがある（CR 6618773）」（144 ページ）を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。 パッチ 127580-04 以降をインストールし、システムファームウェアを version 7.0.9 以降にアップデートします。
6594395	ldm set-variable コマンドを使用すると、LDoms 変数に任意の文字列を設定できます。LDoms 変数に無効な値が設定された場合、ブート中に OpenBoot PROM ファームウェアから警告メッセージが発行され、正しい値のリストが示されますが、問題の変数の名前は示されません。	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。 詳細は、『Logical Domains (LDoms) 1.0.1 リリースノート』を参照してください。
6592934	POST のテストサイクルが完了する前に POST がタイムアウトするというまれに発生するイベントでは、ファームウェアからコンソールに次のメッセージが発行されます。 <pre>ERROR: POST timed out. Not all system components tested.</pre> システムはブートを続行しますが、劣った状態での続行となります。ブートプロセス中に次のエラーメッセージが表示されます。 <pre>WARNING: Unable to connect to Domain Service providers WARNING: Unable to get LDOM Variable Updates WARNING: Unable to update LDOM Variable</pre> LDC チャネルに依存するプログラムまたはサービスはすべて、劣った状態で実行されることになるか、まったく実行されなくなります。LDC が機能する必要のあるプログラムは、ldmd、fmd、および eeprom です。	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。 ブート中に次のエラーがコンソールに表示された場合は、システムの電源をオフにしてからもう一度オンにし、POST が最後まで実行されるようにします。 POST を実行せずにブートすることもできます。

表 A-15 システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6567748	ドメインステータスが正確に報告されないことがあります。たとえば、あるドメインに関して報告されるステータスが、Solaris OS が動作していない場合に Running になることがあります。 この問題は、ILOM (BI と CLI) および ALOM CMT 互換の showplatform コマンドによってドメインステータスが報告される場合に発生します。 また、ILOM の制御 MIB にもあいまいさがありますが、プラットフォームエンティティの MIB にはそれがありません。したがって、あいまいなドメインステータスは、サードパーティーのシステム監視ツールがこのエントリを監視していれば、そのツールで確認できることがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。 すべての CLI および BI 出力からのドメインステータス情報および ILOM の制御 MIB のドメインステータスエントリからのドメインステータス情報を無視します。ドメインコンソールにアクセスして、ドメインの本当のステータスを取得します。
6543749	ゲストドメインの wanboot miniroot ダウンロードに 30 分以上かかることがあります。 仮想ネットワークデバイスを使用している場合、ワイドエリアネットワークを介してのブート時またはインストール時に miniroot をダウンロードするためにかかる時間が大幅に増加することがあります。 このパフォーマンス低下は、仮想ネットワークデバイスを使用してワイドエリアネットワークを介してブートまたはインストールしようとする場合のみ関係があります。物理ネットワークデバイスを使用した類似のブートまたはインストールは、仮想ネットワークデバイスからの従来のローカルエリアネットワークを介したブートまたはインストールと同様に、期待どおり機能します。	注 - システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済み。 仮想ネットワークデバイスを使用してワイドエリアネットワークを介してブートまたはインストールを実行するのに必要な時間に注意してください。

起動時に実行される診断ルーチン（IBIST）が誤ってMCUを切り離すことがある（CR 6618773）

この問題は、システムファームウェア 7.1.0.g 以降で修正済みです。

MCU が対応する DIMM モジュールおよび CPU コアから切り離され、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。

次に例を示します。

```
Chassis | major: Host has been powered on
Chassis | major: Dec 19 08:45:11 ERROR: MB/CMP0/MCU2 Failed IBIST, disabled
Fault | critical: SP detected fault at time Wed Dec 19 08:45:12
```

```

2007. /SYS/MB/CMP0/MCU2 Forced fail (IBIST)
Chassis | major: Dec 19 08:45:13 ERROR: MB/CMP0/MCU3 unused because
MB/CMP0/MCU2 is not configured
Chassis | major: Dec 19 08:45:13 ERROR: MB/CMP0/L2_BANK4,
MB/CMP0/L2_BANK5 unused because MB/CMP0/MCU2 is not configured
Chassis | major: Dec 19 08:45:13 ERROR: MB/CMP0/L2_BANK6,
MB/CMP0/L2_BANK7 unused because MB/CMP0/MCU3 is not configured
Chassis | major: Dec 19 08:45:13 ERROR: Degraded configuration:
system operating at reduced capacity
Chassis | major: Dec 19 08:45:13 ERROR: System DRAM Available:
008192 MB
Chassis | major: Dec 19 08:45:13 ERROR: Only 4 cores, up to 32 cpus
are configured because some L2_BANKS are unusable

```

回避方法：パッチ 127580-04 以降をインストールし、システムファームウェアを version 7.0.9 以降にアップデートします。

システムファームウェア7.0.9以降で修正済みの問題

表 A-16 システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6622444	PRIMECLUSTER GDS を用いたシステムボリュームのミラー構成において、ブートディスクの BOOT BLOCK 読み込み中に異常が発生すると、ブートパスが切り替わりません。このとき、以下のメッセージが出力され、ok プロンプトに戻ります。 Boot load failed. The file just loaded does not appear to be executable. {0} ok	注 - システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済み。 ok プロンプトに戻った場合は、再度 boot コマンドを実行して、Solaris OS を起動してください。
6616693	IPMI を使って情報を取得したとき、装置の "Product Part Number" などの情報が正しく表示されません。	注 - システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済み。 ILOM にログインして、/SYS などの情報を参照してください。
6615884 6614576	ILOM BI のヘルプメッセージが正しくありません。 ILOM BI の Configuration Serial Port タブに表示される情報は DB-9 コネクタの情報ですが、メッセージには RJ-45 コネクタの情報が表示されません。	注 - システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済み。 この相違に注意してください。

表 A-16 システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6612687	ホストポートのシリアルポートプロパティの表示または設定を繰り返すと、ILOM CLI が異常停止し、応答しなくなることがあります。	注 - システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済み。 ホストのシリアルポートプロパティをサービスプロセッサから設定しないでください。代わりに、Solaris OS からプロパティを設定します。ILOM CLI が異常停止した場合は、AC 電源をオフにしてからもう一度オンにして、システムをリセットする必要があります。
6597761	rm-io のあとに複数の set-vcpu 操作が続く場合、ファームウェアの異常終了または ldm のコアダンプが発生することがあります。 遅延再構成中に CPU が減設された場合は、その遅延再構成操作中に CPU をドメインに追加しないでください。	注 - システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済み。 可能な場合は、最初に既存の遅延再構成をキャンセルし、CPU の追加を適用します。または、ターゲットドメインをリブートして遅延再構成をコミットし、CPU の追加を適用します。 この制約事項に従わないと、状況によっては、ファームウェアから LDoms Manager に解析エラーが返され、LDoms Manager が異常終了することがあります。また、同じ遅延再構成操作で VIO デバイスが減設された場合は、LDoms Manager が異常終了してから再起動したときに、復旧操作を実行する必要性が誤って検出されます。その結果、壊れた構成が作成され、電源切断が発生します。
6593132	初期設定以外の LDoms 設定を持つ OpenBoot PROM 変数に対する変更が維持されません。 LDoms 変数に初期値以外が設定されている場合、LDoms 設定をサービスプロセッサに保存して、そのあとで初期値に戻すと、初期値に対する変更は電源をオフにしてもう一度オンにすると失われます。	注 - システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済み。 LDoms 変数を変更したあと、SP 設定を保存します。次に例を示します。 # ldm remove-sponfig my-new-config # ldm add-spconfig my-new-config
6586624	Solaris OS の prtdiag コマンドと prtptcl コマンドが、次のような場合に完全な情報を表示しないことがあります。 - prtdiag -v オプションを指定した場合、ファームウェアバージョンとシャーシのシリアル番号が表示されないことがあります。 - prtptcl コマンドでは、物理プラットフォームセクションが表示されないことがあります。	注 - システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済み。 「prtptcl コマンドおよび prtdiag コマンドで表示されない情報 (CR 6586624)」(146 ページ) の説明に従い、別な方法を使用して必要な情報を取得してください。

prtptcl コマンドおよび prtdiag コマンドで表示されない情報 (CR 6586624)

この問題は、システムファームウェア 7.0.9 以降で修正済みです。

prtdiag コマンドで、Environmental Status および FRU Status が表示されないことがあります。-v オプション（詳細）を指定した場合、ファームウェアバージョンおよび Chassis Serial Number も表示されないことがあります。

さらに、prtpicl コマンドでは、物理プラットフォームセクションが表示されないことがあります。

次の方法のいずれかを代わりに使用して、表示されない情報を取得します。

- prtdiag コマンドの代わり – 次の ALOM CMT 互換 CLI コマンドを使用します。

```
sc> showenvironment - displays the system's environmental status
sc> showfru component NAC - displays a component's FRU status
sc> showplatform - displays the Chassis Serial Number
sc> showhost - displays the firmware version
```

- prtpicl コマンドの代わり – ILOM CLI および ILOM グラフィカルユーザーインタフェースで show SYS コマンドのターゲットをウォークスルーします。詳細は、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。

その他のソフトウェアで修正済みの問題

表 A-17 その他のソフトウェアで修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6636098	内蔵ファンの故障を誤検出し、Enhanced Support Facility ソフトウェアや Server System Manager ソフトウェアに誤って通知し、エラーメッセージが表示されることがあります。 例については、「 内蔵ファンの故障を誤検出する (CR 6636098) 」(147 ページ) を参照してください。	注 -Enhanced Support Facility のパッチ 914604-04 で修正済み。 このエラーは無視できます。

内蔵ファンの故障を誤検出する（CR 6636098）

内蔵ファンの故障を誤検出し、Enhanced Support Facility ソフトウェアや Server System Manager ソフトウェアに誤って通知し、以下のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

Enhanced Support Facility ソフトウェアのメッセージ例：

```
FJSVmadm:A:FANBD0/FM0/F0/TACH:FJSVmadm:Detected failure on the fan
```

(内蔵ファンの位置。表示する内容は環境によって変わります。)

Server System Manager ソフトウェアのメッセージ例：

```
SSMAPL:A::FJSVapplg::status was changed. (component:"FANBD0/FM0" from "normal"
to "fatal")
```

(内蔵ファンの位置。表示する内容は環境によって変わります。)

ただし、ILOM のステータス確認コマンド (showenvironment コマンドなど) は正常な状態を表示します。

内蔵ファンが実際に故障している場合には、以下のようなメッセージが表示されます。

この事象に該当する場合は、内蔵ファンの誤検出により、以下のようなメッセージは表示されません。

```
sc> showfaults
Last POST Run: Fri May 16 14:27:39 2008

Post Status: Passed all devices
ID FRU Fault
1 /SYS/FANBD0/FM0 SP detected fault: TACH at /SYS/FANBD0/FM0/F0 has
exceeded low non-recoverable threshold.
```

回避方法：このエラーは無視できます。また、Enhanced Support Facility については、パッチ 914604-04 で修正されています。Server System Manager については回避方法はありません。

付録 B

修正予定がない軽微な事象

この付録では、SPARC Enterprise T5120 サーバおよび T5220 サーバに関する軽微な事象について説明します。これらの事象の修正予定はありません

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する事象

表 B-1 に、ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象の一覧を示します。

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象

CR ID	説明	回避方法
11215994	非常にまれですが、POST 実行後、ok プロンプトが表示されないことがあります。	「POST 完了後、ok プロンプトが表示されない (CR 11215994)」(155 ページ) を参照してください。
6952927	システムファームウェア 7.2.8 以降が適用されている環境で、ILOM 設定の復元を実施後、7.2.8 未満にダウングレードすると、過去の ILOM イベントログの一部のみ表示されることがあります。 詳細は、「システムファームウェアのダウングレード後、過去の ILOM イベントログの一部のみが表示される場合がある (CR 6952927)」(155 ページ) を参照してください。	なし。 新規に発生した ILOM のイベントログは正常に採取されます。

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象（続き）

CR ID	説明	回避方法
6883269	システムファームウェア 7.2.2.e 以降から、システムファームウェア 7.1.6.j 以前へのファームウェアダウングレード後、<code>prtdiag -v</code> 実行時に、<code>I_USB0</code> および <code>I_USB1</code> の Condition が fail と表示されることがあります。電源コードの抜き差しにより、復旧可能です。 <code>prtdiag -v</code> コマンド表示例： Voltage indicators: <pre>----- Location Indicator Condition ----- SYS/MB VCORE_POK ok SYS/MB VMEML_POK ok SYS/MB VMEMR_POK ok SYS/MB I_USB0 fail <- SYS/MB I_USB1 fail <-</pre>	なし。
6856315	<code>show /SP/user/adminusr password</code> を使用すると、<code>show: Invalid command syntax</code> が表示されます。本来は「*****」が表示されるはずです。	なし。
6837115	ILOM Web インタフェースの "Alert Management" で、Level: minor、Type: IPMI PET と設定した状態から Type を SNMP Trap に変更すると、Level の設定が disable に変わってしまいます。再度 Level を設定しなおしてください。	なし。
6835854	ILOM の NET-MGT ポートに LAN ケーブルが接続されていない、かつネットワークゲートウェイ設定を行わない場合、ILOM のネットワーク設定を行うことができません。	なし。
6779753	出力例については、「ILOM のネットワーク設定を行うことができない場合がある (CR 6835854、6779753)」(156 ページ) を参照してください。	ILOM の NET-MGT ポートに LAN ケーブルを接続してから、ネットワークの設定を行ってください。
6830397	ILOM 3.0 において、<code>/HOST/diag mode</code> プロパティ、または、ALOM CMT 互換シェルの <code>diag_mode</code> プロパティに "service" を設定することはできません。 設定した場合、"unknown" と表示されます。	なし。 以下の設定により、"service" の設定と同等のモードで POST 診断を行うことができます。 <pre>/HOST/diag mode = normal /HOST diag level = max /HOST verbosity = max</pre>

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象（続き）

CR ID	説明	回避方法
6815369	DC 入力電源モデルにおいて、/PS0/AC_POK、/PS0/DC_POK は、電源装置におけるセンサーの名称です。/PS0/AC_POK は、AC 電源装置を意味するものではありません。例については、「 DC 入力電源モデルにおいて、/PS0/AC_POK が表示される（CR 6815369） 」（157 ページ）を参照してください。	なし。
6762635	POST 実行中に、以下のいずれかのメッセージが出力され、POST 処理が完了しないことがあります。 また、OpenBoot PROM に遷移する場合があります。 メッセージ例： Fault Sensor VMEML_POK at /SYS/MB deasserted Fault Sensor VCORE_POK at /SYS/MB deasserted Fault Sensor VMEMR_POK at /SYS/MB deasserted	[復旧手順] 電源コードを取り外し、再度電源コードを接続してください。
6761778	以下のエラーメッセージが表示されることがあります。 メッセージ例： picld[154]: [ID 276222 daemon.error] PICL snmpplugin: sunPlatSensorClass 0 unsupported (row=388)	メッセージを無視してください。
6752910	ILOM よりホストの電源投入指示を実施したときに、POST が開始されず、Solaris OS ブート処理または、OpenBoot PROM の ok プロンプトに移行しないことがあります。 詳細は、「 ILOM からホストの電源投入指示を実行したときに、POST が開始されず、OS ブート処理または、ok プロンプトに移行しないことがある（CR 6752910） 」（158 ページ）を参照してください。	ホストの電源切断後、次に電源を投入する場合は、3 分以上の間隔をあけるようにしてください。
6739633	ホストの電源がオフの状態、ILOM Web インタフェース（System Information タブ→Components タブ）より選択した部品に対して、prepare_to_remove を実行するとラジオボタンが消えてしまうことがあります。該当部品の Ready to Remove Status は NotReady から Ready (No Power) に変わりますが、ラジオボタンが消えており、Return to Service を行うことができません。	CLI より以下のように設定を行ってください。 • set /SYS/（該当部品を指定） return_to_service_action=true

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象（続き）

CR ID	説明	回避方法
6739602	/SP/clients/activedirectory の logdetail プロパティを none 以外に設定すると、Active Directory を無効（state=disabled）に設定しても、以下の Active Directory の認証失敗メッセージが表示されることがあります。 <pre>sc> ActDir critical: (ActDir) authentication status: auth-ERROR</pre>	Active Directory を無効にしている場合は、メッセージを無視してください。
6738510	特定コマンド（create, delete, exit, load, reset, set, start, stop, version）に -t オプションを指定すると、ILOM CLI から強制ログアウトすることがあります。	なし。
6726663	ILOM モードおよび ILOM Web において、システム電源オンのときに時刻の設定ができてしまいます。	ILOM モードの場合、システム電源オンのときは、以下のプロパティにおいて、時刻を設定したり、NTP 設定を有効にしたりしないでください。 <pre>-> show /SP/clock</pre> <pre>/SP/clock Targets: Properties: datetime = Wed Dec 3 06:22:48 2008 usentpserver = disabled Commands: cd set show</pre> ->
6723410	サービスプロセッサにログインし、コマンドを実行し、ログアウトすることを連続で繰り返し実行すると、ログアウトに失敗することがあります。	問題が発生した場合は、アクセスしているクライアント側で、ログインセッションを切断してください。
6722640	ブート時に次のようなメッセージが表示されることがあります。SNMP を利用している場合、一部のセンサー情報を取得できない場合があります。 <pre>picld[xxx]: PICL snmpplugin: sunPlatSensorClass 0 unsupported</pre>	SNMP を利用していない場合には影響ありません。
6659980	Solaris OS を再起動したとき、OpenBoot PROM が "ERROR: Unable to disown USB port 3" のエラーメッセージを出力することがあります。 詳細は、「Solaris OS を再起動したとき、OpenBoot PROM がエラーメッセージを出力することがある（CR 6659980）」（159 ページ）を参照してください。	なし。 システムおよび USB デバイスに影響はないため、このメッセージは無視してください。

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象（続き）

CR ID	説明	回避方法
6587380	Solaris OS の <code>prtdiag -v</code> コマンドが、Voltage Indicator セクションに無電圧情報を表示します。	電圧情報および無電圧情報（PS0/TEMP_FAULT など）は正確で、コンポーネントの現在の状態を示していることに注意してください。
6585292	ILOM の <code>reset /SP</code> コマンドおよび ALOM CMT 互換の <code>resetsc</code> コマンドの出力には、外部からの警告メッセージや誤解を招く警告メッセージが表示されます。 誤解を招くメッセージの例については、「SP をリセットすると外部からの警告メッセージが生成される（CR 6585292）」（160 ページ）を参照してください。	外部からの警告メッセージは無視してください。
6585114	自動テスト時、 <code>useradd</code> コマンドおよび <code>usershow</code> コマンドに関する問題が SP に発生し、そのあとすぐに、すべてのログイン試行が失敗することがあります。	システムの AC 電源をオフにして、もう一度オンにします。
6568750	SP にログインするスクリプトが 60 秒後にタイムアウトすることがあります。 このエラーが発生すると、次のようなエラーメッセージが表示されます。 Logging out after 60 seconds. 注 - このエラーは通常のログインでは表示されず、スクリプトによるログイン時にのみ表示されます。	スクリプトを使用して SP にログインする場合は、この問題に注意してください。

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象（続き）

CR ID	説明	回避方法
なし	システム電源オフ指示の実行後、電源 OK LED がシステム電源オフ状態を意味する STANDBY BLINK の状態に遷移しないことがあります。このとき、showenvironment コマンドにおける /SYS/ACT ステータスが ON もしくは SLOW BLINK と表示されます。 事象発生時のALOMコマンド結果 showplatform: <pre>sc> showplatform SUNw,SPARC-Enterprise-T5120 Chassis Serial Number: BEL08056W0 Domain Status ----- S0 Powered off <-- 正常にシステム電源オフになる。</pre> showenvironment: <pre>sc> showenvironment : ----- System Indicator Status: ----- /SYS/LOCATE /SYS/SERVICE /SYS/ACT OFF OFF ON <--</pre> ※ON もしくは、SLOW BLINK と表示されま す。正常時は、STANDBY BLINKと表示されま す。	なし。 次にシステム電源オンを指示することにより、事象は自動で復旧するため対処は不要です。よって、この事象は無視してください。 手動でこの事象を復旧させる場合には、ILOM のリセットを実施してください。
なし	POST 中に以下のエラーメッセージが出力される場合があります。システムに影響のないメッセージのため、無視してください。 <pre>0:0:0>Begin: Block Mem Test 0:0:0>Block Mem Test 00000000. 02000000- >000000008. 00000000 0:0:0> FBR Error Tally Branch <u>3</u> = <u>2</u></pre> <u> </u> = 不定値	なし。

POST完了後、okプロンプトが表示されない (CR 11215994)

非常にまれですが、POST 実行後、ok プロンプトが表示されないことがあります。

回避方法：この現象が発生した際には、ALOM CMT 互換の `showfaults -v` コマンドを実行して POST のステータスを確認してください。Last POST Run が現在実行した POST の日時を示しており、POST Status が "Passed all devices" と表示される場合、POST は正常終了しています。ALOM CMT 互換の `resetsc` コマンドを実行後、ALOM CMT 互換の `poweroff` コマンド、`poweron` コマンドの順序に実行してください。

```
2008-04-29 17:10:35.407 0:0:0>.....
2008-04-29 17:10:57.749 0:0:0>End   : Block Mem Test
2008-04-29 17:10:57.757 0:0:0>INFO:
2008-04-29 17:10:57.766 0:0:0> POST Passed all devices.
2008-04-29 17:10:57.783 0:0:0>POST:      Return to VBSC.
2008-04-29 17:10:57.795 0:0:0>Master set ACK for vbosc runpost
command and spin...
/
sc>
sc> showfaults -v
Last POST Run: Tue Apr 29 17:10:58 2008

Post Status: Passed all devices
No failures found in System
sc>
```

システムファームウェアのダウングレード後、過去のILOGMイベントログの一部のみが表示される場合がある (CR 6952927)

システムファームウェア 7.2.8 以降が適用されている環境で、ILOGM 設定の復元を実施後、7.2.8 未満にダウングレードすると、過去の ILOGM イベントログの一部のみ表示されることがあります。

イベントログ例：

本来は ID 4461 より古いログが存在しますが、それらが表示されません。

```
-> show /SP/logs/event/list
/SP/logs/event/list
Targets:
```

Properties:

Commands:

cd
show

ID	Date/Time	Class	Type	Severity
-----	-----	-----	-----	-----
4463	Mon Apr 5 06:51:54 2010	Audit	Log	minor
	root : Open Session : object = /session/type : value = shell : success			
4462	Mon Apr 5 06:39:11 2010	Audit	Log	major
	Upgrade Succeeded			
4461	Mon Apr 5 06:32:18 2010	Audit	Log	minor
	root : Set : object = /config/load_uri : value = ftp://root:*****@192.9.2 00.254/export/LOG/ilom_backup/LE4-3_728.config : success			

回避方法：なし。新規に発生した ILOM のイベントログは正常に採取されます。

ILOMのネットワーク設定を行うことができない場合がある（CR 6835854、6779753）

ILOM の NET-MGT ポートに LAN ケーブルが接続されていない、かつネットワークゲートウェイ設定を行わない場合、ILOM のネットワーク設定を行うことができません。

設定不可時の出力例：

```
-> set /SP/network/ pendingipdiscovery=static
Set 'pendingipdiscovery' to 'static'

-> set /SP/network/ pendingipaddress=192.9.200.33
Set 'pendingipaddress' to '192.9.200.33'

-> set /SP/network/ pendingipnetmask=255.255.255.0
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'

-> set /SP/network/ commitpending=true
set: Unable to get network management property

->
-> show /SP/network/ -d properties

/SP/network
Properties:
    commitpending = (Cannot show property)
```

```
dhcp_server_ip = none
ipaddress = (none)
ipdiscovery = (none)
ipgateway = (none)
ipnetmask = (none)
macaddress = (none)
pendingipaddress = 192.9.200.33
pendingipdiscovery = static
pendingipgateway = (none)
pendingipnetmask = 255.255.255.0
state = disabled
```

回避方法：なし。ILOM の NET-MGT ポートに LAN ケーブルを接続してから、ネットワークの設定を行ってください。

DC入力電源モデルにおいて、/PS0/AC_POK が表示される（CR 6815369）

DC 入力電源モデルにおいて、/PS0/AC_POK、/PS0/DC_POK は、電源装置におけるセンサーの名称です。/PS0/AC_POK は、AC 電源装置を意味するものではありません。

たとえば、DC 電源コードの抜き差し時に、以下のようなイベントログが採取されます。

[DC 電源コードを抜いたとき]

```
IPMI |minor : "ID = 1cec : 02/06/2009 : 04:00:26 : Power Supply
: /PS0/AC_POK : State Deasserted" <--(*)
IPMI |minor : "ID = 1ced : 02/06/2009 : 04:00:26 : Power Supply
: /PS0/DC_POK : State Deasserted"
IPMI |minor : "ID = 1cee : 02/06/2009 : 04:00:26 : Power Supply
: /PS0/FAIL : State Asserted"
```

[DC 電源コードを挿したとき]

```
IPMI |minor : "ID = 1cef : 02/06/2009 : 04:00:59 : Power Supply
: /PS0/AC_POK : State Asserted" <--(*)
IPMI |minor : "ID = 1cf0 : 02/06/2009 : 04:00:59 : Power Supply
: /PS0/DC_POK : State Asserted"
IPMI |minor : "ID = 1cf1 : 02/06/2009 : 04:00:59 : Power Supply
: /PS0/FAIL : State Deasserted"
```

回避方法：なし

ILOMからホストの電源投入指示を実行したときに、POSTが開始されず、OSブート処理または、okプロンプトに移行しないことがある（CR 6752910）

ILOM からホストの電源投入指示を実行したときに、POST が開始されず、Solaris OS ブート処理または、OpenBoot PROM の ok プロンプトに移行しない場合があります。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> start /SYS
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
SC> poweron
SC> console
Enter #. to return to ALOM.
```

OS コンソールには、何も表示されません。エスケープ文字 "**#.**" を入力すると、ILOM プロンプトに復帰します。Domain Status の内容は限定されません。また、イベントログには電源投入のログがされない場合があります。

[showplatform コマンド、showlogs コマンドのドメイン状態参照例]

```
SC> showplatform
SUNW,SPARC-Enterprise-T5120

Domain Status
-----
S0      Powered off * Domain Status: "Powered on", "Powered off",
"OpenBoot initializing", "Unknown" など
SC>

SC> showlogs -p p

Log entries since Sep 29 12:45:39
-----
Sep 29 12:45:39: Chassis |major    : "Host has been powered on"
Sep 29 12:49:28: Chassis |major    : "Host is running"
Sep 29 12:49:43: Chassis |critical: "Host has been powered off"
Sep 29 12:50:47: Chassis |major    : "Host has been powered on"
```



```
Sep 29 12:54:35: Chassis |major   : "Host is running"
Sep 29 12:54:51: Chassis |critical: "Host has been powered off"
* このあとに "Host has been powered on" のログがない。
sc>
```

Solaris OSを再起動したとき、OpenBoot PROM がエラーメッセージを出力することがある（CR 6659980）

Solaris OS を再起動したとき、OpenBoot PROM が "ERROR: Unable to disown
USB port 3" のエラーメッセージを出力することがあります。

現象例：

```
# shutdown -i6 -g0 -y

Shutdown started.      Tue Apr 13 16:10:09 JST 2010

Changing to init state 6 - please wait
Broadcast Message from root (console) on xxxxxxxx Tue Apr 13 16:10:09...
THE SYSTEM maramba1 IS BEING SHUT DOWN NOW !!!
Log off now or risk your files being damaged

# svc.startd: The system is coming down.  Please wait.
svc.startd: 101 system services are now being stopped.
Apr 13 16:10:23 xxxxxxxx syslogd: going down on signal 15
svc.startd: The system is down.
syncing file systems... done
rebooting...
Resetting...
ERROR: Unable to disown USB port 3                <--

Txxxx, No Keyboard
Copyright 2010 Sun Microsystems, Inc.  All rights reserved.
OpenBoot 4.30.7, 7968 MB memory available, Serial #XXXXXXX.
Ethernet address XX:XX:XX:XX:XX:XX, Host ID: XXXXXXXX.

Boot device: disk  File and args:
SunOS Release 5.10 Version Generic_141444-09 64-bit
Copyright 1983-2009 Sun Microsystems, Inc.  All rights reserved.
Use is subject to license terms.
Hostname: xxxxxxxx
```

```
/dev/rdisk/clt0d0s7 is clean
Reading ZFS config: done.

xxxxxxx console login:
```

回避方法：なし。システムおよび USB デバイスに影響はないため、このメッセージは無視してください。

SPをリセットすると外部からの警告メッセージが生成される（CR 6585292）

次の引用は、無視すべき外部からのメッセージを示しています。

```
sc> resetsc [similar messages are also displayed for the reset /SP command]
...
Linux version 2.4.22 (kbellew@sanpen-rh4-0) (gcc version 3.3.4) #2 Wed Jul 18
19:25:18 PDT 2007 r21410
Loading modules: fpga Warning: loading /lib/modules/2.4.22/misc/fpga/fpga.o will
taint the kernel: non-GPL license - Proprietary
  See http://www.tux.org/lkml/#export-tainted for information about tainted
modules
...
Module fpga loaded, with warnings
fpga_flash Warning: loading /lib/modules/2.4.22/misc/fpga_flash/fpga_flash.o
will taint the kernel: no license
  See http://www.tux.org/lkml/#export-tainted for information about tainted
modules
Module fpga_flash loaded, with warnings
immap Warning: loading /lib/modules/2.4.22/misc/immap/immap.o will taint the
kernel: no license
Refer to: http://www.tux.org/lkml/#export-tainted for information about tainted
modules
Module immap loaded, with warnings
...
EXT3-fs warning: maximal mount count reached, running e2fsck is recommended
EXT3 FS 2.4-0.9.19, 19 August 2002 on tffs(100,1), internal journal
EXT3-fs: mounted filesystem with ordered data mode.
kjournald starting. Commit interval 5 seconds
EXT3-fs warning: maximal mount count reached, running e2fsck is recommended
...
ipt_recent v0.3.1: ... < ... >. http://snowman.net/projects/ipt_recent/
arp_tables: (C) 2002
802.1Q VLAN Support v1.8 ... < ... >
All bugs added by ...
```